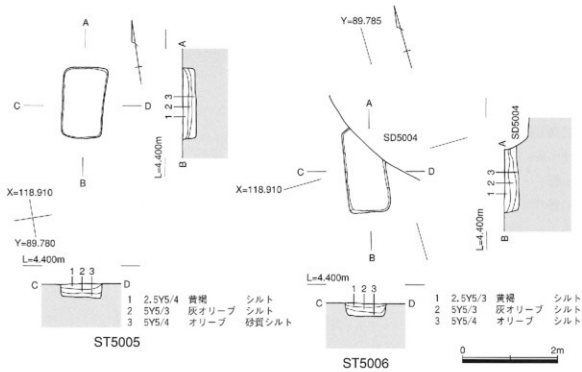


第161図　南区（2004年度３区）ST5005・ST5006平・断面図

土壙墓（ST5005）（第161図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドε－Ⅲ、小グリッドC－17に位置する。

規模と形状

検出長1.50m、最大幅0.85m、最大深度0.28mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は３層に分層した。１層は黄褐色を呈するシルト層である。２層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。３層はオリーブ色を呈する砂質シルト層である。

土壙墓（ST5006）（第161図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドε－Ⅲ、小グリッドC－17に位置する。

規模と形状

検出長1.80m、最大幅0.76m、最大深度0.30mの四角形である。

土層

遺構の堆積土は３層に分層した。１層は黄褐色を呈するシルト層である。２層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。３層はオリーブ色を呈するシルト層である。

（11）2000年度３区（第１遺構面）

溝（SD1001）（第163図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR、S－８に位置する。

規模と形状

検出長4.85m、最大幅0.85m、最大深度0.20mの溝である。

土層

遺構の堆積土は２層に分層した。１層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。２層は暗黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD1002）（第163図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドO～S－６～８に位置する。

規模と形状

検出長19.90m、最大幅1.65m、最大深度0.25mの溝である。南側はN－10°－Wを軸とした直線状を呈するが、北端では西へ屈曲している。

土層

遺構の堆積土は３層に分層した。すべて黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD1003）（第164図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR－８に位置する。

規模と形状

検出長1.05m、最大幅0.90m、最大深度0.40mの溝である。

土層

遺構の堆積土は２層に分層した。１層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。２層は灰黄色を呈するシルト層である。

溝（SD1004）（第164図）

位置

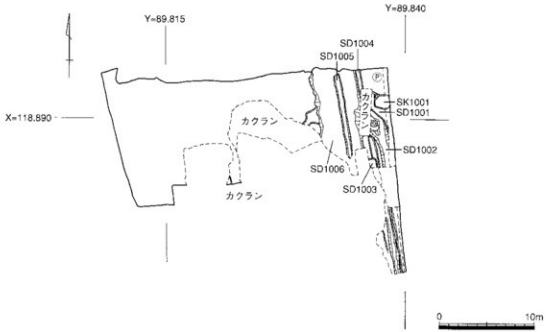
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドO～R－８に位置する。

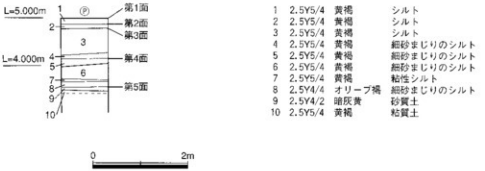
規模と形状

検出長10.40m、最大幅0.45m、最大深度0.30mの溝である。N－12°－Wを軸にした直線状を呈する。

土層

遺構の堆積土は２層に分層した。１層はにぶい黄色を呈するシルト層である。２層は灰黄色を呈するシルト層である。





第162図　南区（2000年度３区）第１遺構面　調査区遺構平面図・土層柱状図

溝（SD1005）（第165図）

位置

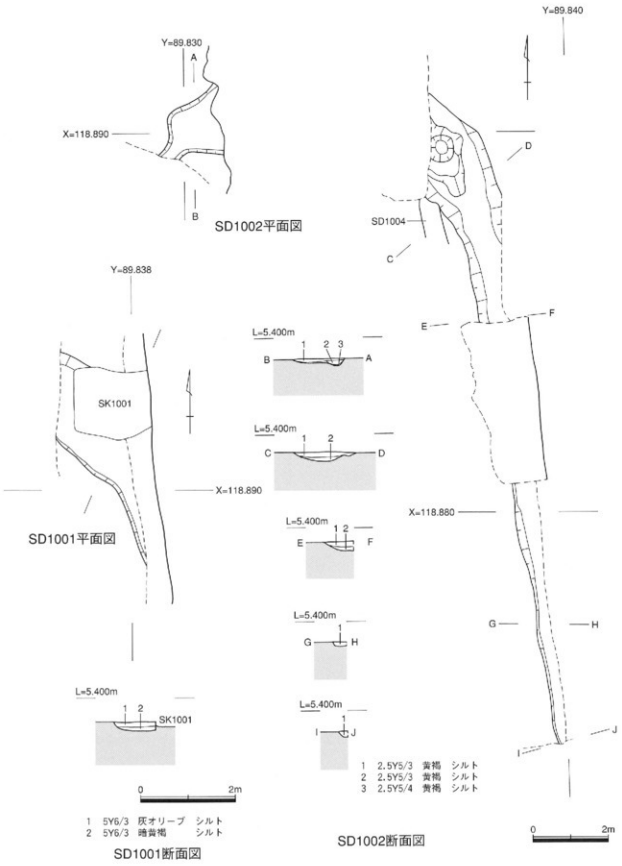
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR、S－７に位置する。

規模と形状

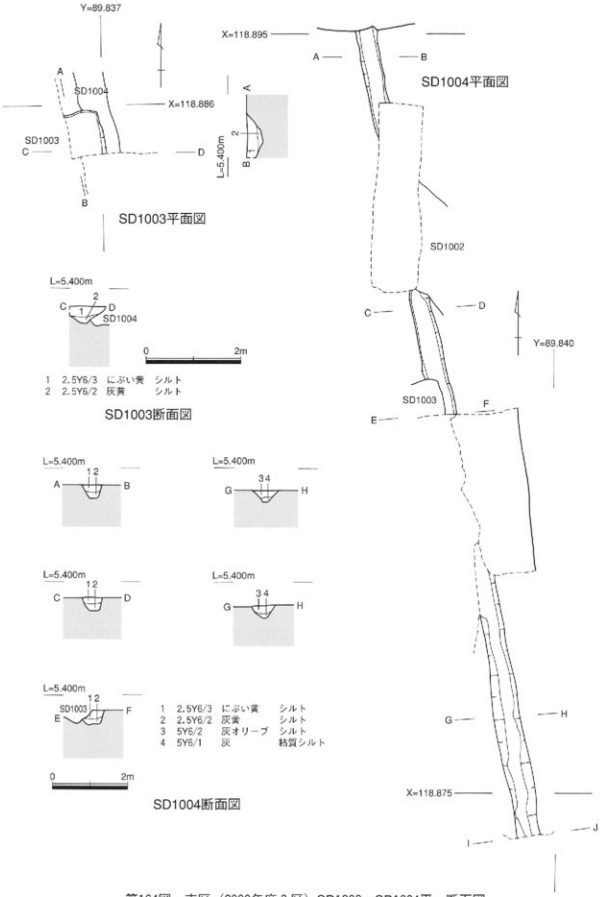
検出長9.00m、最大幅0.60m、最大深度0.30mの溝である。N－10°－Wを軸とした直線状を呈する。

土層

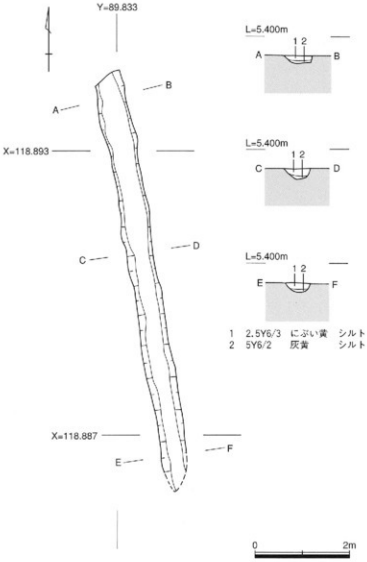
遺構の堆積土は２層に分層した。１層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。２層は灰黄色を呈するシルト層である。



第163図　南区（2000年度３区）SD1001・SD1002平・断面図



第164図　南区（2000年度３区）SD1003・SD1004平・断面図



第165図　南区（2000年度３区）SD1005平・断面図

溝（SD1006）（第166図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドP～T－７、８に位置する。

規模と形状

検出長21.25m、最大幅5.00m、最大深度0.55mの幅の広い溝状である。

土層

A－Bは５層に分層した。１層～４層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。５層は黄褐色を呈するシルト層である。

C－Dは５層に分層した。２層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。６層、７層は黄褐色を呈するシルト層である。８層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。９層はオリーブ黄色を呈するシルト層である。

E－Fは３層に分層した。２層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。10層は灰オリーブ色を呈す

るシルト層である。11層は暗灰黄色を呈するシルト層である。

G－Hは3層に分層した。2層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。10層は暗黄褐色を呈するシルト層である。11層は、黄褐色を呈するシルト層である。

出土遺物・時期

137は瓦器椀である。138は土師器の椀である。時期は13世紀前半頃である。

溝（SD1007）（第166図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドQ－5に位置する。

規模と形状

検出長0.80m、最大幅0.70m、最大深度0.15mの溝である。

土坑（SK1001）（第167図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－8に位置する。

規模と形状

検出長1.08m、最大幅0.97m、最大深度0.07mの正方形である。

土層

遺構の堆積土は灰色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK1002）（第167図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－8に位置する。

規模と形状

検出長0.33m、最大幅0.32m、最大深度0.08mの不整円形である。

土層

遺構の堆積土は、にぶい黄色を呈する砂質土による単一層である。

土坑（SK1003）（第167図）

位置

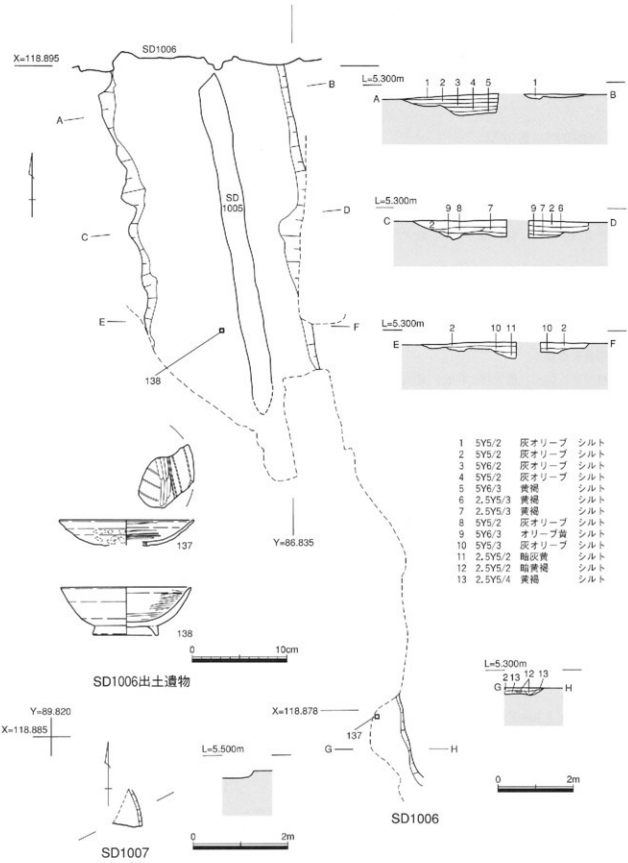
大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－8に位置する。

規模と形状

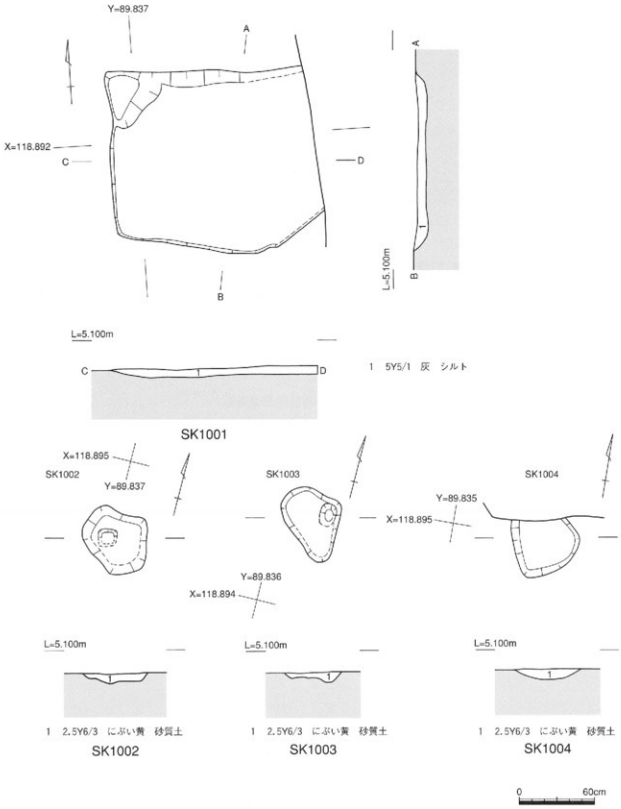
検出長0.34m、最大幅0.29m、最大深度0.09mの不整円形である。

土層

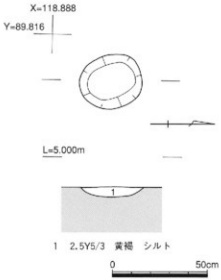
遺構の堆積土は、にぶい黄色を呈する砂質土による単一層である。



第166図　南区（2000年度３区）SD1006・SD1007平・断面図・遺物出土状況ドット図・SD1006出土遺物



第167図 南区（2000年度３区）SK1001・SK1002・SK1003・SK1004平・断面図



第168図　南区（2000年度３区）SP1001平・断面図

土坑（SK1004）（第167図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－８に位置する。

規模と形状

検出長0.35m、最大幅0.31m、最大深度0.09mの不整円形である。

土層

遺構の堆積土は、にぶい黄色を呈する砂質土による単一層である。

柱穴（SP1001）（第168図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR－４に位置する。

規模と形状

検出長0.33m、最大幅0.29m、最大深度0.05mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

(12) 2000年度３区（第２遺構面）

溝（SD2001）（第170図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－３～６に位置する。

規模と形状

検出長15.20m、最大幅1.60m、最大深度0.15mの溝である。N－82°－Wを軸に蛇行している。

土層

遺構の堆積土は４層に分層した。すべて黄褐色を呈するシルト層である。４層と５層の一部に炭化物を含む。

溝（SD2002）（第170図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS、T－７、８に位置する。

規模と形状

検出長5.05m、最大幅1.50m、最大深度0.30mの溝である。

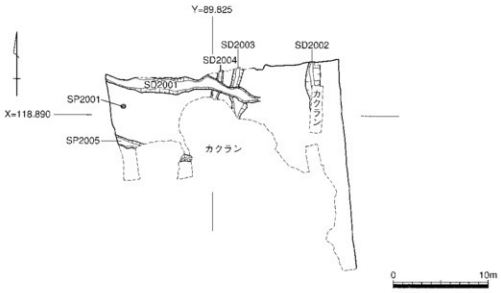
土層

遺構の堆積土は３層に分層した。１層は灰黄色を呈するシルト層である。２層は黄褐色を呈するシルト層である。３層は灰黄色を呈するシルト層である。

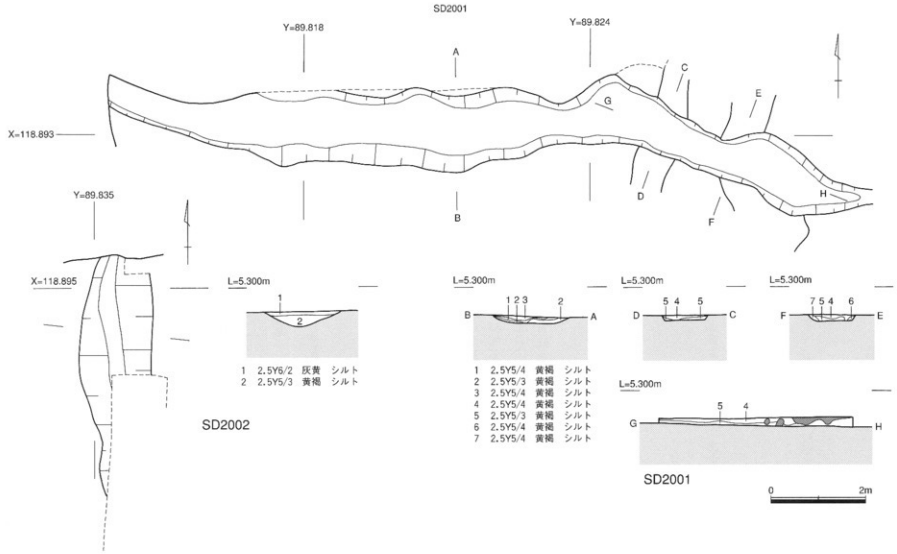
溝（SD2003）（第171図）

位置

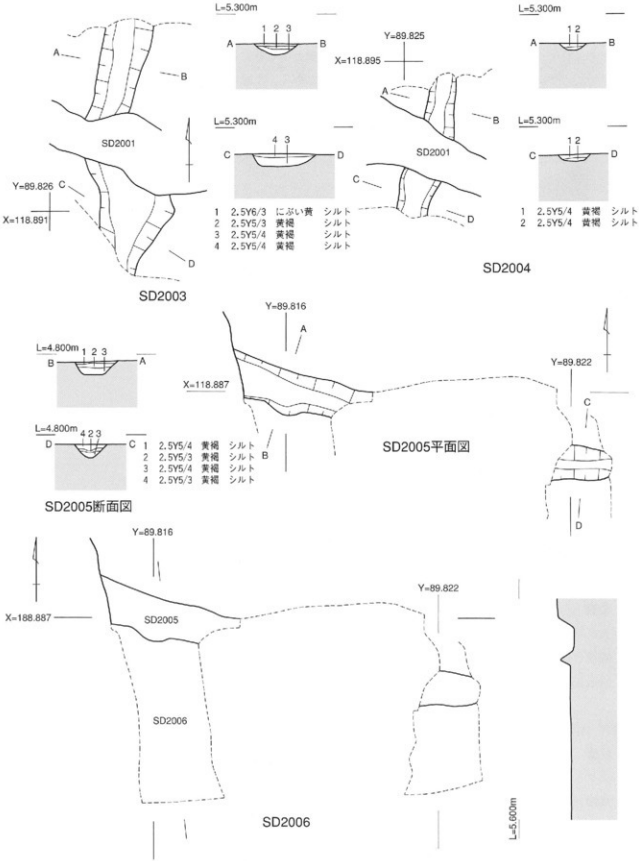
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－６に位置する。



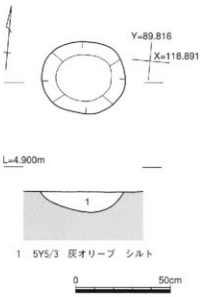
第169図　南区（2000年度３区）第２遺構面　調査区遺構平面図



第170図　南区（2000年度３区）SD2001・SD2002平・断面図



第171図　南区（2000年度３区）SD2003・SD2004・SD2005・SD2006平・断面図



第172図　南区（2000年度３区）SP2001平・断面図

規模と形状

検出長5.45m、最大幅1.35m、最大深度0.27mの溝である。

土層

遺構の堆積土は４層に分層した。１層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。２層～４層は黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD2004）（第171図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－６に位置する。

規模と形状

検出長3.15m、最大幅0.65m、最大深度0.15mの溝である。

土層

遺構の堆積土は２層に分層した。１層、２層は黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD2005）（第171図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR－４、５に位置する。

規模と形状

検出長8.20m、最大幅0.90m、最大深度0.28mの溝である。

土層

遺構の堆積土は４層に分層した。すべて黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD2006）（第171図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドQ、R－４、５に位置する。

規模と形状

検出長7.25m、最大幅3.65mの長方形である。

柱穴（SP2001）（第172図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－４に位置する。

規模と形状

検出長0.45m、最大幅0.37m、最大深度0.11mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

(13) 2000年度3区（第3遺構面）

溝（SD3001）（第173図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドQ～S－2～8に位置する。

規模と形状

検出長31.20m、最大幅1.20m、最大深度0.40mの溝である。N－73°－Wを軸とした直線状を呈する。

土層

遺構の堆積土は7層に分層した。すべて黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD3002）（第173図）

位置

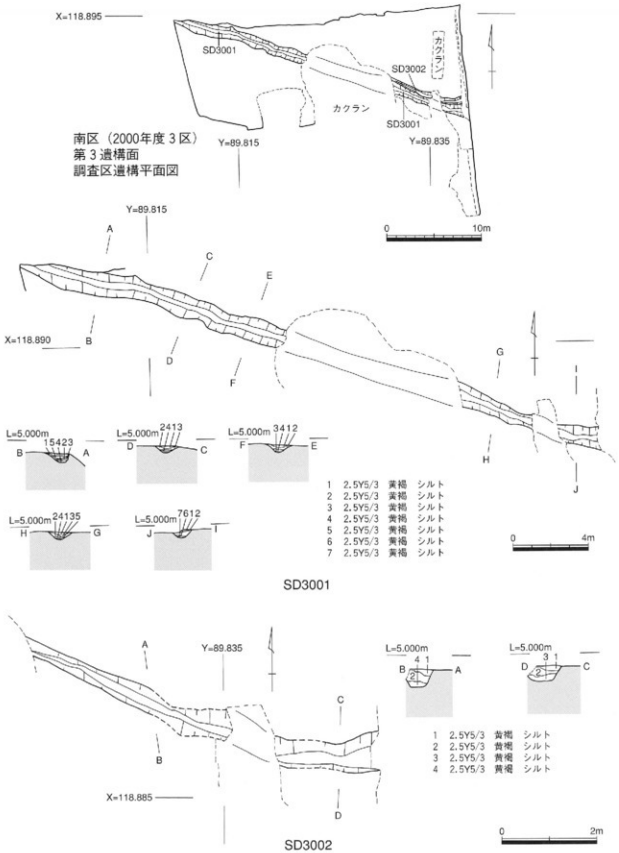
大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR－7、8に位置する。

規模と形状

検出長7.15m、最大幅0.60、最大深度0.38mの溝である。N－73°－Wを軸としているが、やや蛇行している。

土層

遺構の堆積土は4層に分層した。すべて黄褐色を呈するシルト層である。



第173図　南区（2000年度３区）第３遺構面　調査区遺構平面図
SD3001・SD3002平・断面図

(14) 2000年度３区（第４遺構面）

溝（SD4001）（第175図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR、S－６に位置する。

規模と形状

検出長8.73m、最大幅1.05m、最大深度0.15mの溝である。N－83°－Eを軸とした直線状を呈する。

土層

遺構の堆積土は２層に分層した。１層は黄褐色を呈するシルト層である。２層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4001）（第176図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－７に位置する。

規模と形状

検出長0.56m、最大幅0.55m、最大深度0.09mの円形である。

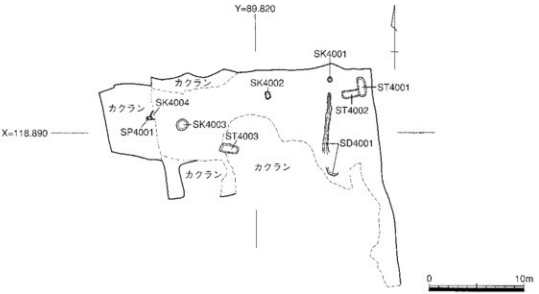
土層

遺構の堆積土は２層に分層した。１層、２層は黄褐色を呈するシルト層である。

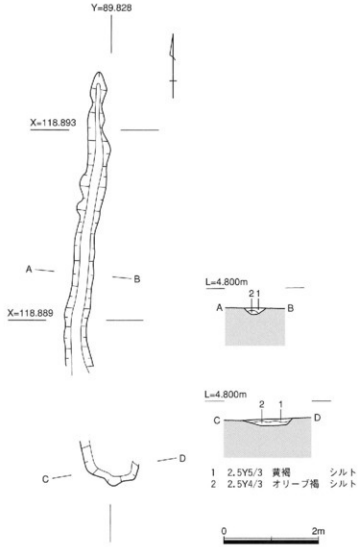
土坑（SK4002）（第176図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－５に位置する。



第174図　南区（2000年度３区）第４遺構面　調査区遺構平面図



第175図　南区（2000年度３区）SD4001平・断面図

規模と形状

検出長0.79m、最大幅0.46m、最大深度0.34mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は３層に分層した。１層は黄褐色を呈するシルト層である。２層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。３層は黄褐色を呈する粘質土層である。

土坑（SK4003）（第176図）

位置

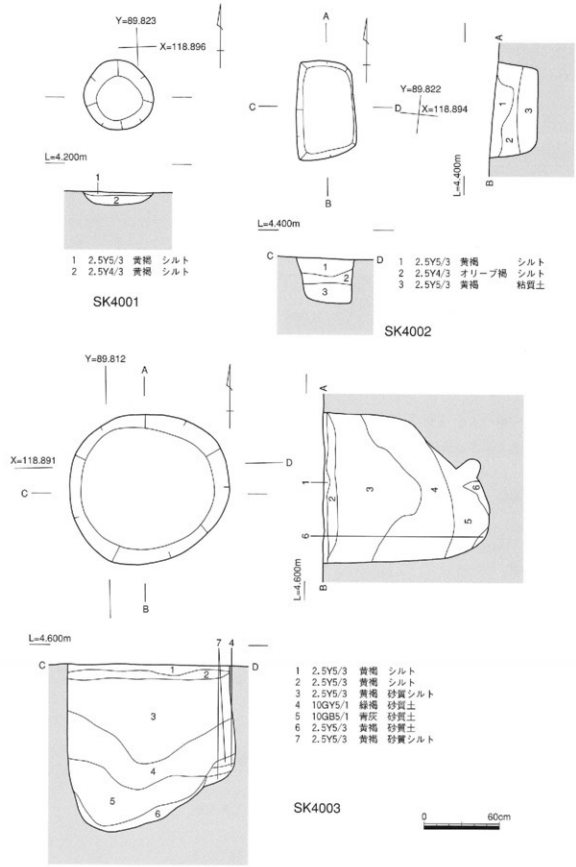
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－３に位置する。

規模と形状

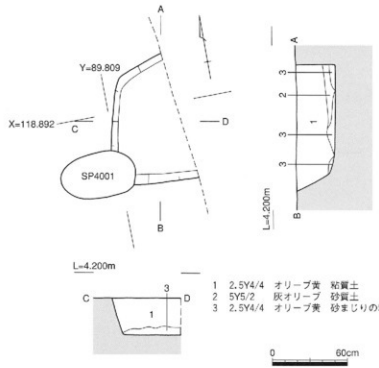
検出長1.26m、最大幅1.18m、最大深度1.33mの円形である。

土層

遺構の堆積土は７層に分層した。１層、２層は黄褐色を呈するシルト層である。３層は黄褐色を呈す



第176図　南区（2000年度３区）SK4001・SK4002・SK4003平・断面図



第177図　南区（2000年度３区）SK4004平・断面図

る砂質シルト層である。4層は緑褐色を呈する砂質土層である。5層は青灰色を呈する砂質土層である。6層は黄褐色を呈する砂質土層である。7層は黄褐色を呈する砂質シルト層である。

土坑（SK4004）（第177図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－２に位置する。

規模と形状

検出長1.04m、最大幅0.56m、最大深度0.31mの台形である。

土層

遺構の堆積土は３層に分層した。１層はオリーブ黄色を呈する粘質土層である。２層は灰オリーブ色を呈する粘質土層である。３層はオリーブ黄色を呈する砂混じり粘質土層である。

柱穴（SP4001）（第178図）

位置

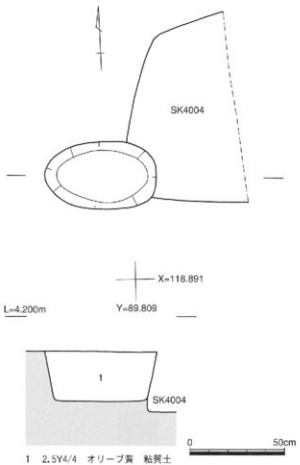
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－２に位置する。

規模と形状

検出長0.59m、最大幅0.36m、最大深度0.27mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ黄色を呈する粘質土による単一層である。



第178図 南区（2000年度３区）
SP4001平・断面図

土壙墓（ST4001）（第179図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR、S－７に位置する。

規模と形状

検出長2.00m、最大幅0.75m、最大深度0.18mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は３層に分層した。すべてオリーブ黄色を呈する粘質シルト層である。

土壙墓（ST4002）（第179図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－６、７に位置する。

規模と形状

検出長1.75m、最大幅0.72m、最大深度0.15mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は２層に分層した。１層は黄褐色を呈する粘質シルト層である。２層はオリーブ黄色を呈する粘質シルト層である。

土壙墓（ST4003）（第179図）

位置

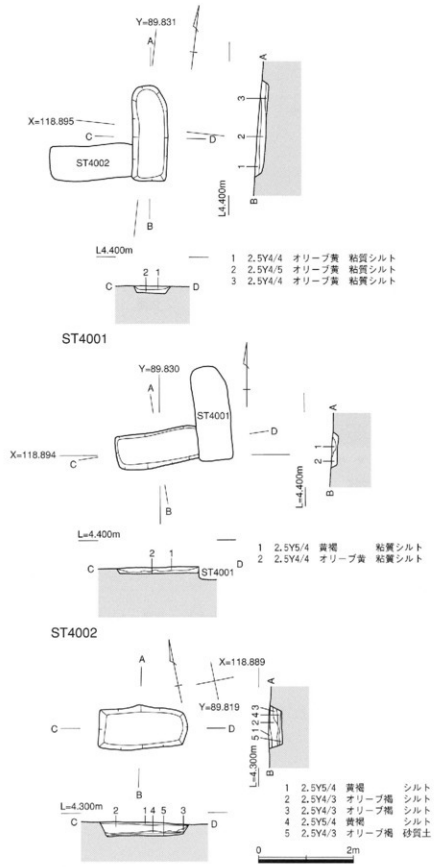
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR－４に位置する。

規模と形状

検出長1.87m、最大幅0.95m、最大深度0.28mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は５層に分層した。１層は黄褐色を呈するシルト層である。２層、３層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。４層は黄褐色を呈するシルト層である。５層はオリーブ褐色を呈する砂質土層である。



第179図　南区（2000年度３区）ST4001・ST4002・ST4003平・断面図

(15) 2000年度３区（第５遺構面）

土坑（SK5001）（第181図）

位置

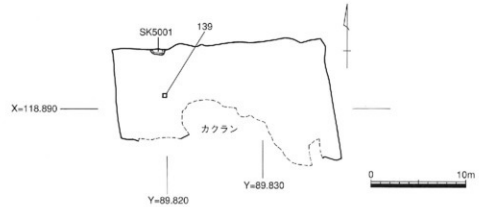
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－４に位置する。

規模と形状

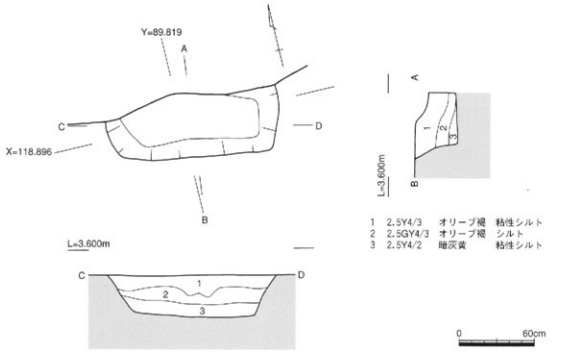
検出長1.23m、最大幅0.51m、最大深度0.34mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は３層に分層した。１層はオリーブ褐色を呈する粘性シルト層である。２層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。３層は暗灰黄色を呈する粘性シルト層である。



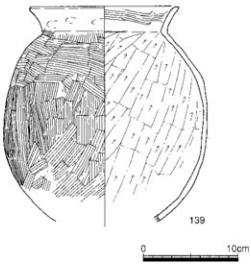
第180図　南区（2000年度３区）第５遺構面　調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図



第181図　南区（2000年度３区）SK5001平・断面図

第５包含層出土遺物（第182図）

139は土師器の甕である。



第182図　南区（2000年度３区）第５包含層出土遺物

（16）2003年度８区（第１遺構面）

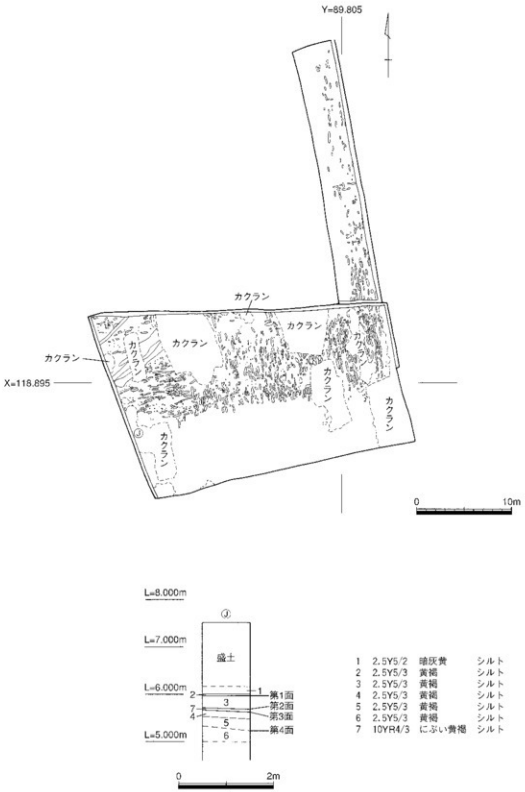
水田跡（第183図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ、ε－Ⅲ、Ⅳ、小グリッドQ～G－16～３に位置する。

規模と形状

調査区北半に水田面を検出した。区画を示す遺構は検出できなかったが、耕作痕は南北方向のものが多く、西側の一部に東西方向のものも見られた。



第183図　南区（2003年度８区）第１遺構面　調査区遺構平面図・土層柱状図

(17) 2003年度8区（第2遺構面）

溝（SD2001）（第185図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS、T－18に位置する。

規模と形状

検出長4.00m、最大幅0.40m、最大深度0.10mの溝である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD2002）（第185図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－17、18に位置する。

規模と形状

検出長2.60m、最大幅0.55m、最大深度0.14mの溝である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD2003）（第185図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－17、18に位置する。

規模と形状

検出長2.45m、最大幅0.40m、最大深度0.07mの溝である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD2004）（第185図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ、ε－Ⅲ、小グリッドT、A－19、20に位置する。

規模と形状

検出長8.00m、最大幅1.50m、最大深度0.16mのL字形である。

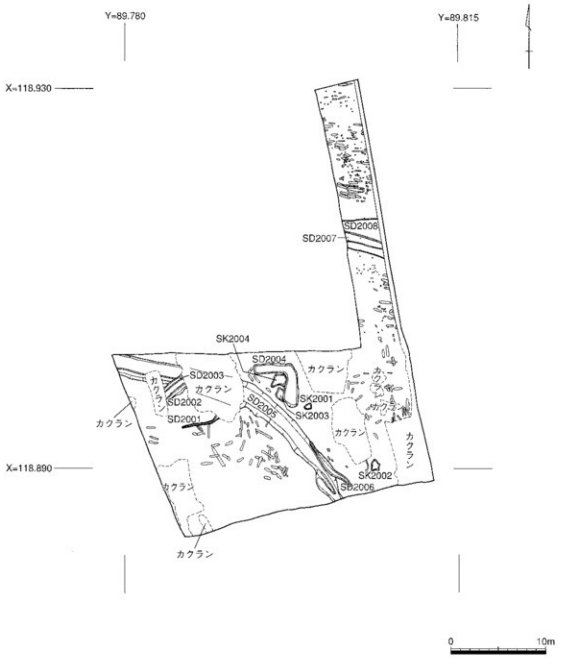
土層

遺構の堆積土は3層に分層した。全て灰オリーブ色を呈するシルト層である。

溝（SD2005）（第186図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、Ⅳ、小グリッドR～T－19～1に位置する。



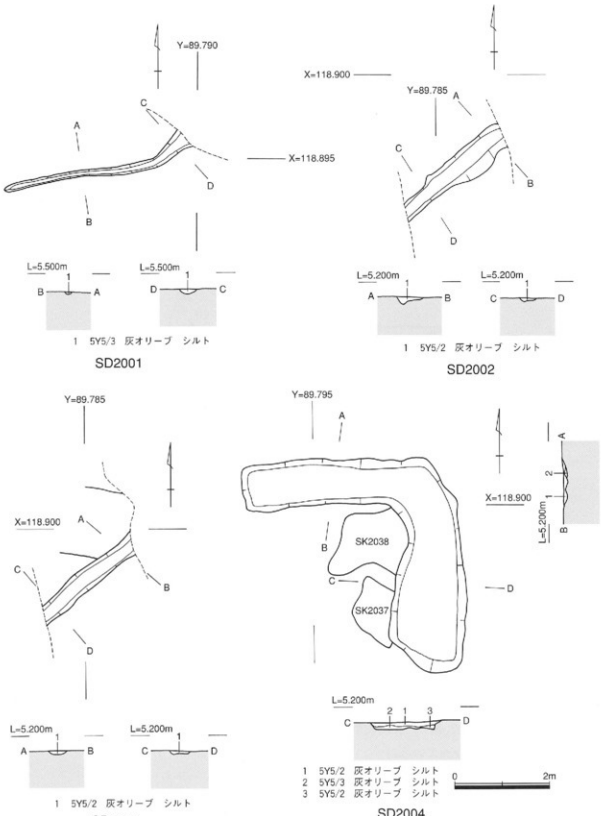
第184図　南区（2003年度８区）第２遺構面　調査区遺構平面図

規模と形状

検出長29.70m、最大幅2.40m、最大深度0.40m の溝である。南側はN－42°－W を軸としているが、北側はN－83°－W に曲がっている。

土層

遺構の堆積土は７層に分層した。１層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。２層は灰オリーブ色を呈する粘性シルト層である。３層～５層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。６、７層は灰オリーブ色を呈する粘性シルト層である。



第185図　南区（2003年度 8 区）SD2001・SD2002・SD2003・SD2004平・断面図

溝（SD2006）（第186図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、Ⅳ、小グリッドR～T－20、1に位置する。

規模と形状

検出長6.40m、最大幅0.68m、最大深度0.11mの溝である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。全て灰オリーブ色を呈するシルト層である。

溝（SD2007）（第186図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドε－Ⅳ、小グリッドC－1、2に位置する。

規模と形状

検出長4.50m、最大幅1.20m、最大深度0.08mの溝である。

土層

遺構の堆積土は灰黄色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD2008）（第186図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドε－Ⅳ、小グリッドC、D－1、2に位置する。

規模と形状

検出長4.00m、最大幅1.90m、最大深度0.06mの溝である。

土層

遺構の堆積土は、にぶい黄色を呈するシルトによる単一層である。

水田跡（第184図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ、ε－Ⅲ、Ⅳ、小グリッドQ～G－16～3に位置する。

規模と形状

調査区全面に水田面を検出した。SD2008を境に北側では東西方向の耕作痕がまとまっているのに対し、南側では一定していない。

土坑（SK2001）（第187図）

位置

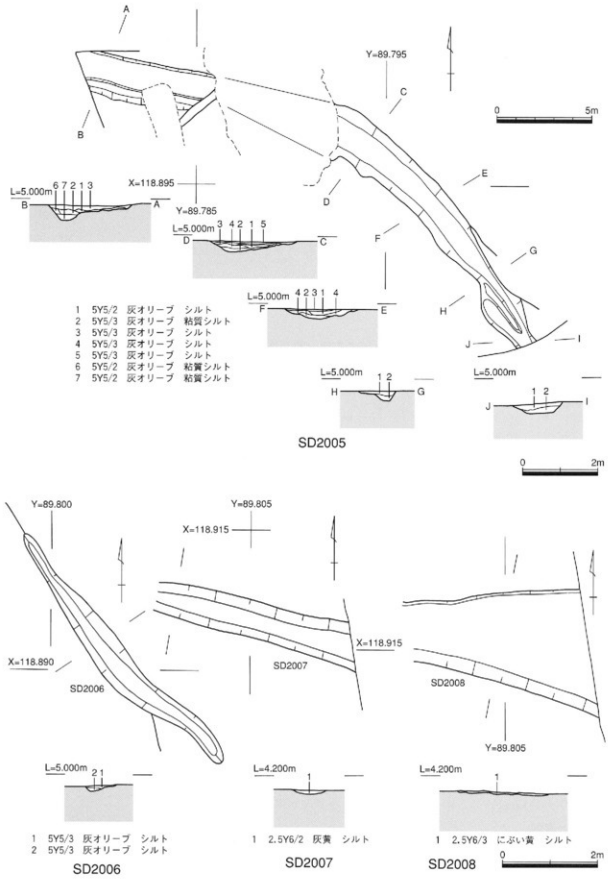
大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－20に位置する。

規模と形状

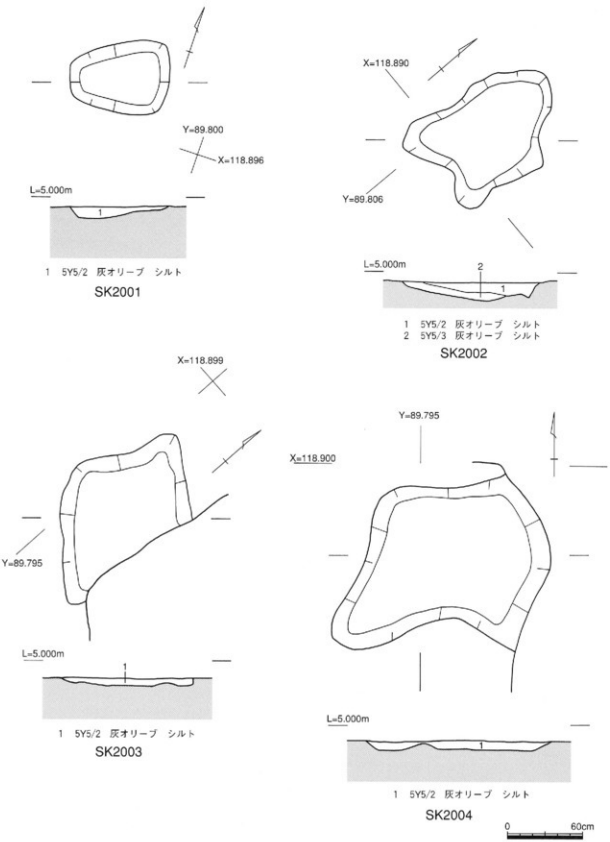
検出長0.78m、最大幅0.58m、最大深度0.08mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。



第186図　南区（2003年度8区）SD2005・SD2006・SD2007・SD2008平・断面図



第187図　南区（2003年度 8 区）SK2001・SK2002・SK2003・SK2004平・断面図

第188図　南区（2003年度８区）第２包含層出土遺物

土坑（SK2002）（第187図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－２に位置する。

規模と形状

検出長1.07m、最大幅1.00m、最大深度0.15mの不整形である。

土層

遺構の堆積土は２層に分層した。全て灰オリーブ色を呈するシルト層である。

土坑（SK2003）（第187図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－20に位置する。

規模と形状

検出長1.07m、最大幅0.90m、最大深度0.05mの四角形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK2004）（第187図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－20に位置する。

規模と形状

検出長1.45m、最大幅1.05m、最大深度0.07mの不整形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

第２包含層出土遺物（第188図）

140はミニチュア土器である。

(18) 2003年度8区（第3遺構面）

溝（SD3001）（第190図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS、T－18に位置する。

規模と形状

検出長3.60m、最大幅0.36m、最大深度0.20mの溝である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は黄灰色を呈するシルト層である。

溝（SD3002）（第190図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS、T－18に位置する。

規模と形状

検出長3.80m、最大幅0.36m、最大深度0.08mの平面形がC字形の溝である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD3003）（第190図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS－18に位置する。

規模と形状

検出長4.20m、最大幅1.10m、最大深度0.27mの溝である。

土層

遺構の堆積土は4層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は灰オリーブ色を呈する砂質シルト層である。3、4層は暗灰黄色を呈するシルト層である。

水田跡（第184図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ、ε－Ⅲ、Ⅳ、小グリッドQ～G－16～3に位置する。

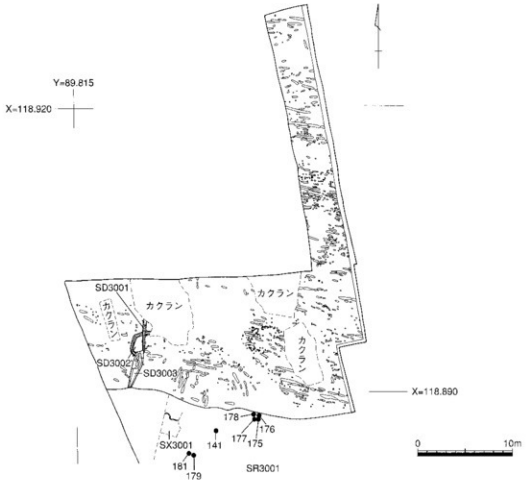
規模と形状

調査区北半に水田面を検出した。区画を示す遺構は検出できなかったが、SR3001の北岸の肩と同方向の耕作痕を確認した。

自然流路（SR3001）（第189図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、Ⅳ、小グリッドQ～S－17～3に位置する。



第189図　南区（2003年度８区）第３遺構面　調査区遺構平面図・SR3001遺物出土状況ドット図

規模と形状

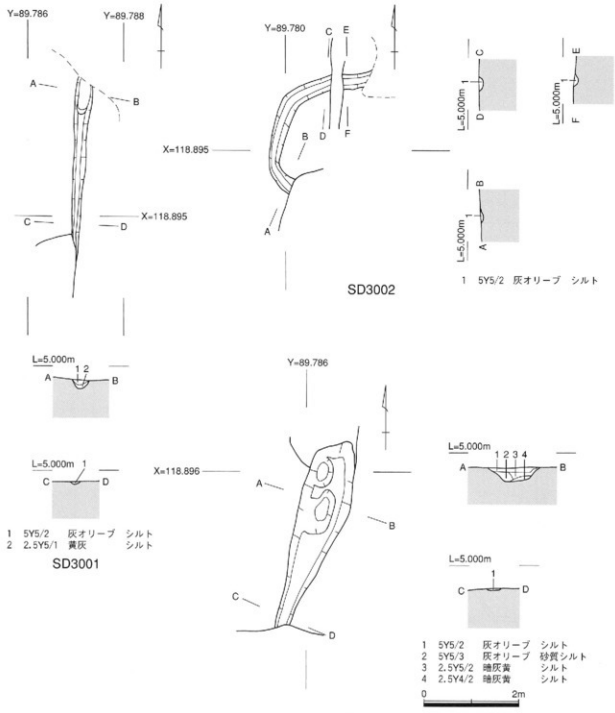
δ－Ⅲ・S－17からδ－Ⅳ・R－３でSR3001の北岸を検出した。これより南側の調査区はすべてSR3001の堆積層となる。

自然流路（SR3001）Ⅲ層出土遺物（第191図）

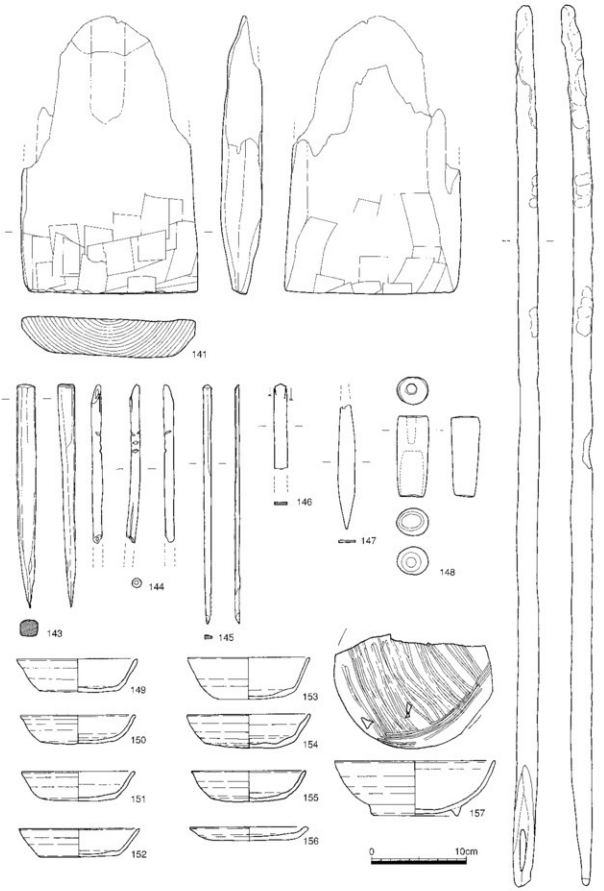
木製品は８点を図化した。141は農具の平鍬である。上部には柄が取り付けられていた痕跡がある。下部は削りにより成形している。142は柄である。上部に圧痕がある。143は馬鍬である。144は円筒状人形である。細い木の枝に目、鼻、口を小さく削って表現したものである。145～147は斎串である。148は用途不明品である。円柱状の木製品に両端から穿孔するが貫通していない。149～155は土師器の杯である。156は土師器の皿である。157は黒色土器Ａ類の椀である。

自然流路（SR3001）Ⅴ層出土遺物（第192、193図）

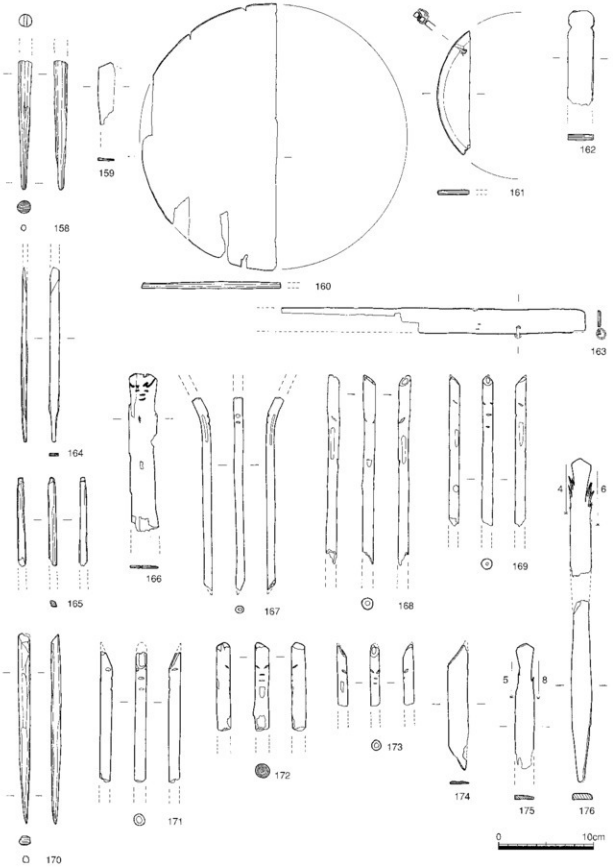
木製品は30点を図化した。158は農具の馬鍬である。159は槍扇の断片である。160、161は円形曲物底板である。162は木札である。163は曲物の側板である。164は剣形、165は紡織具形である。166は正面全身人形である。墨書で眉、目、鼻等を表現している。胴体に刺孔あり。167～169、171～173は円筒状



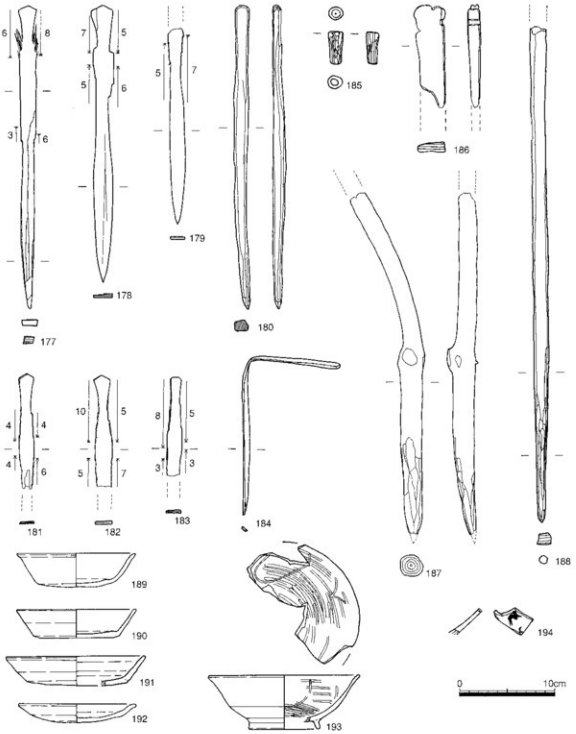
第190図　南区（2003年度８区）SD3001・SD3002・SD3003平・断面図



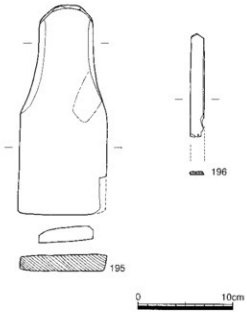
第191図　南区（2003年度８区）SR3001Ⅲ層出土遺物



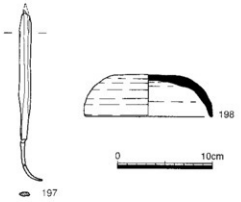
第192図　南区（2003年度８区）SR3001Ⅴ層出土木製品（農具・服飾具・容器・文房具・祭祀具）



第193図　南区（2003年度８区）SR3001Ⅴ層出土遺物



第194図　南区（2003年度８区）
SR3001 Ⅵ層出土木製品（工具・祭祀具）

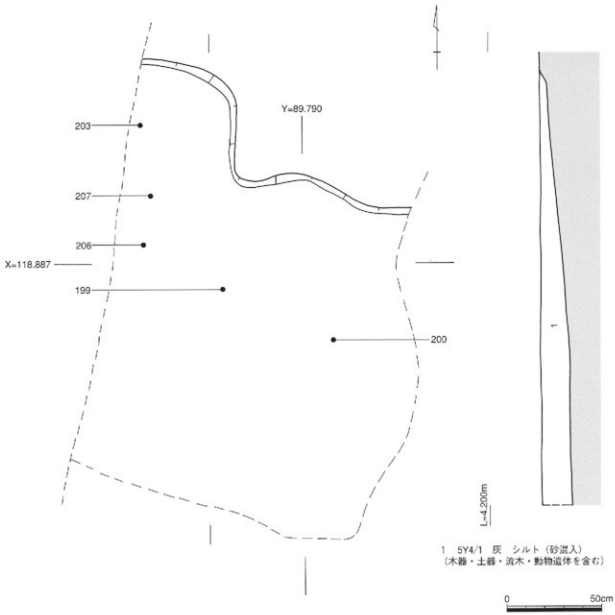


第195図　南区（2003年度８区）
SR3001出土遺物

人形である。170は棒状祭祀具である。両端を尖らせている。174～184は斎串である。185は栓状の木製品である。土器は６点を図化した。189～191は土師器の杯である。192は土師器の皿である。193は黒色土器Ａ類の椀である。194は土師器の杯である。外面に墨書があるが、文字の判読はできない。

自然流路（SR3001）Ⅶ層出土遺物（第194図）

195は雑具の叩板である。両側面を削り、持ち手部分を成形している。196は斎串である。



第196図　南区（2003年度８区）SX3001平・断面図・遺物出土状況ドット図

自然流路（SR3001）出土遺物（第195図）

197は斎串である。198は須恵器の杯蓋である。

不明遺構（SX3001）（第196、197図）

位置

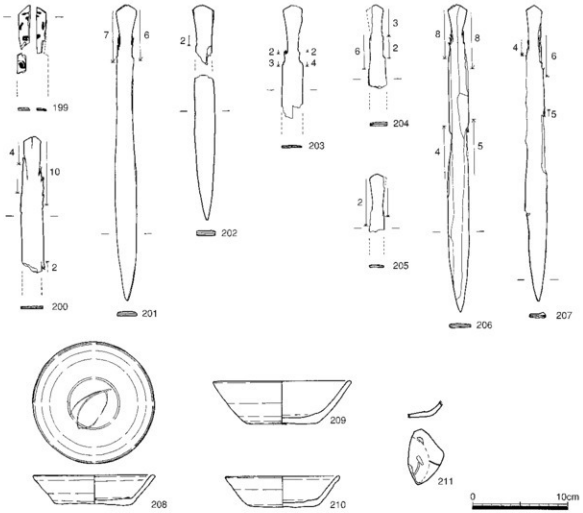
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドR－18、19に位置する。

規模と形状

検出長2.30m、最大幅1.65m、最大深度0.16mの遺構である。

土層

遺構の堆積土は灰色を呈する。木器、土器、流木、動物遺体を含むシルトによる単一層である。



第197図　南区（2003年度８区）SX3001出土遺物

出土遺物

木製品は祭祀具９点を図化した。199は祭祀具の正面全身人形である。200～207は斎串である。土器は４点を図化した。208～211は土師器の杯である。208は内外面ともに煤が付着しており、底部内面にヘラミガキが施される。211は墨書土器の破片である。文字の判読はできない。

時期

平安時代（９～10世紀）と考えられる。

(19) 2003年度8区（第4遺構面）

溝（SD4001）（第199図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ、ε－Ⅲ、Ⅳ、小グリッドS～A－17～2に位置する。

規模と形状

検出長27.50m、最大幅1.60m、最大深度0.42mの溝である。N－73°－Wを軸とした直線状を呈する。

土層

A－Bは6層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層～6層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。

C－Dは5層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層～5層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

E－F、G－Hは3層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

I－Jは4層に分層した。1層、2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層、4層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

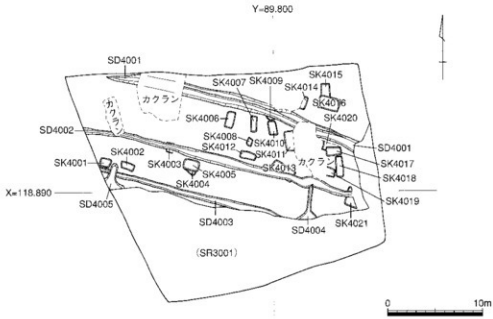
溝（SD4002）（第200図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、Ⅳ、小グリッドR～T－17～2に位置する。

規模と形状

検出長29.50m、最大幅1.10m、最大深度0.22mの溝である。N－76°－Wを軸とした直線状を呈する。



第198図　南区（2003年度8区）第4遺構面　調査区遺構平面図

土層

A－B、C－Dは、灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

E－F、G－H、I－Jは、3層に分層した。1層は、にぶい黄色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。

K－Lは2層に分層した。1層はにぶい黄色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD4003）（第201図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、Ⅳ、小グリッドR、S－17～1に位置する。

規模と形状

検出長20.00m、最大幅1.10m、最大深度0.50mの溝である。N－75°－Wを軸とした直線状を呈する。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

溝（SD4004）（第201図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR、S－1に位置する。

規模と形状

検出長3.60m、最大幅1.90m、最大深度0.22mの溝である。南端は広がった漏斗状を呈する。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

溝（SD4005）（第201図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS－17に位置する。

規模と形状

検出長2.90m、最大幅2.00m、最大深度0.06mの溝である。南端が広がった漏斗状を呈する。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4001）（第202図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS－17に位置する。

規模と形状

検出長1.15m、最大幅0.88m、最大深度0.16mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。全てオリーブ褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4002）（第202図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS－17に位置する。

規模と形状

検出長1.38m、最大幅0.72m、最大深度0.12mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。全てオリーブ褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4003）（第203図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS－18に位置する。

規模と形状

検出長0.72m、最大幅0.45m、最大深度0.08mの四角形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4004）（第203図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS－19に位置する。

規模と形状

検出長1.40m、最大幅0.40m、最大深度0.35mの三角形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4005）（第204図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS－19に位置する。

規模と形状

検出長1.70m、最大幅1.19m、最大深度0.07mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4006）（第204図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－20に位置する。

規模と形状

検出長1.75m、最大幅0.85m、最大深度0.09mの長方形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4007）（第205図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－20に位置する。

規模と形状

検出長1.73m、最大幅0.60m、最大深度0.35mの長方形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4008）（第205図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－20に位置する。

規模と形状

検出長1.68m、最大幅0.78m、最大深度0.06mの長方形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4009）（第205図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－20に位置する。

規模と形状

検出長0.72m、最大幅0.40m、最大深度0.27mの半円形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。3層はオリーブ褐色を呈する砂質シルト層である。

土坑（SK4010）（第206図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－20に位置する。

規模と形状

検出長1.50m、最大幅0.83m、最大深度0.18mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。2層は黄褐色を呈する砂質シルト層である。

土坑（SK4011）（第206図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－１に位置する。

規模と形状

検出長2.00m、最大幅0.75m、最大深度0.08mの長方形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4012）（第207図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS－20に位置する。

規模と形状

検出長1.70m、最大幅0.74m、最大深度0.24mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は３層に分層した。１層、２層は黄褐色を呈するシルト層である。３層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4013）（第207図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－１に位置する。

規模と形状

検出長3.10m、最大幅1.20m、最大深度0.45mの不等辺三角形である。

土層

遺構の堆積土は４層に分層した。１層、２層は黄褐色を呈するシルト層である。３、４層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4014）（第208図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－１に位置する。

規模と形状

検出長1.41m、最大幅0.48m、最大深度0.17mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は２層に分層した。１層は暗オリーブ色を呈するシルト層である。２層は黄褐色を呈するシルト層である。

土坑（SK4015）（第208図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドA－２に位置する。

規模と形状

検出長1.30m、最大幅0.86m、最大深度0.32mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層は黄褐色を呈するシルト層である。2層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。3層はオリーブ褐色を呈する砂質シルト層である。

土坑（SK4016）（第209図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－2に位置する。

規模と形状

検出長2.18m、最大幅1.38m、最大深度0.39mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は3層に分層した。1層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。2層、3層は暗オリーブ色を呈するシルト層である。

土坑（SK4017）（第209図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－2に位置する。

規模と形状

検出長1.61m、最大幅0.83m、最大深度0.13mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4018）（第210図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－2に位置する。

規模と形状

検出長2.23m、最大幅0.78m、最大深度0.13mの長方形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4019）（第210図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－2に位置する。

規模と形状

検出長0.93m、最大幅0.91m、最大深度0.13mの四角形である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4020）（第211図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドS－２に位置する。

規模と形状

検出長1.70m、最大幅0.90m、最大深度0.14mであるが、他の遺構に切られて元の形状は不明である。

土層

遺構の堆積土は黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK4021）（第211図）

位置

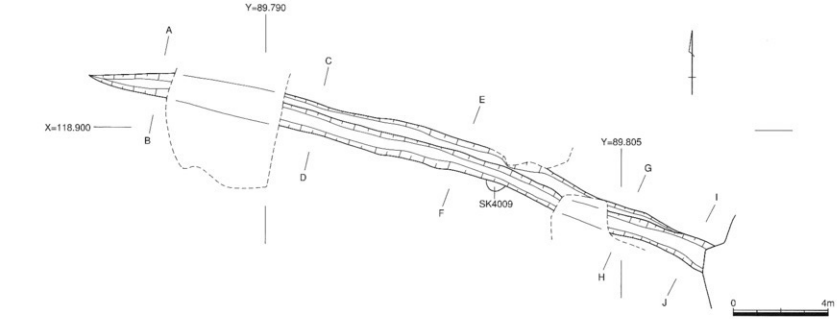
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドR－２に位置する。

規模と形状

検出長2.01m、最大幅1.14m、最大深度0.32mであるが、他の遺構に切られて形状は不明である。

土層

遺構の堆積土は３層に分層した。１層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。２層は黄褐色を呈するシルト層である。３層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。



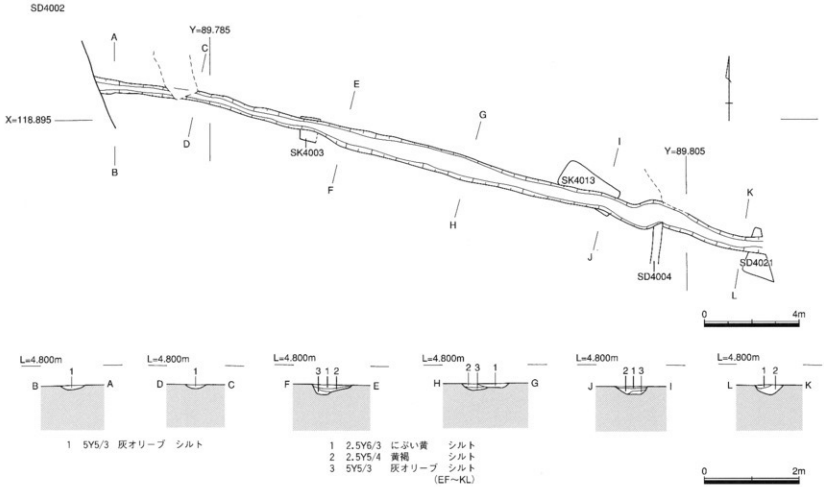
1	5Y5/3	灰オリーブ	シルト
2	2.5Y5/3	黄褐	シルト
3	5Y5/2	灰オリーブ	シルト
4	5Y5/2	灰オリーブ	シルト
5	5Y5/3	灰オリーブ	シルト
6	5Y5/3	灰オリーブ	シルト

1	2.5Y5/3	黄褐	シルト
2	2.5Y5/3	黄褐	シルト
3	2.5Y4/4	オリーブ褐	シルト
4	2.5Y4/4	オリーブ褐	シルト
5	2.5Y4/3	オリーブ褐	シルト

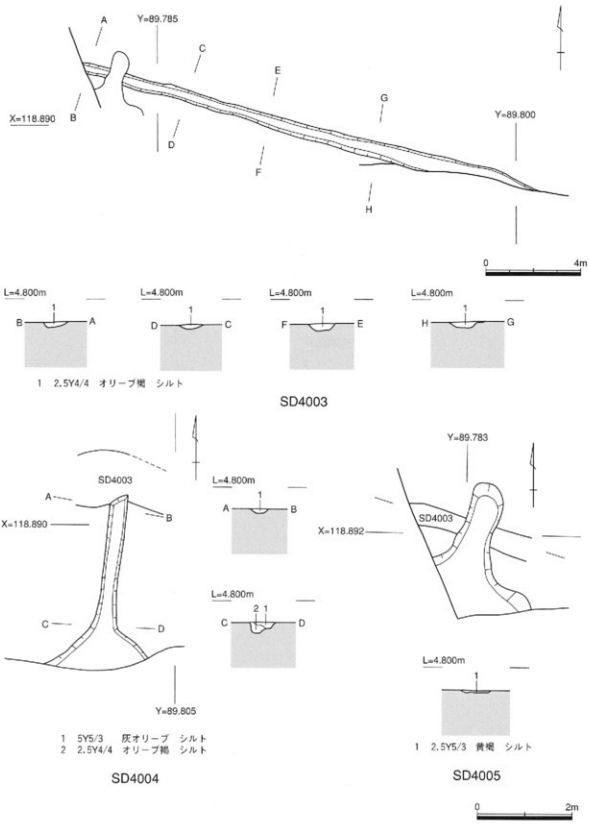
1	2.5Y5/3	黄褐	シルト
2	2.5Y5/3	黄褐	シルト
3	2.5Y4/4	オリーブ褐	シルト

1	2.5Y5/3	黄褐	シルト
2	2.5Y5/3	黄褐	シルト
3	2.5Y4/4	オリーブ褐	シルト
4	2.5Y4/4	オリーブ褐	シルト

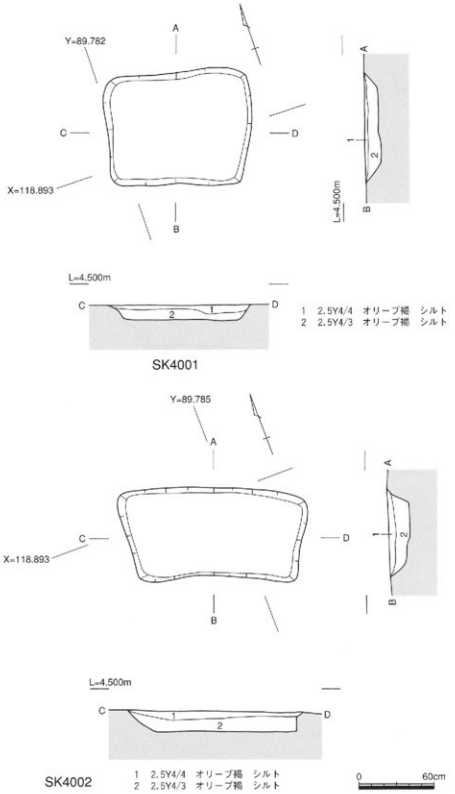
第199図　南区（2003年度８区）SD4001平・断面図



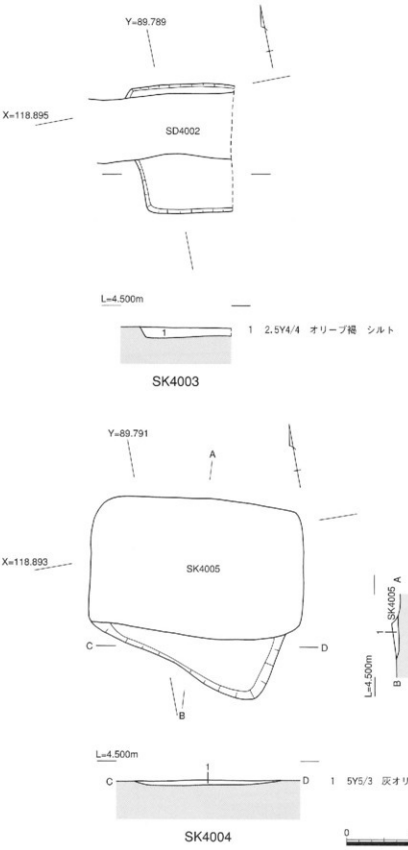
第200図　南区（2003年度８区）SD4002平・断面図



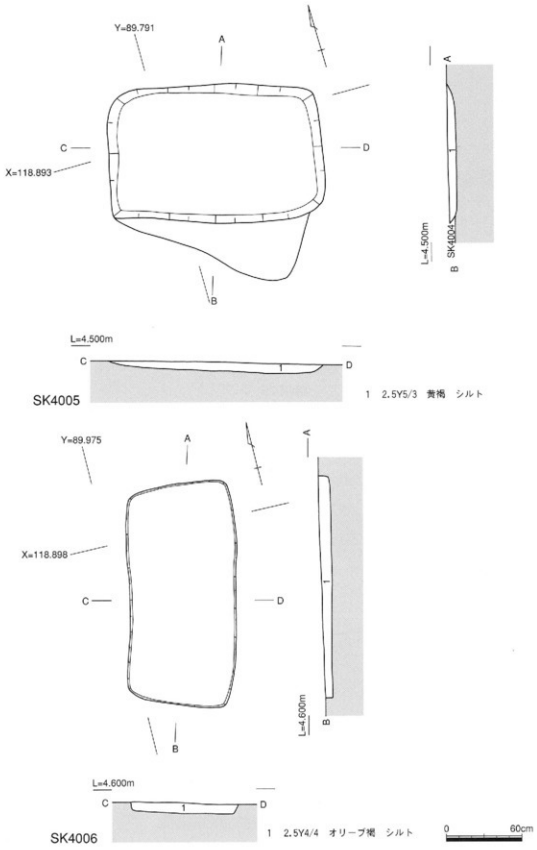
第201図　南区（2003年度８区）SD4003・SD4004・SD4005平・断面図



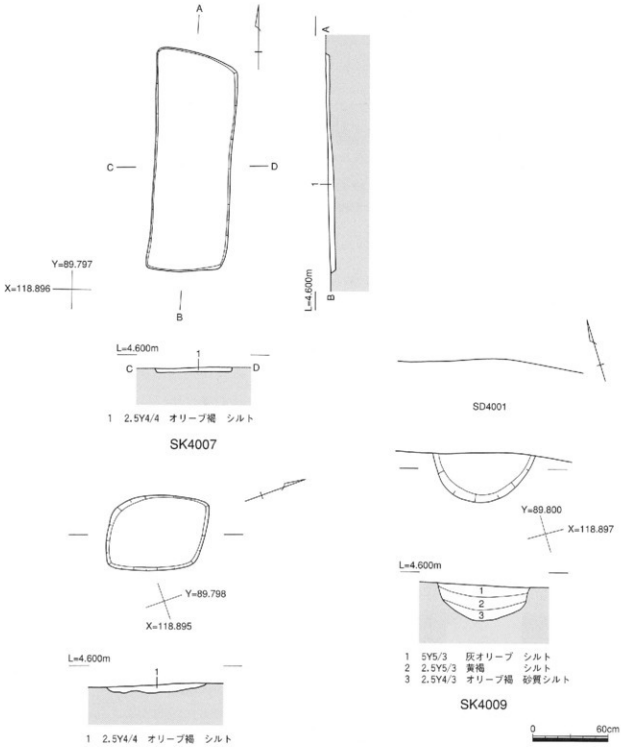
第202図　南区（2003年度８区）SK4001・SK4002平・断面図



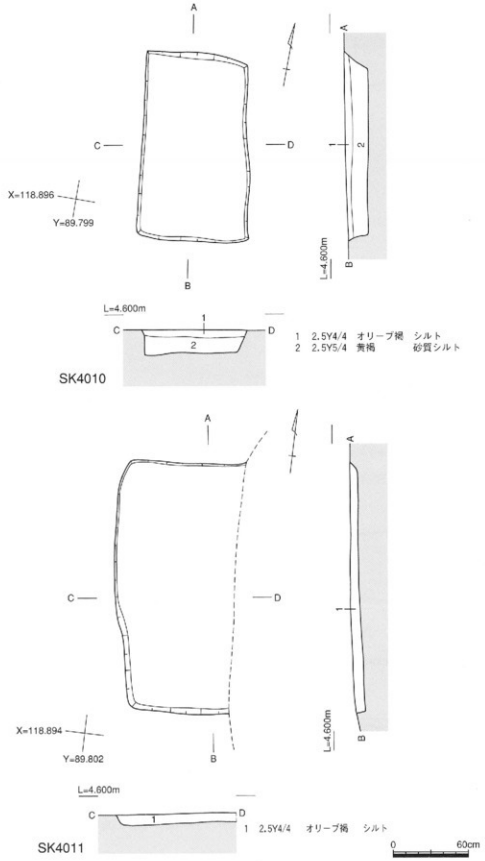
第203図　南区（2003年度８区）SK4003・SK4004平・断面図



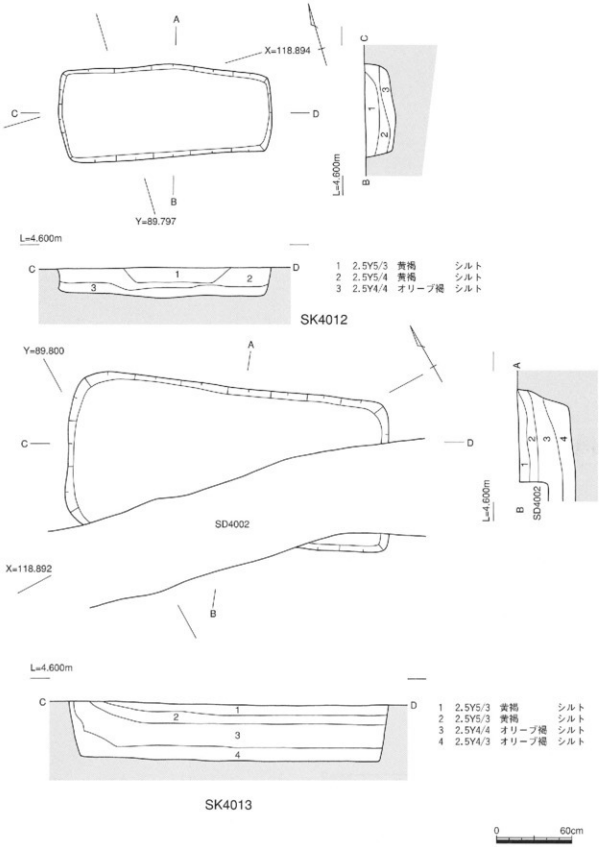
第204図　南区（2003年度８区）SK4005・SK4006平・断面図



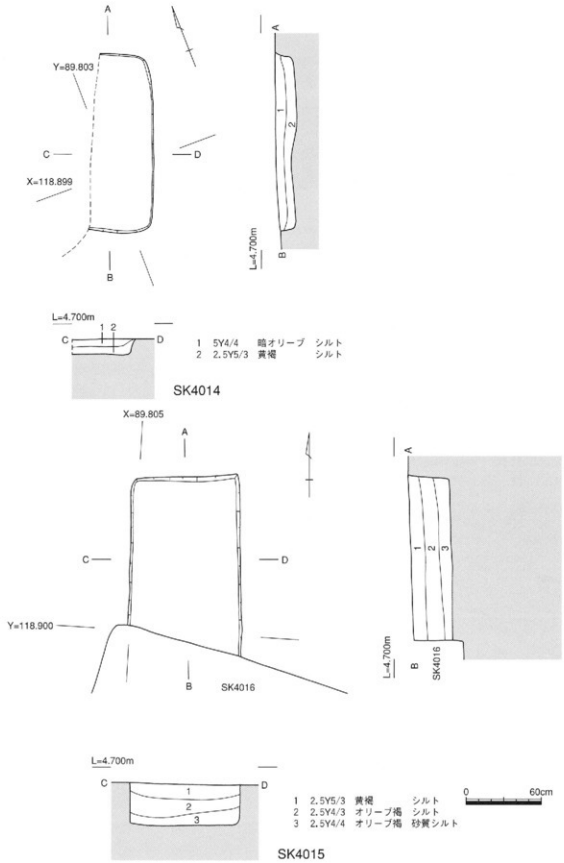
第205図　南区（2003年度８区）SK4007・SK4008・SK4009平・断面図



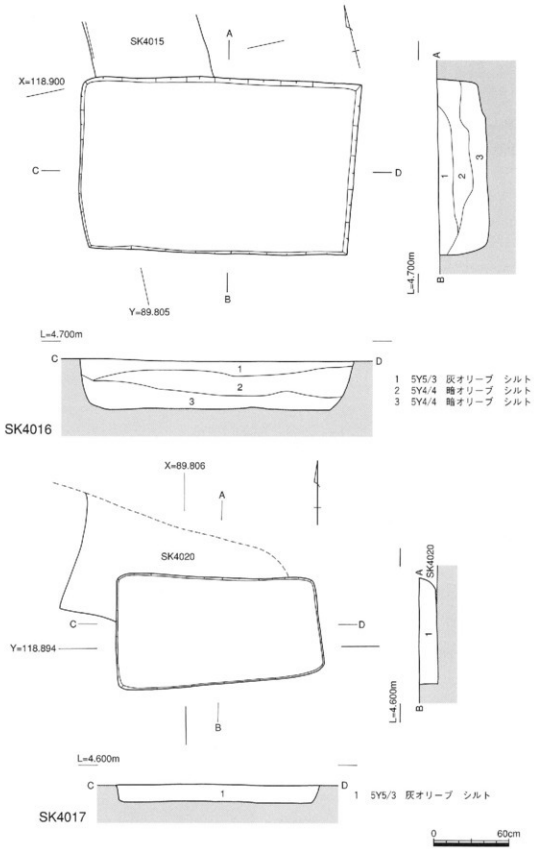
第206図　南区（2003年度８区）SK4010・SK4011平・断面図



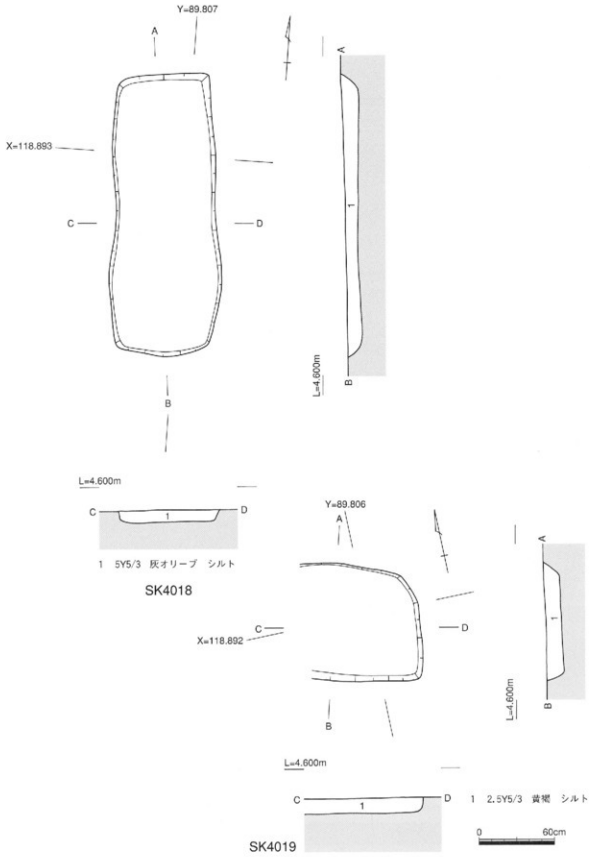
第207図　南区（2003年度８区）SK4012・SK4013平・断面図



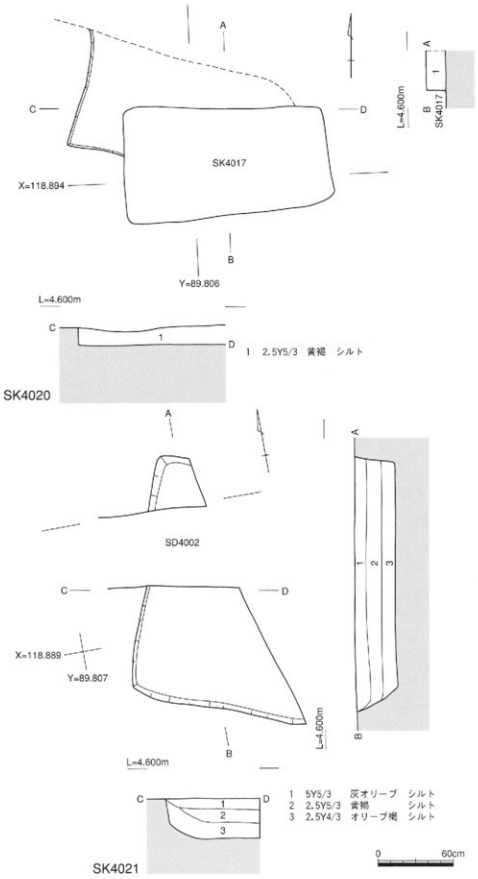
第208図　南区（2003年度８区）SK4014・SK4015平・断面図



第209図　南区（2003年度 8 区）SK4016・SK4017平・断面図



第210図　南区（2003年度 8 区）SK4018・SK4019平・断面図



第211図　南区（2003年度８区）SK4020・SK4021平・断面図

（20）2003年度８区（第５遺構面）

溝（SD5001）（第213図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅲ、Ⅳ、小グリッドS、T－17～１に位置する。

規模と形状

検出長23.00m、最大幅0.29m、最大深度0.36mの溝である。N－80°－Wを軸とした直線状を呈するが、西端は幅が広がる。

土層

A－Bは２層に分層した。１層は黄褐色を呈するシルト層である。２層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

C－Dは黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

E－Fは３層に分層した。１層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。２層は黄褐色を呈するシルト層である。３層はオリーブ褐色を呈するシルト層である。

G－Hは黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

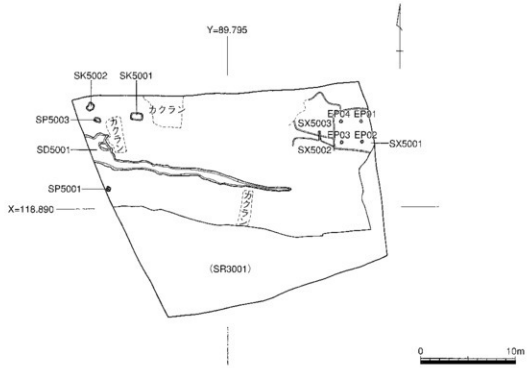
土坑（SK5001）（第214図）

位置

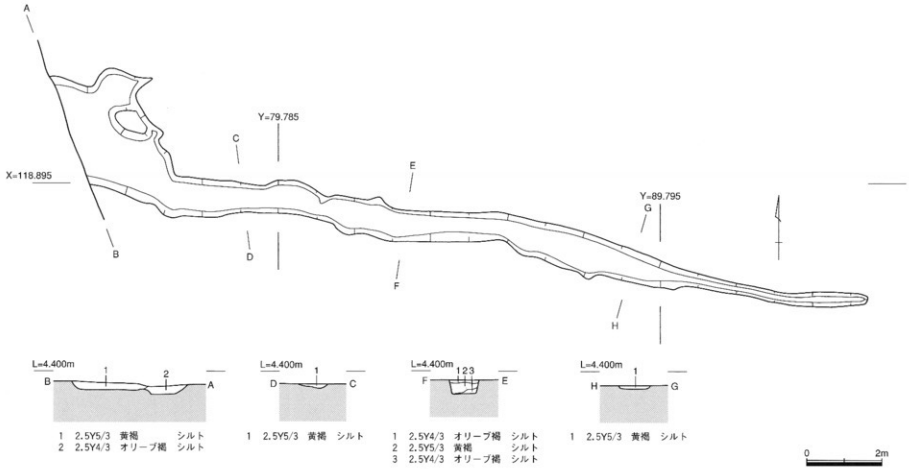
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－17に位置する。

規模と形状

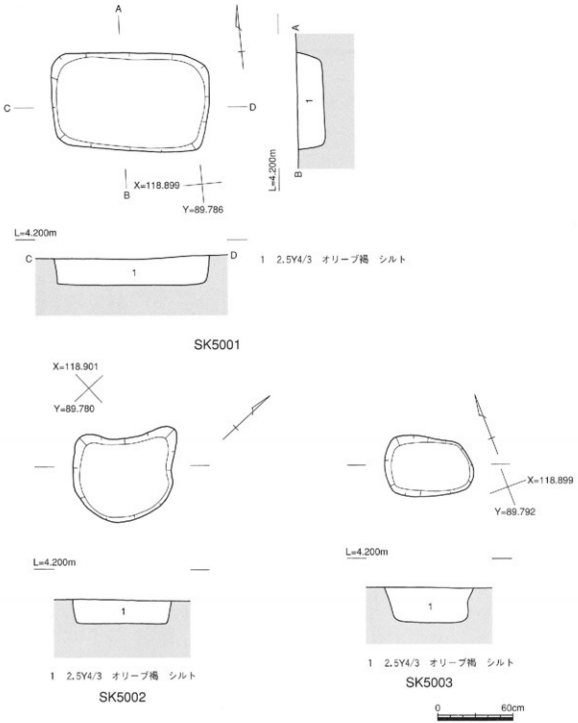
検出長1.23m、最大幅0.76m、最大深度0.20mの長方形である。



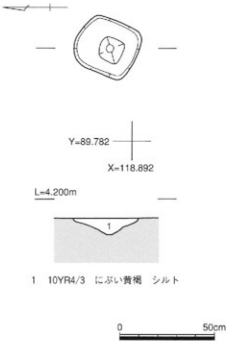
第212図　南区（2003年度８区）第５遺構面　調査区遺構平面図



第213図　南区（2003年度８区）SD5001平・断面図



第214図　南区（2003年度 8 区）SK5001・SK5002・SK5003平・断面図



第215図　南区（2003年度８区）SP5001平・断面図

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK5002）（第214図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドε－Ⅲ、小グリッドA－17に位置する。

規模と形状

検出長0.78m、最大幅0.45m、最大深度0.17mの不整形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

土坑（SK5003）（第214図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドT－17に位置する。

規模と形状

検出長0.70m、最大幅0.46m、最大深度0.28mの楕円形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

柱穴（SP5001）（第215図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅲ、小グリッドS－17に位置する。

規模と形状

検出長0.34m、最大幅0.31m、最大深度0.09mの四角形である。

土層

遺構の堆積土は、にぶい黄褐色を呈するシルトによる単一層である。

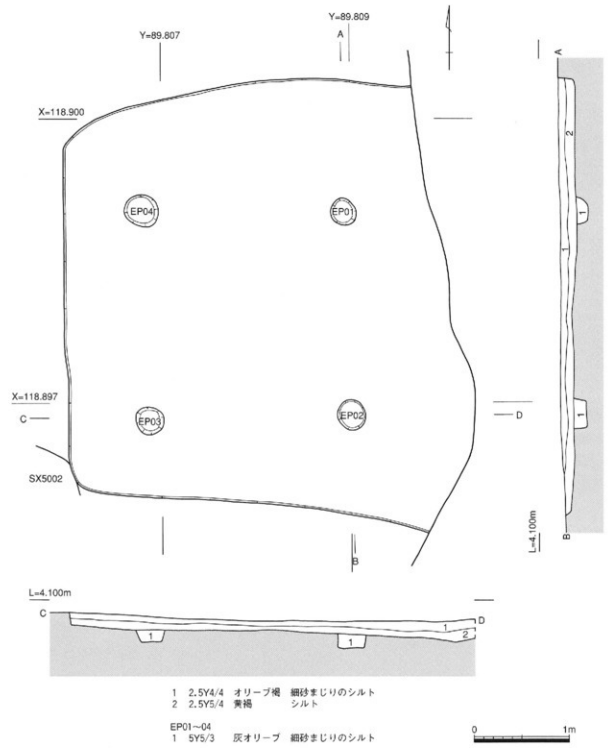
不明遺構（SX5001）（第216図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－２に位置する。

規模と形状

検出長4.50m、最大幅4.11m、最大深度0.22mの正方形である。



第216図　南区（2003年度８区）SX5001（EP01・EP02・EP03・EP04）平・断面図

土層

遺構の堆積土は2層に分層した。1層はオリーブ褐色を呈する細砂混じりシルト層である。2層は黄褐色を呈するシルト層である。

不明遺構内柱穴（SX5001EP01）（第216図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－2に位置する。

規模と形状

検出長0.30m、最大幅0.28m、最大深度0.19mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈する細砂混じりシルトによる単一層である。

不明遺構内柱穴（SX5001EP02）（第216図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－2に位置する。

規模と形状

検出長0.30m、最大幅0.28m、最大深度0.18mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈する細砂混じりシルトによる単一層である。

不明遺構内柱穴（SX5001EP03）（第216図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－2に位置する。

規模と形状

検出長0.30m、最大幅0.30m、最大深度0.17mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈する細砂混じりシルトによる単一層である。

不明遺構内柱穴（SX5001EP04）（第216図）

位置

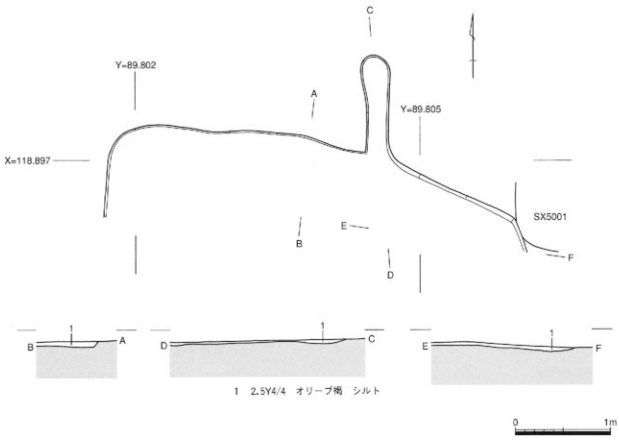
大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－2に位置する。

規模と形状

検出長0.36m、最大幅0.34m、最大深度0.28mの円形である。

土層

遺構の堆積土は灰オリーブ色を呈する細砂混じりシルトによる単一層である。



第217図　南区（2003年度８区）SX5002平・断面図

不明遺構（SX5002）（第217図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドF－１に位置する。

規模と形状

検出長4.50m、最大幅2.00m、最大深度0.06mの不定形である。

土層

遺構の堆積土はオリーブ褐色を呈するシルトによる単一層である。

不明遺構（SX5003）（第218図）

位置

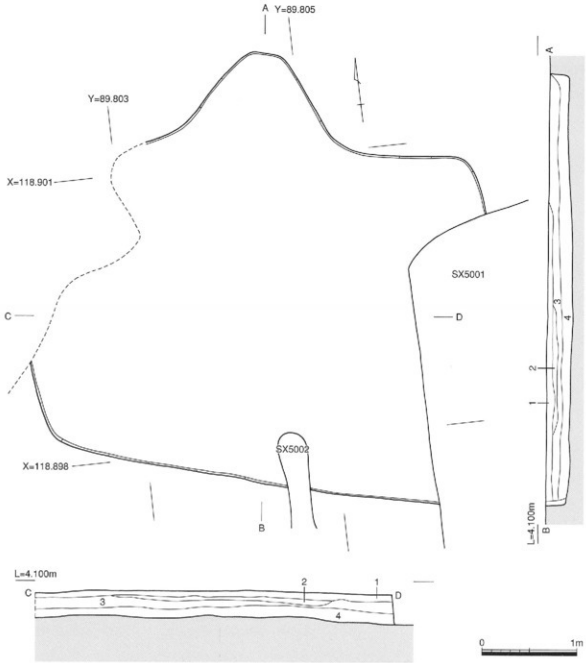
大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドT－１、２に位置する。

規模と形状

検出長4.56m、最大幅3.80m、最大深度0.30mの平面形が、不整形である。

土層

遺構の堆積土は４層に分層した。１層は黄褐色を呈する砂質シルト層である。２層～４層は黄褐色を呈するシルト層である。



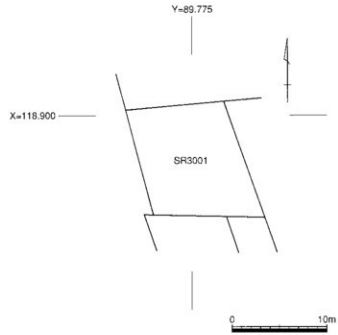
1　2.5Y5/4　黄褐　砂質シルト
2　2.5Y5/3　黄褐　シルト
3　2.5Y5/4　黄褐　シルト
4　2.5Y5/2　黄褐　シルト

第218図　南区（2003年度８区）SX5003平・断面図

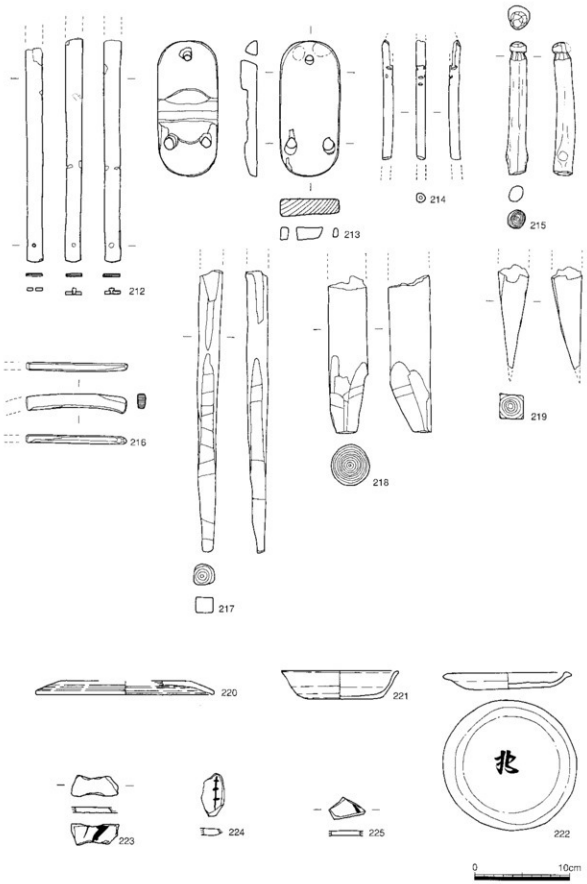
（21）2003年度８－２区

自然流路（SR3001）Ⅴ層出土遺物（第220図）

木製品は８点を図化した。212は楊扇である。213は服飾具の連歯下駄である。小形で右足用である。214は円筒状人形である。土器は６点を図化した。220は土師器の杯蓋である。221は土師器の杯である。222～225は墨書土器である。222は土師器の皿の底部外面に「抱」と墨書したものである。223は墨書土器の杯である。文字の判読はできない。224は土師器の小破片に、白色の顔料で線状の模様が描かれる。225は土師器の小破片で、文字の判読はできない。



第219図　南区（2003年度８－２区）調査区遺構平面図



第220図　南区（2003年度８－２区）SR3001Ｖ層出土遺物

(22) 2002年度7区（第3遺構面）

溝（SD3001）（第222図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドQ－8、9に位置する。

規模と形状

検出長3.00m、最大幅1.70m、最大深度0.45mの溝である。

土層

遺構の堆積土は4層に分層した。1層～3層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。4層は黄褐色を呈するシルト層である。

溝（SD3002）（第222図）

位置

大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドQ－8、9に位置する。

規模と形状

検出長2.55m、最大幅2.40m、最大深度0.38mの溝である。

土層

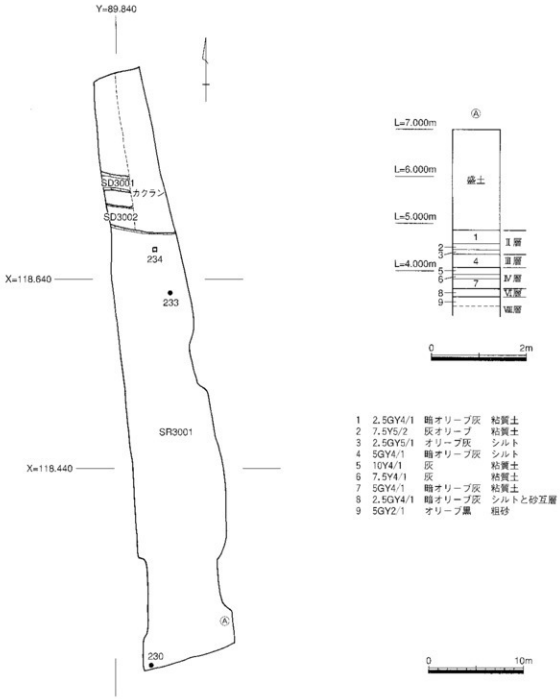
遺構の堆積土は5層に分層した。1層～5層は灰オリーブ色を呈するシルト層である。

自然流路（SR3001）Ⅲ層出土遺物（第223図）

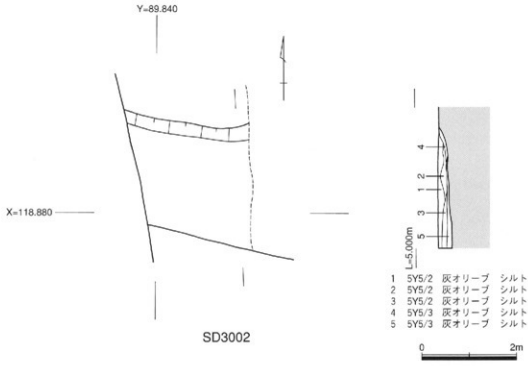
226は土師器の杯である。

自然流路（SR3001）Ⅵ層出土遺物（第224図）

木製品は7点を図化した。227～232は円筒状人形である。234は須恵器の高台付き長頸壺である。遺存状態が良好で全体に自然釉が見られる。

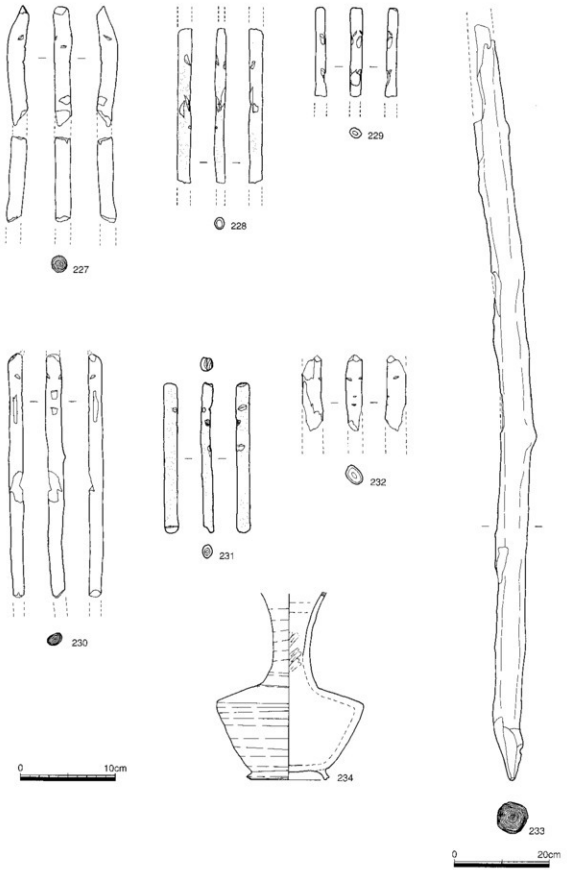


第221図　南区（2002年度７区）調査区遺構平面図・遺物出土状況ドット図・土層柱状図



第222図　南区（2002年度７区）SD3001・SD3002平・断面図

第223図　南区（2002年度７区）SR3001Ⅲ層出土遺物



第224図　南区（2002年度７区）SR3001Ⅵ層出土遺物

(23) 2000年度1区

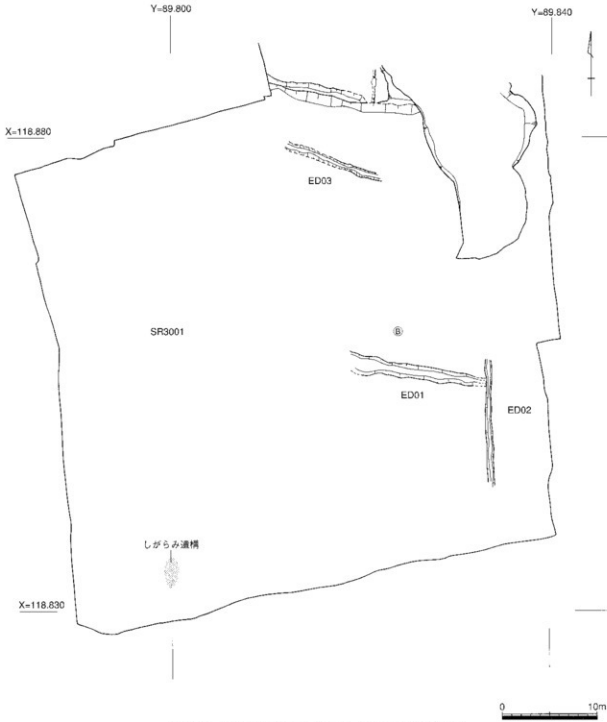
自然流路（SR3001）

位置

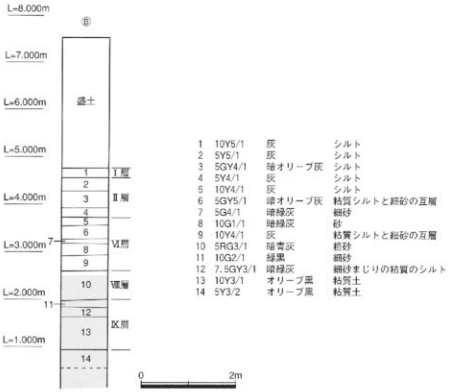
大グリッドLoc.F－1、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドQ、R－3～9以南に位置する。

規模と形状

δ－3・R－3からQ－9においてSR3001の北岸を検出した。これは2003年度8区で検出したものの



第225図　南区（2000年度1区）調査区遺構平面図



第226図　南区（2000年度１区）土層柱状図

延長である。これより南側の調査区はSR3001の堆積層となる。

自然流路（SR3001）内しがらみ遺構（第225、238図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドδ－Ⅳ、小グリッドH、I－１に位置する。

土層

しがらみ遺構は12層に分層した。１層～５層、10層～12層はオリーブ黒色を呈する粘質土である。６層～９層は灰色を呈する粘質土である。

自然流路内溝（SR3001ED01）（第227図）

位置

大グリッドLoc.F－１、中グリッドε－Ⅳ、小グリッドK、L－５～７に位置する。

規模と形状

検出長14.50m、最大幅2.20m、最大深度0.12mの溝である。N－82°－Wを軸とした直線状を呈する。

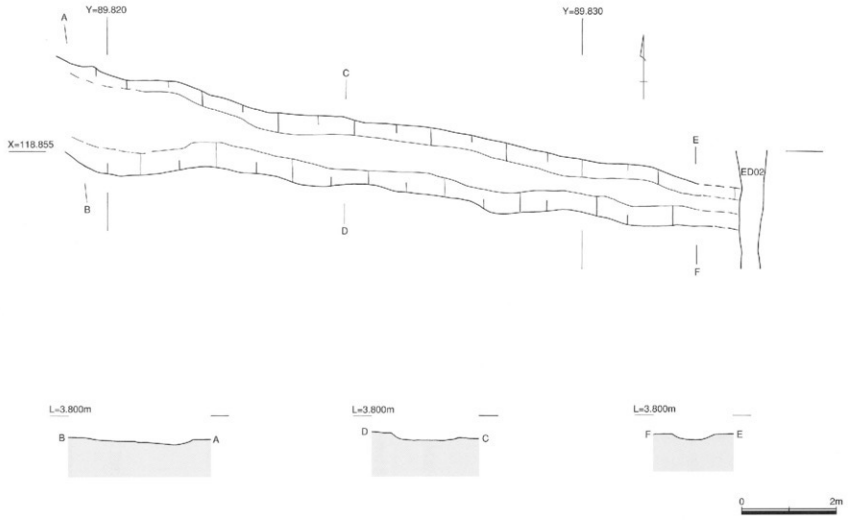
自然流路内溝（SR3001ED02）（第228図）

位置

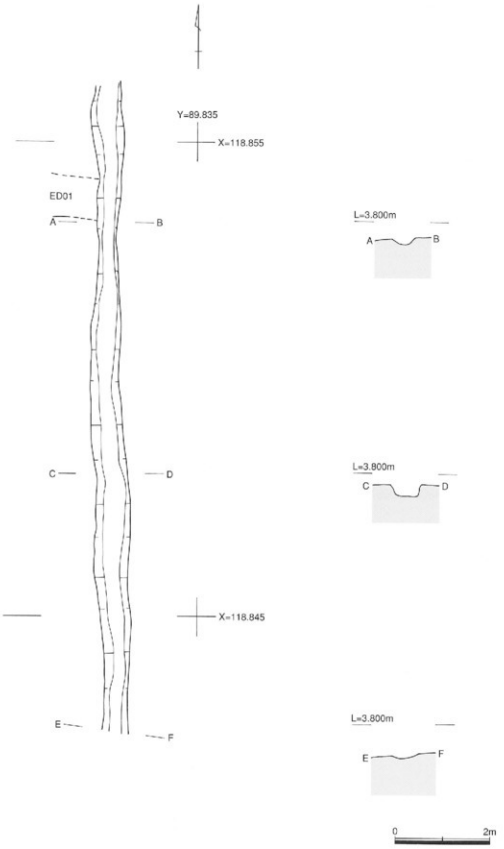
大グリッドLoc.F－１、中グリッドε－Ⅳ、小グリッドI～L－７に位置する。

規模と形状

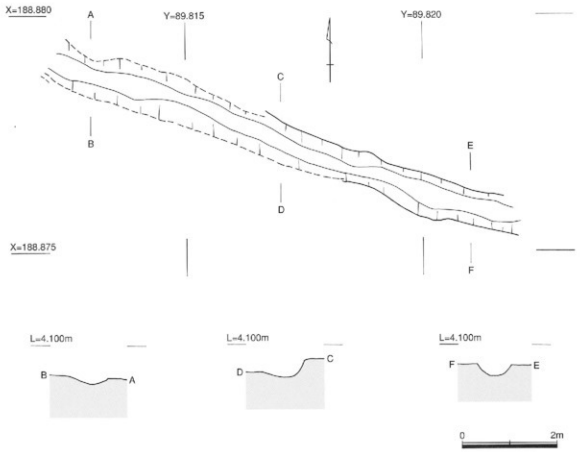
検出長13.70m、最大幅0.65m、最大深度0.24mの溝である。真北を軸とした直線状を呈する。



第227図　南区（2000年度１区）SR3001ED01平・断面図



第228図　南区（2000年度１区）SR3001ED02平・断面図



第229図　南区（2000年度１区）SR3001ED03平・断面図

自然流路内溝（SR3001ED03）（第229図）

位置

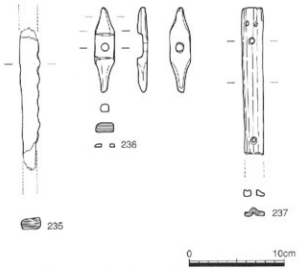
大グリッドLoc.F－１、中グリッドε－Ⅳ、小グリッドP－３～５に位置する。

規模と形状

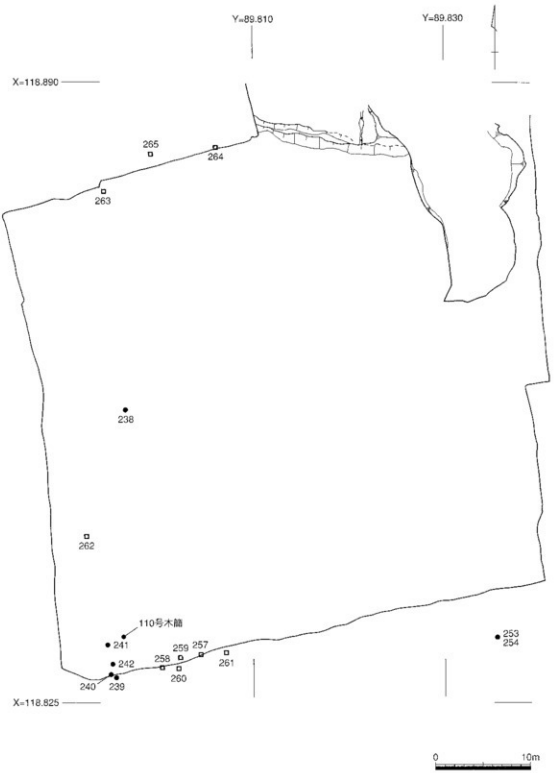
検出長10.30m、最大幅0.90m。N－70°－Wを軸とした直線状を呈する。

自然流路（SR3001）Ⅱ層出土遺物（第230図）

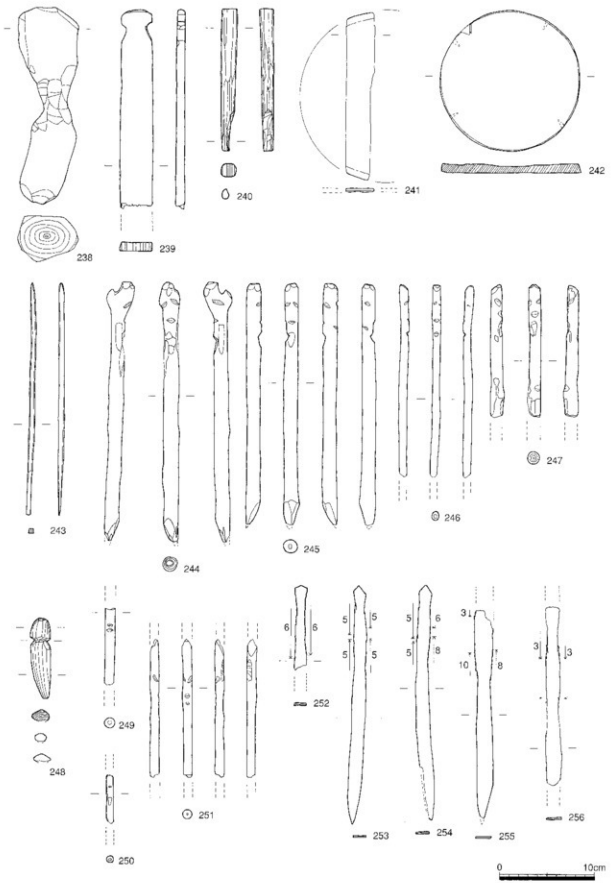
木製品は３点を図化した。235は農具の編台か。236は糸巻横木である。237は部材か。上部に３ヶ所、下部に１ヶ所の穿孔がある。



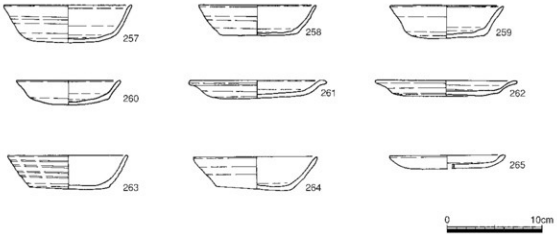
第230図　南区（2000年度１区）
SR3001Ⅱ層出土木製品



第231図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅲ層遺物出土状況ドット図



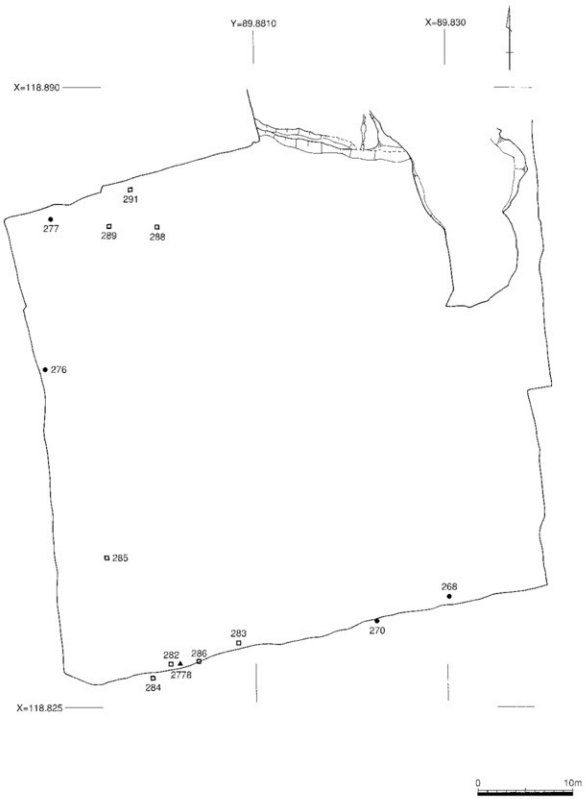
第232図　南区（2000年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（紡織具・容器・祭祀具・部材）



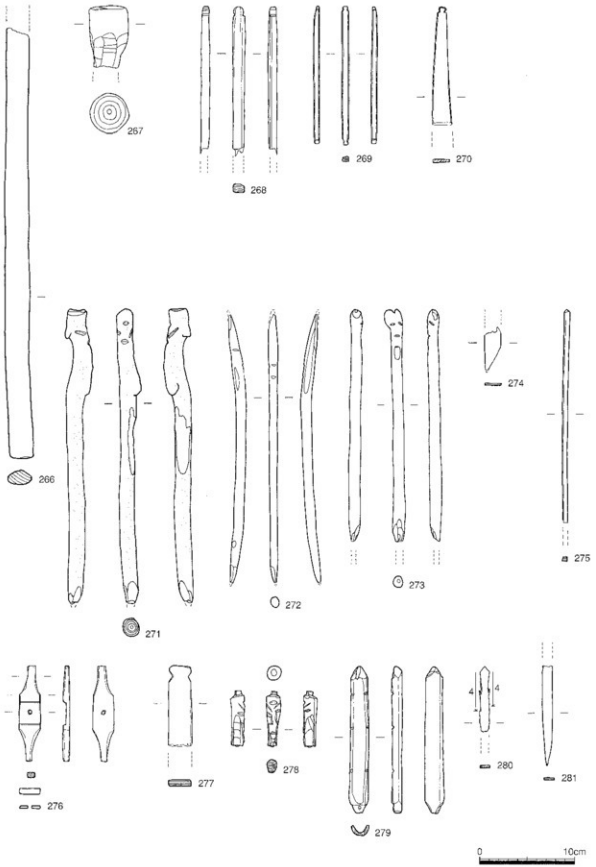
第233図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅲ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅲ層出土遺物（第231～233図）

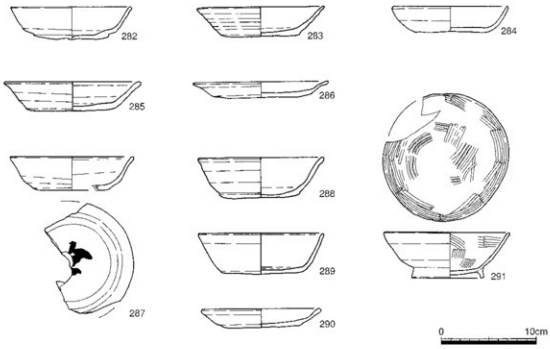
木製品は19点を図化した。238は木錘である。239は中筒である。241、242は円形曲物の底板である。243は棒状祭祀具である。244～251は人形である。248が立体人形である以外は円筒状人形に分類される。252～256は斎串である。土器は９点を図化した。257～260、263、264は土師器の杯である。261、262、265は土師器の皿である。



第234図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅳ層遺物出土状況ドット図



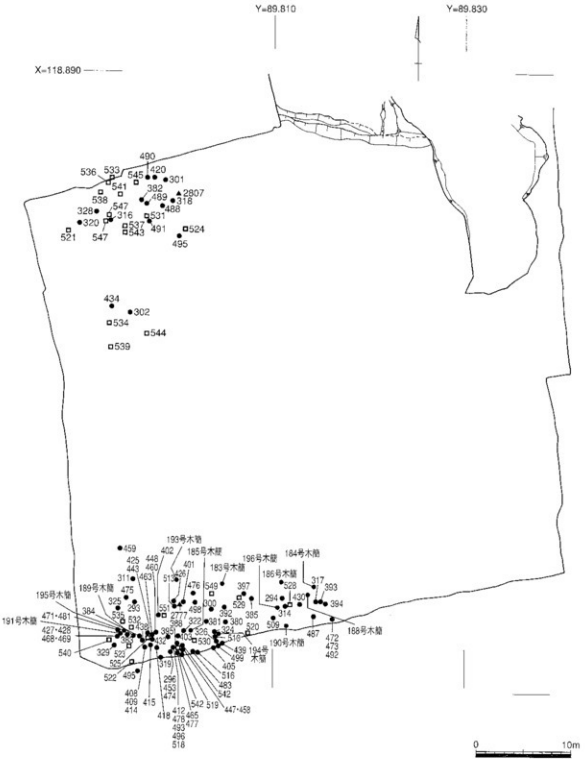
第235図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅳ層出土木製品（農具・紡織具・文房具・祭祀具・部材）



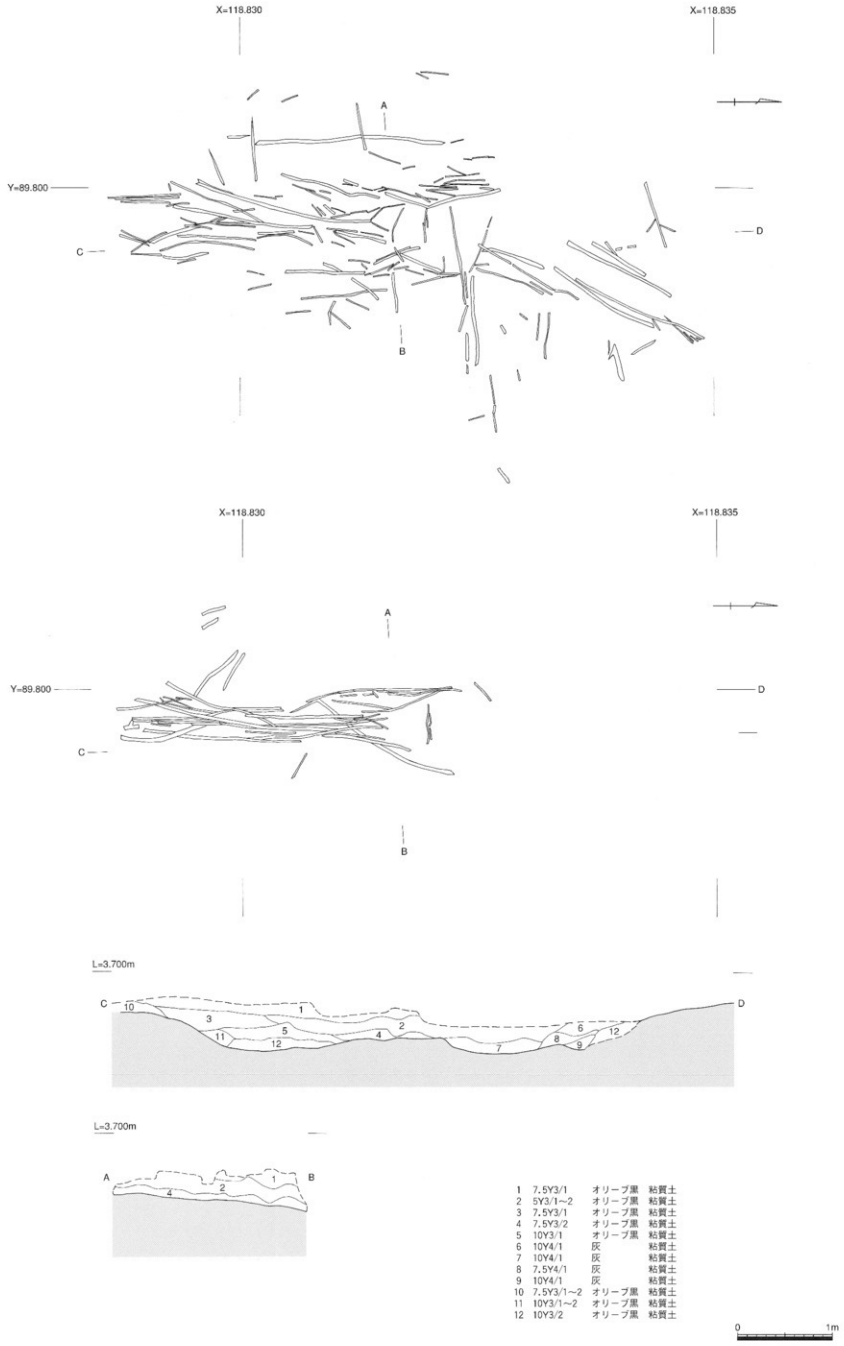
第236図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅳ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅳ層出土遺物（第234～236図）

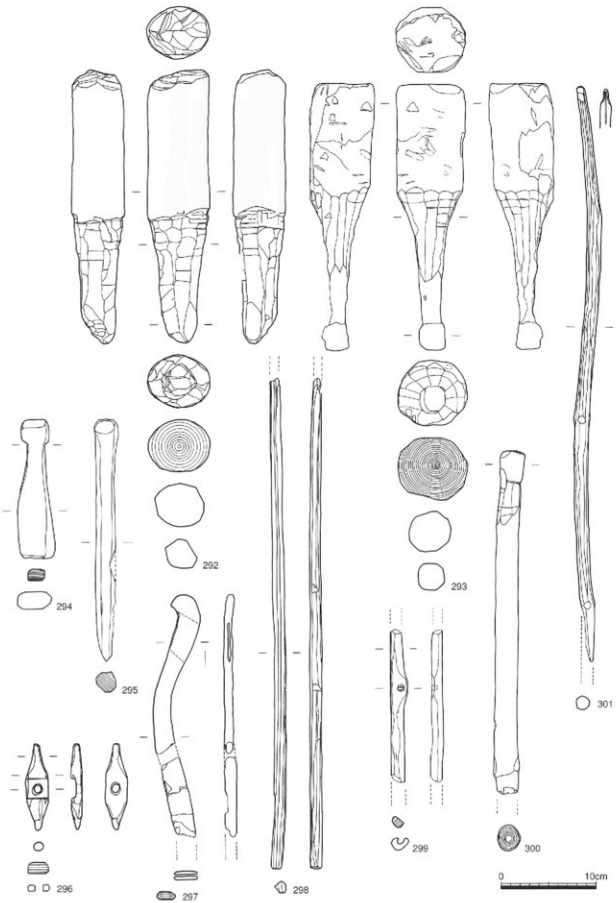
木製品は16点を図化した。266は柄である。267は木錘である。268～270は紡織具である。271～273は円筒状人形である。274は斎串の断片である。275は棒状祭祀具である。276は糸巻横木である。277は木札である。上端に切り欠きがあり、付札木簡と類似した形状を示す。278は立体人形である。細かな削りにより顔を表現する。279は舟形である。丸木舟で、上面の左右両側に３ヶ所の刻みがある。280、281は斎串である。土器は10点を図化した。282～285、287～289は土師器の杯である。284、285には赤色塗彩が施される。286、290は土師器の皿である。287は墨書土器である。土師器の杯の底部外面に墨書がある。欠損のため文字の判読はできない。291は黒色土器Ａ類の椀である。



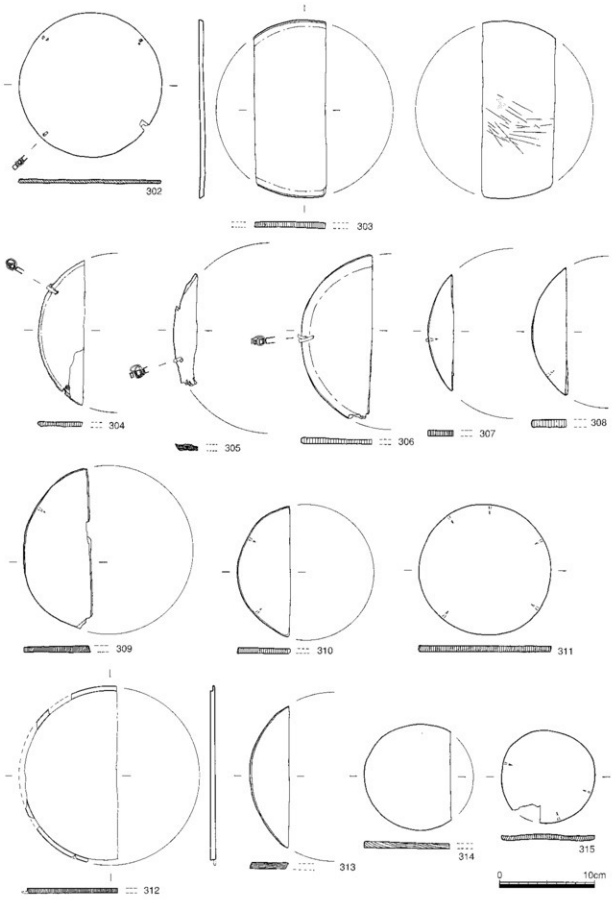
第237図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅴ層遺物出土状況ドット図



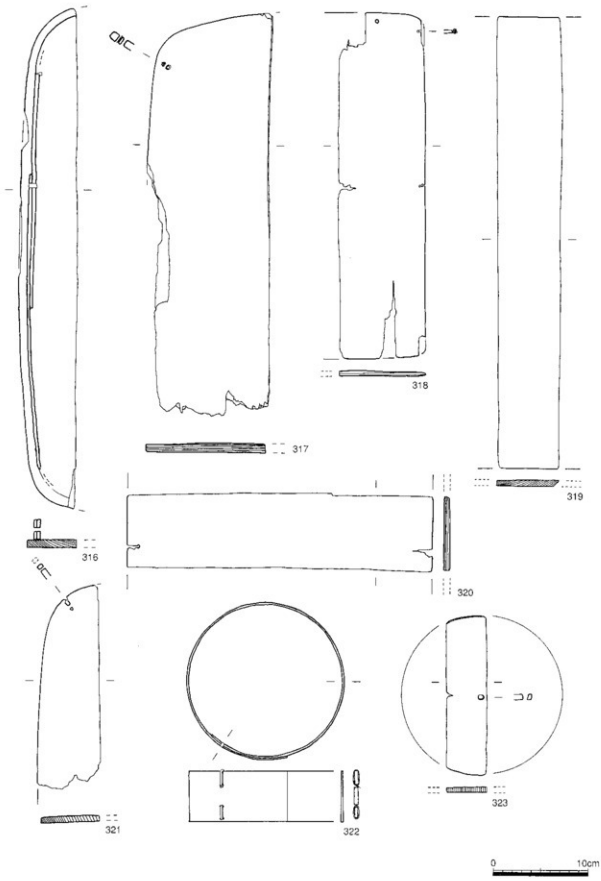
第238図　南区（2000年度1区）SR3001Ⅴ層しがらみ遺構遺物出土状況平面図・断面図



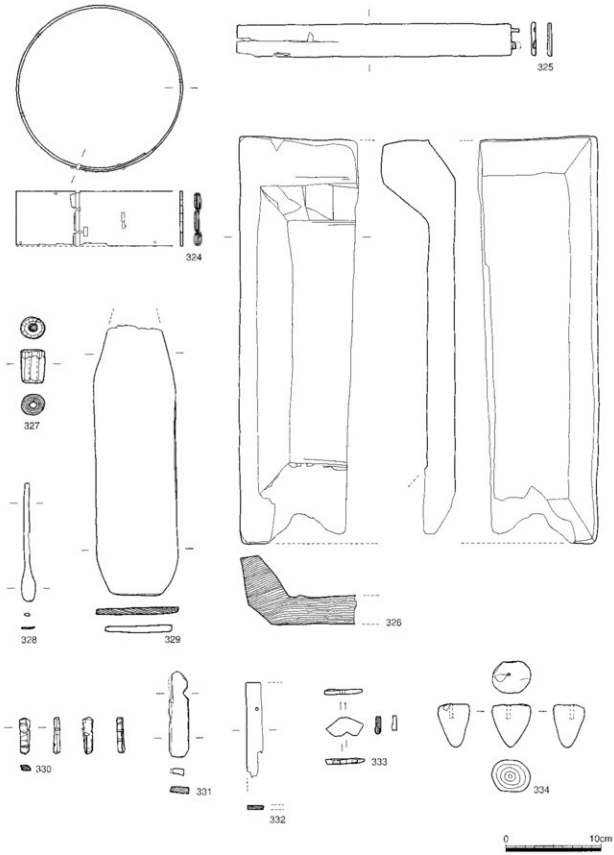
第239図　南区（2000年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（工具・農具・紡織具・武器）



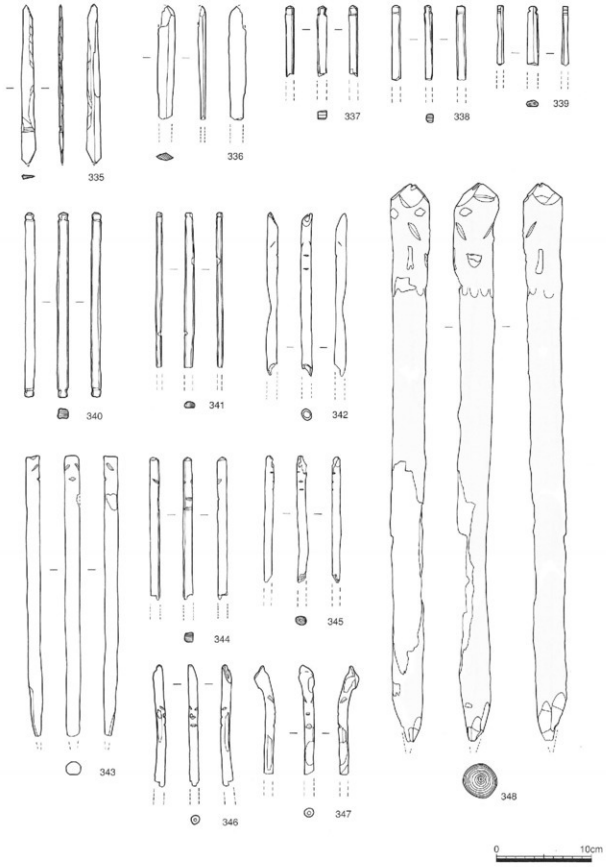
第240図　南区（2000年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（容器）（１）



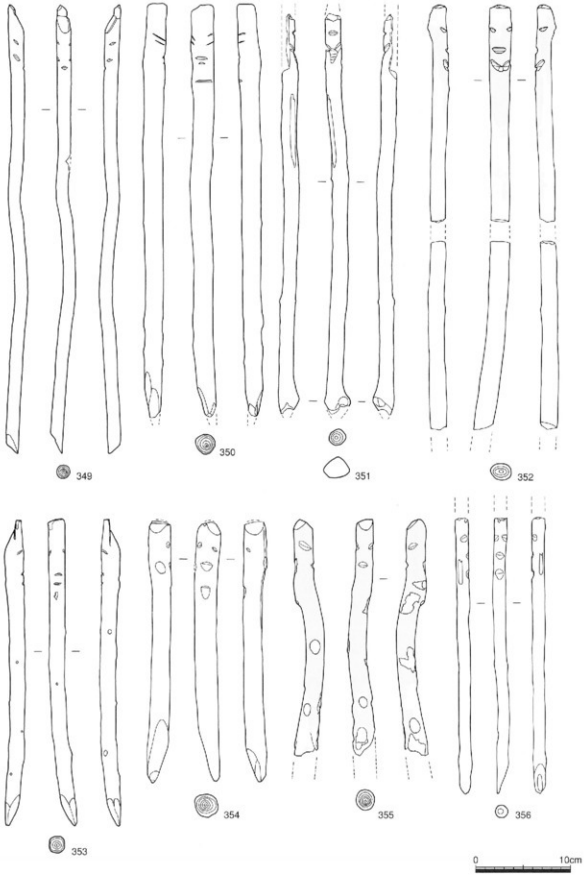
第241図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（容器）（２）



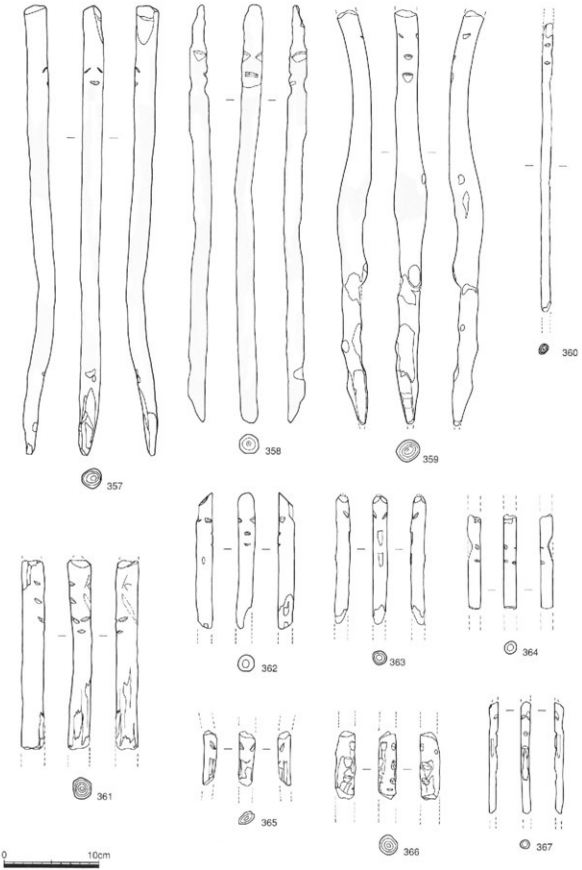
第242図　南区（2000年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（容器・食事具・文房具・遊戯具）



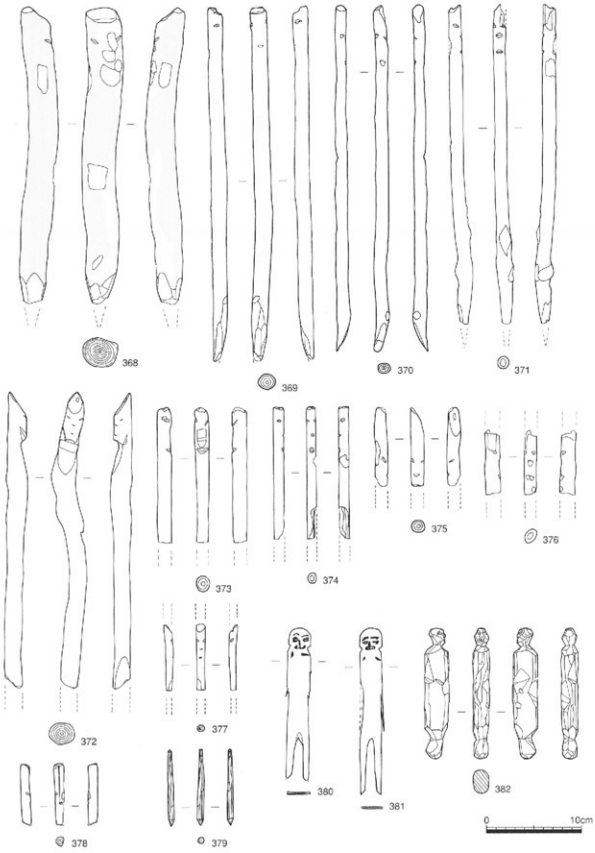
第243図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）（１）



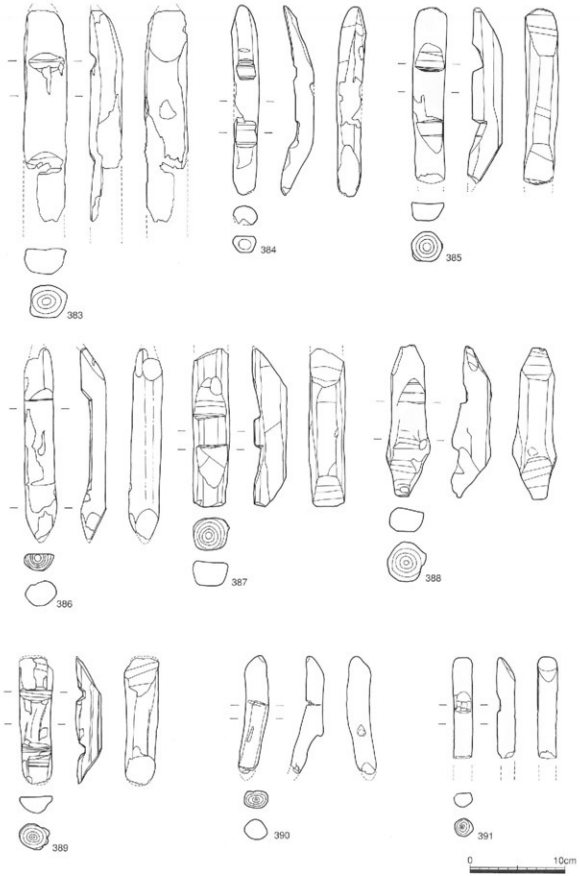
第244図　南区（2000年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（祭祀具）（２）



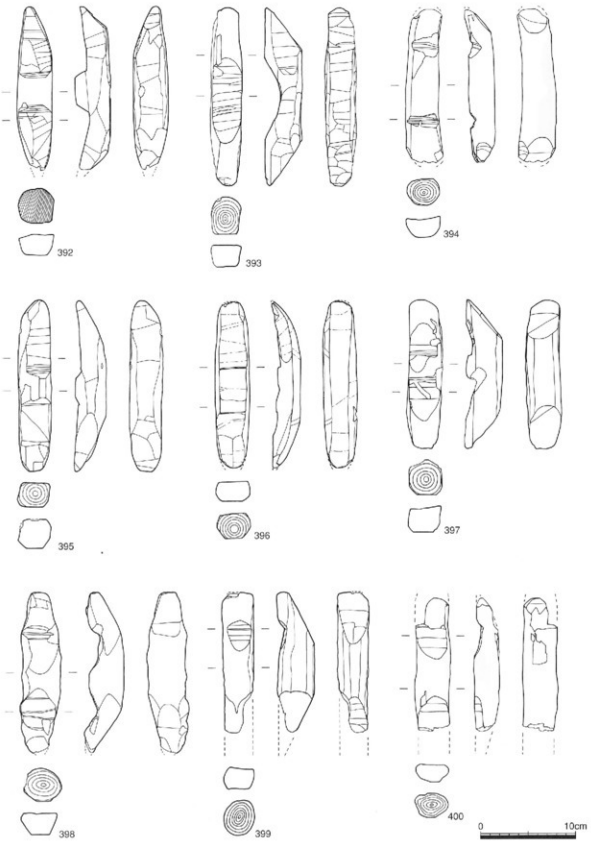
第245図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）（３）



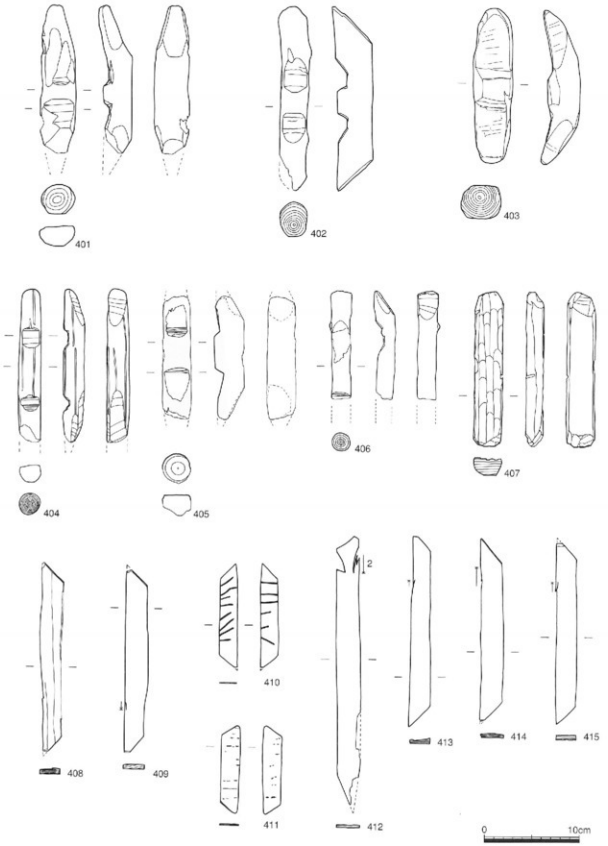
第246図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）（４）



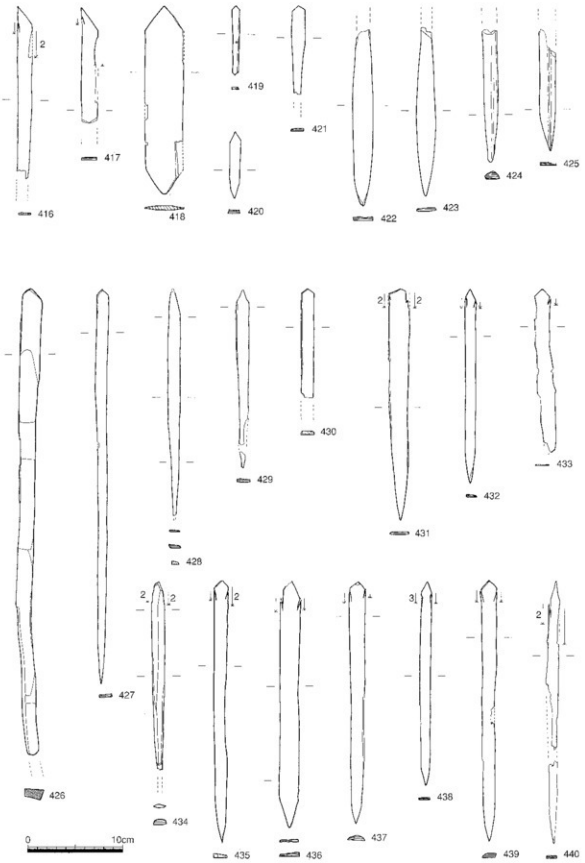
第247図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）（５）



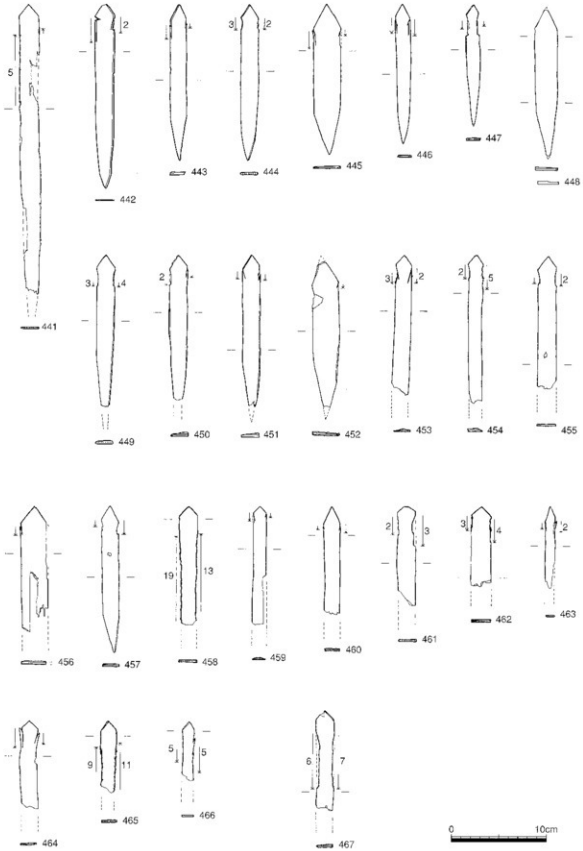
第248図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）（６）



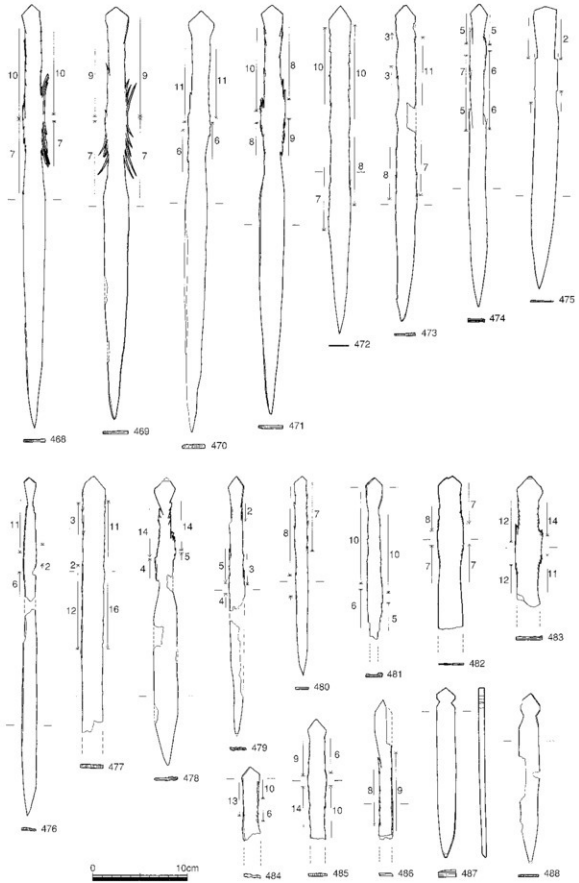
第249図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）（７）



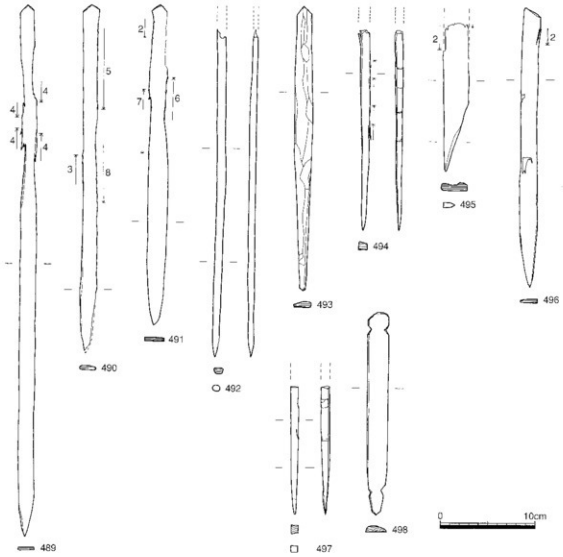
第250図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）（８）



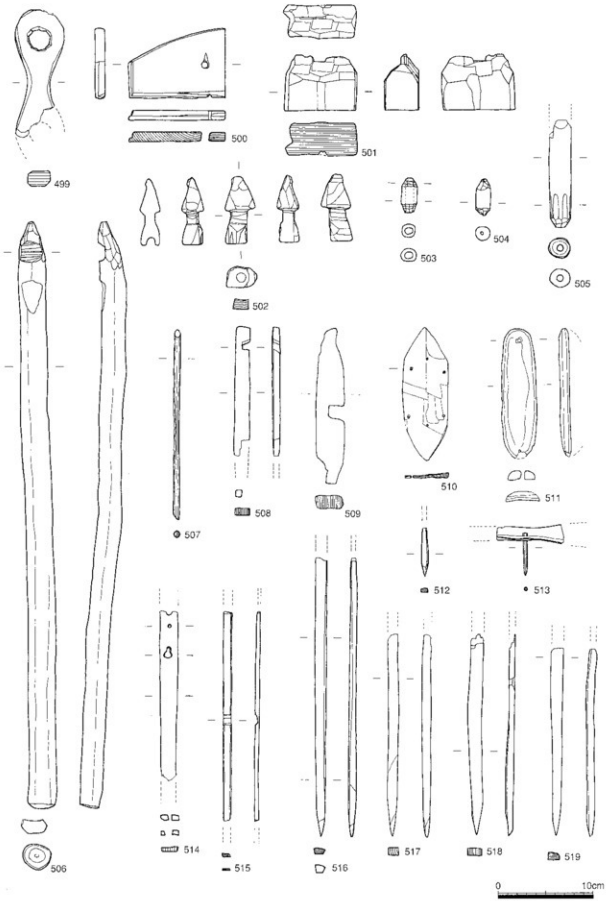
第251図　南区（2000年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）（9）



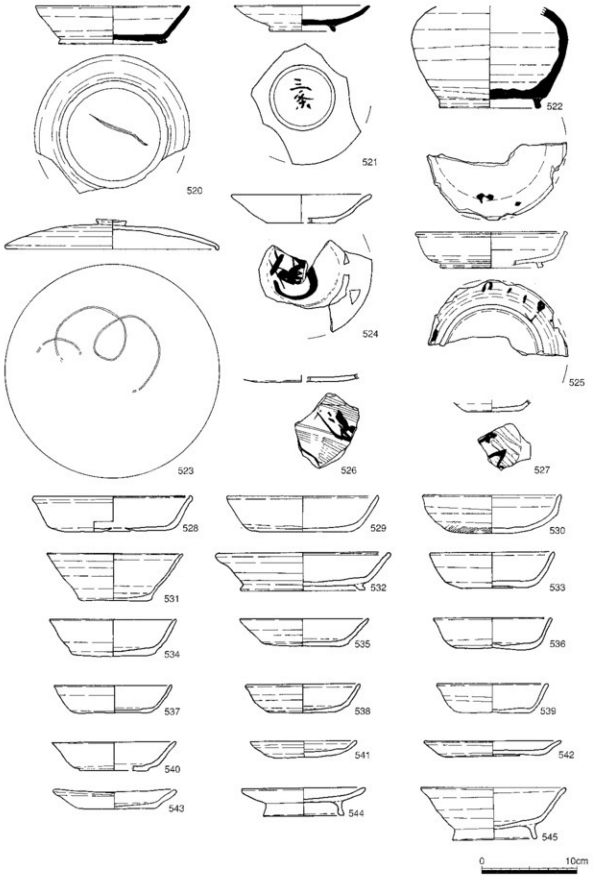
第252図　南区（2000年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（祭祀具）（10）



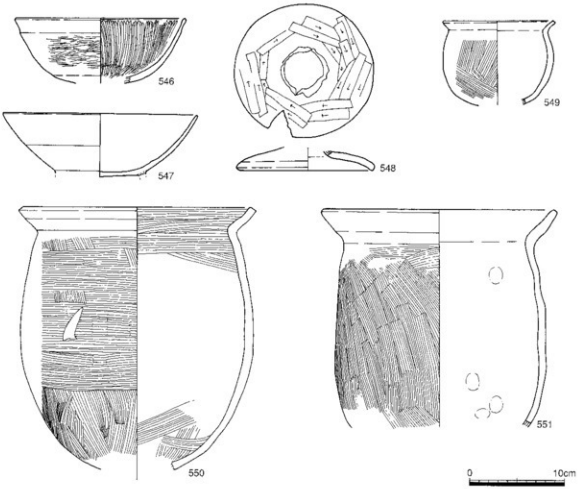
第253図　南区（2000年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（祭祀具）(11)



第254図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（雑具・部材・杭・用途不明）



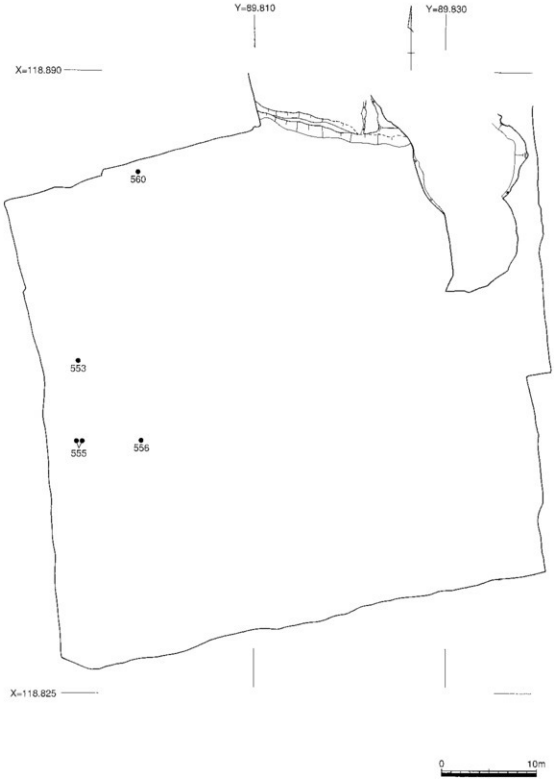
第255図　南区（2000年度１区）SR3001Ｖ層出土遺物（１）



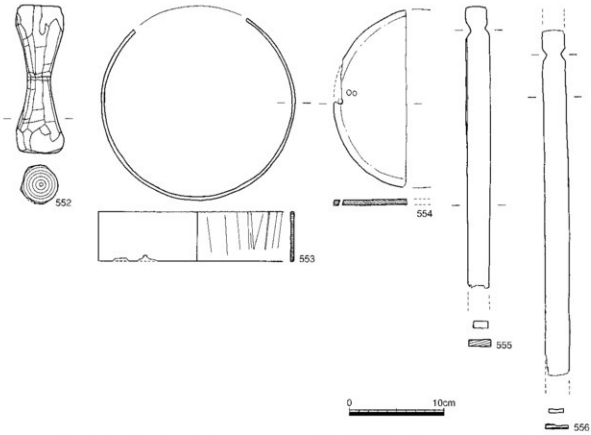
第256図　南区（2000年度１区）SR3001Ｖ層出土遺物（２）

自然流路（SR3001）Ｖ層出土遺物（第237、239～256図）

木製品は229点を図化した。292、293は農具の横槌である。292は身部に樹皮が残存し、未使用の可能性もある。293は柄の端部を有頭状に削り出している。296は糸巻横木である。297は鎌柄である。断面楕円形で、上部に身を差し込むスリットがある。298は編棒である。299は糸巻枠木である。300は織機である。301は丸木弓である。端部は両側から削って弭を成形している。302～315は円形曲物の底板である。316、317、321は楕円形曲物の底板である。318～320は方形曲物の底板である。322、324は円形曲物の側板である。323は円形曲物の蓋板である。325は方形曲物の側板である。326は容器の槽である。327は桧である。328は匙である。329は杓子で、柄が欠損している。330は文房具の算木である。角棒の両端を方錘形に成形している。331、332は木札である。333は琴柱である。334は遊戯具の独楽である。上部の中央に軸を差し込む孔がある。335、336は刀子形である。337～341は紡織具形である。342～378は円筒状人形である。379は立体人形である。全体に細かな削りで成形し、目、口を小さく削る。380、381は正面全身人形である。いずれも両側からのえぐりにより首を表現している。墨で眉、目、鼻、口を描いている。382は立体人形である。棒状の木を立体的に成形している。頭部は丸く削り目、鼻、口、首を彫り込んでいる。下端を削って凸部を成形している。383～407は舟形である。大部分が屋形舟形であるが、386、393のように屋形部のないものも存在する。408～498は斎串である。410、411のように台

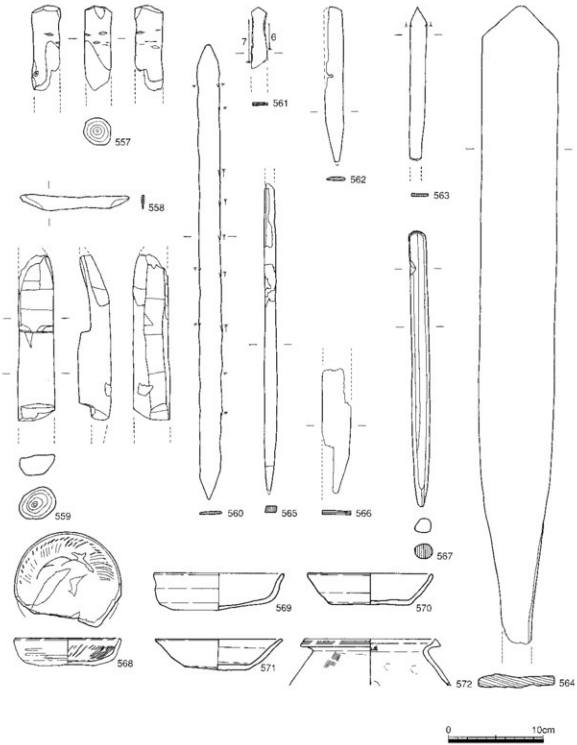


第257図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅵ層遺物出土状況ドット図



第258図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅵ層出土木製品（農具・容器・文房具）

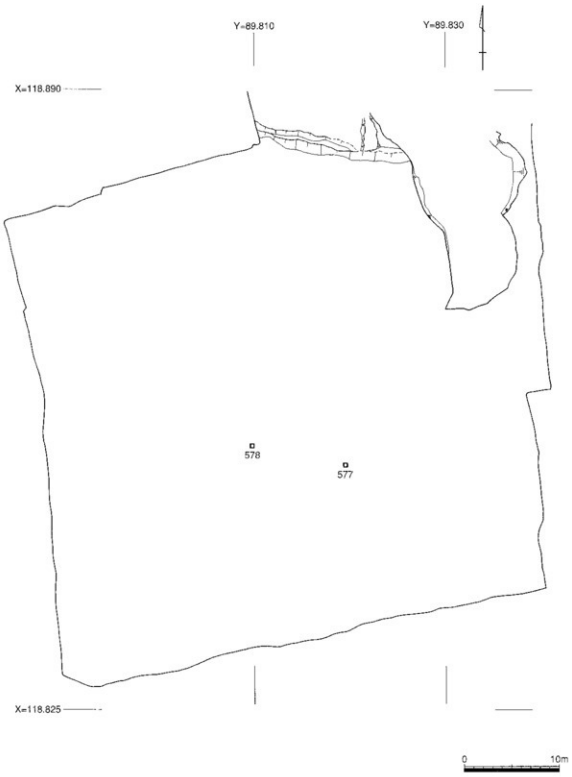
形状を呈し、両面または片面に線状の墨痕が見られるものがある。498は両端に切り欠きが見られ、木簡の031型式に類似したものか。499は雑具の自在である。土器は32点を図化した。520は須恵器の杯である。底部外面に刻書がある。521は墨書土器である。緑釉陶器の底部外面に「三条」と墨書されている。522は須恵器の壺である。523は土師器の杯蓋である。内面に螺旋状暗文が施される。524～527は墨書土器である。524は土師器の杯の底部外面に墨書の絵がある。525は土師器の杯の体部外面に墨書がある。526、527は小破片であり、文字の判読はできない。528～540は土師器の杯である。541～544は土師器の皿である。545、546は土師器の椀である。547は黒色土器Ａ類の椀である。548は土師器の高杯である。549～551は土師器の甕である。



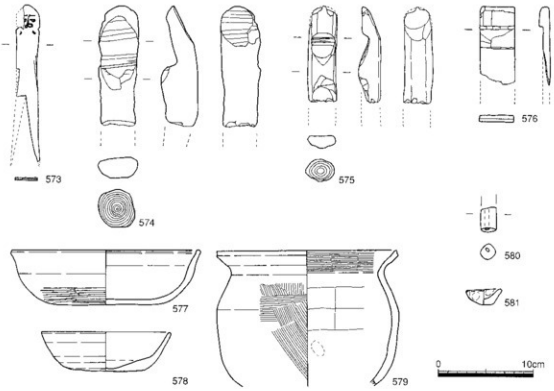
第259図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅵ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅵ層出土遺物（第257～259図）

木製品は16点を図化した。552は木錘である。553は円形曲物の側板、554は底板である。557は円筒状人形。558は鳥形か。559は舟形である。560～564は斎串である。566は斎串の断片である。土器は５点を図化した。568～571は土師器の杯である。568は外面はヘラミガキ、内面は放射状暗文を施している。570、571は赤色塗彩である。



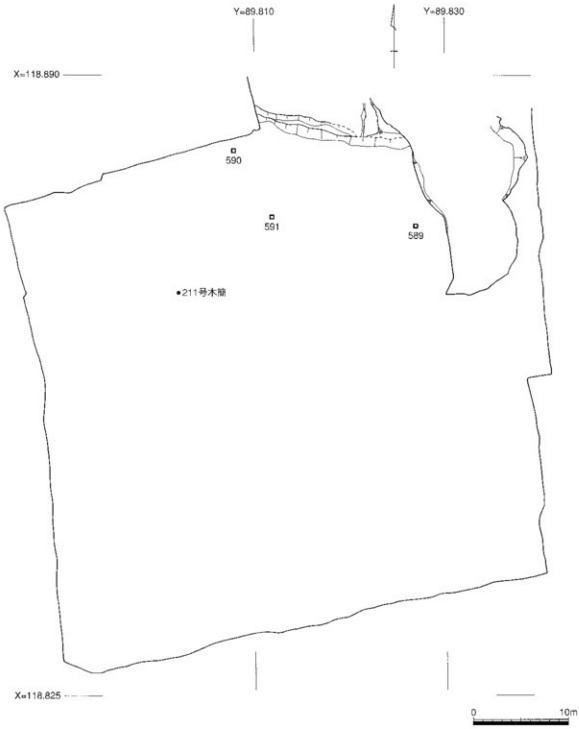
第260図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅷ層遺物出土状況ドット図



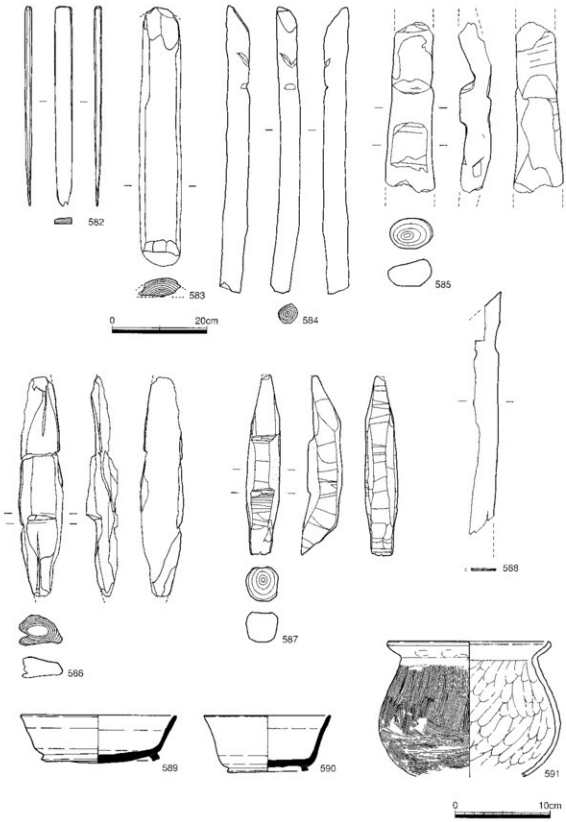
第261図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅷ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅷ層出土遺物（第260～261図）

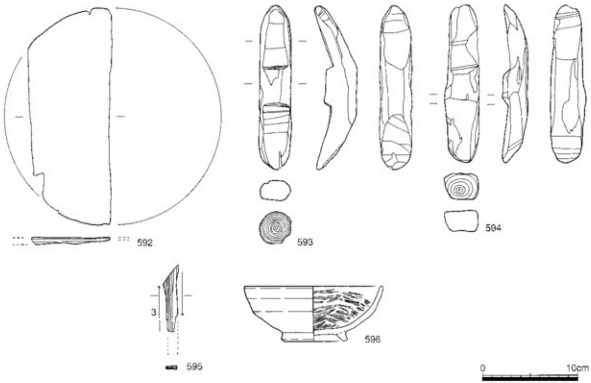
木製品は４点を図化した。573は祭祀具の正面全身人形である。顔は墨書で左手部は切り込みにより表現している。574、575は舟形である。土器は５点を図化した。577、578は土師器の杯である。579は土師器の甕である。580は土錘か。



第262図　南区（2000年度１区）SR3001区層遺物出土状況ドット図



第263図　南区（2000年度１区）SR3001Ⅸ層出土遺物



第264図　南区（2000年度１区）SR3001出土遺物

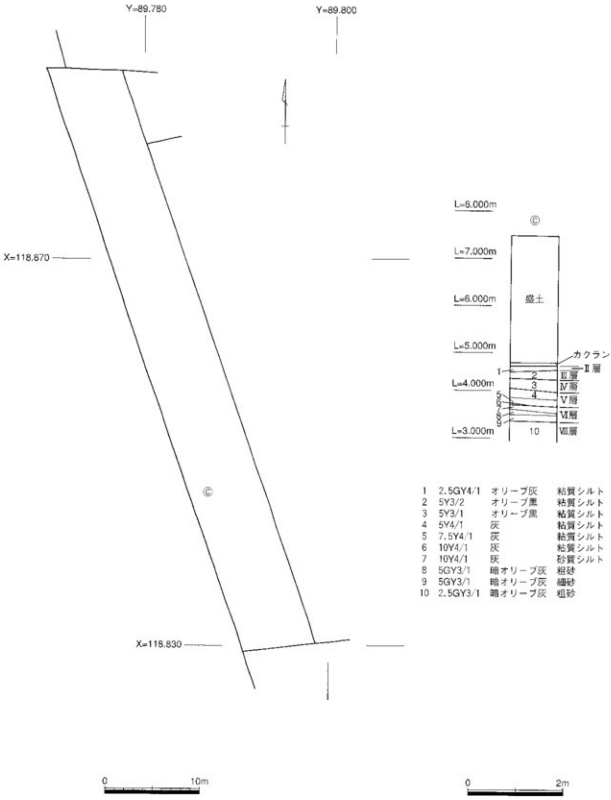
自然流路（SR3001）Ⅸ層出土遺物（第262、263図）

木製品は７点を図化した。582は篦である。583は櫂か。584は円筒状人形である。585～587は舟形である。588は斎串である。土器は３点を図化した。589、590は須恵器の杯である。591は土師器の甕である。

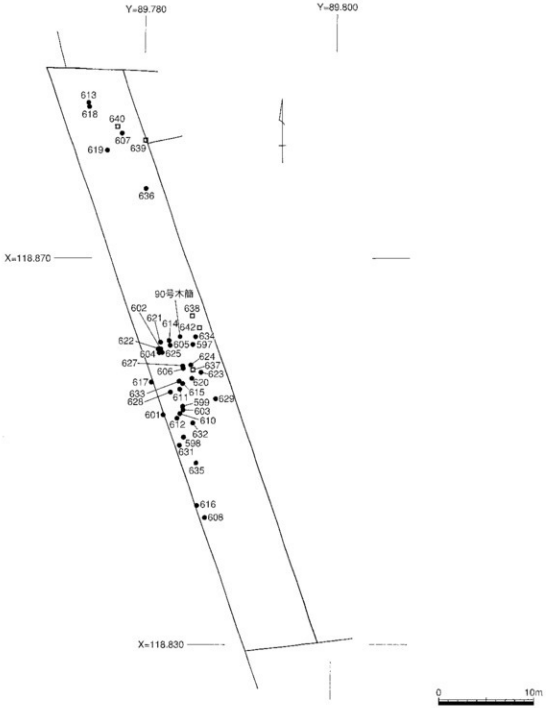
自然流路（SR3001）出土遺物（第264図）

木製品は４点を図化した。592は円形曲物の底板である。593、594は舟形である。595は斎串である。596は黒色土器Ｂ類の椀である。

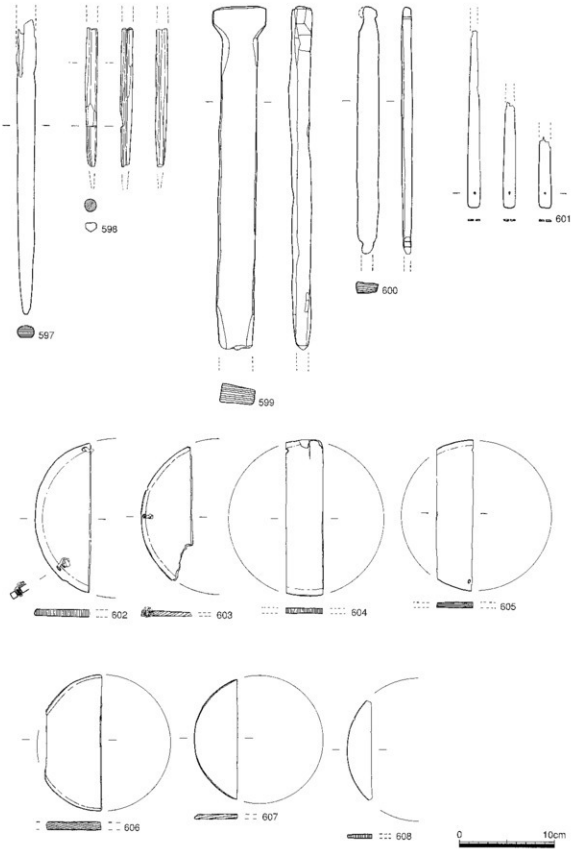
（24）2004年度２区



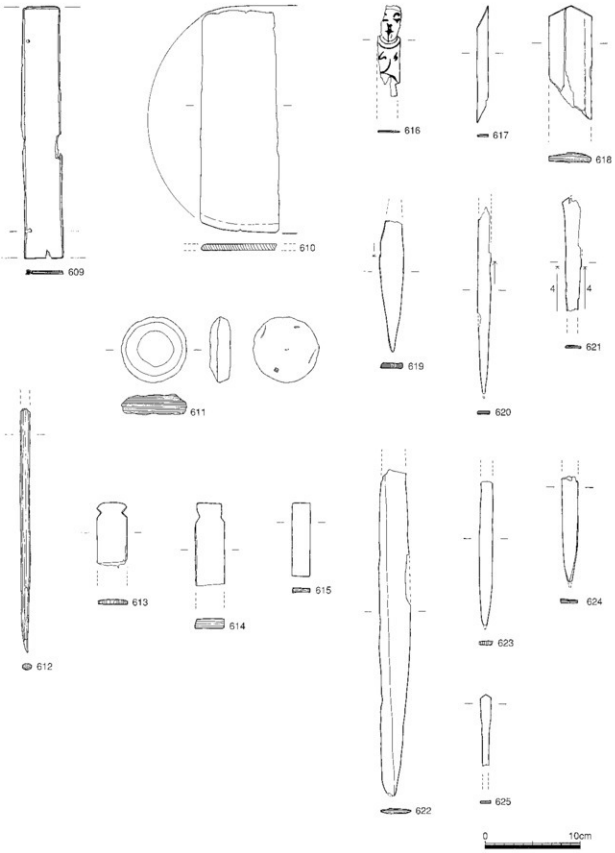
第265図　南区（2004年度２区）調査区平面図・土層柱状図



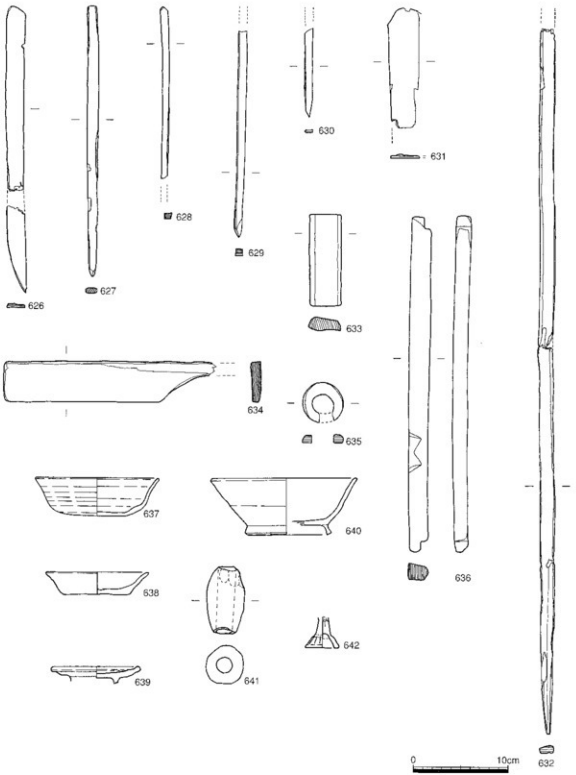
第266図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅱ層遺物出土状況ドット図



第267図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅱ層出土木製品（農具・紡織具・服飾具・容器）



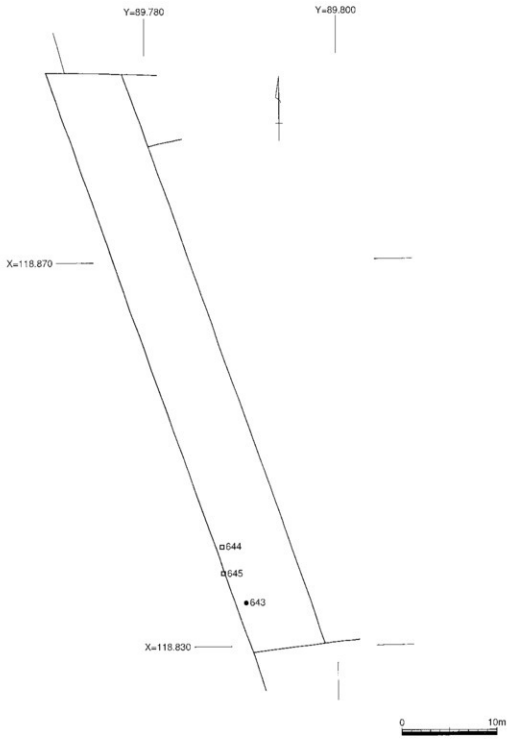
第268図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅱ層出土木製品（容器・食事具・文房具・祭祀具）



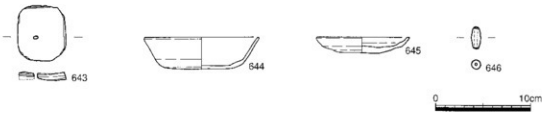
第269図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅱ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅱ層出土遺物（第266～269図）

木製品は40点を図化した。597、598は編棒である。599、600は紡織具である。601は槍扇である。602～610は曲物の底板である。大部分は円形であるが、方形や楕円形のものも含まれる。611は挽物の基部



第270図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅲ層遺物出土状況ドット図

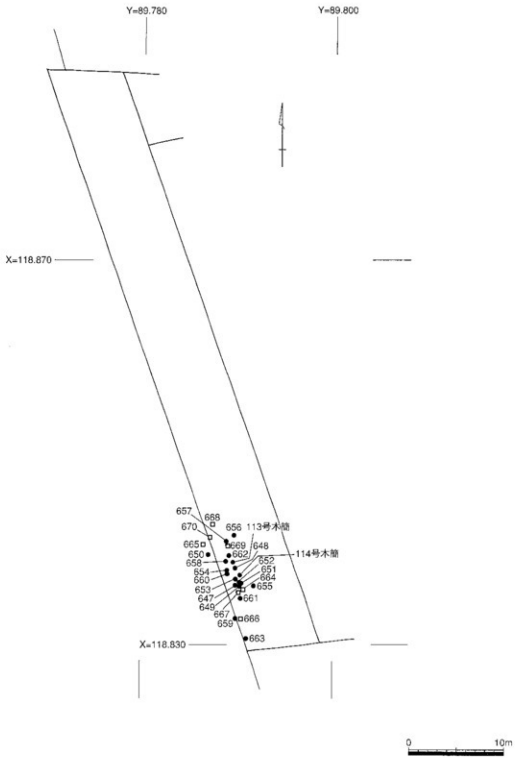


第271図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅲ層出土遺物

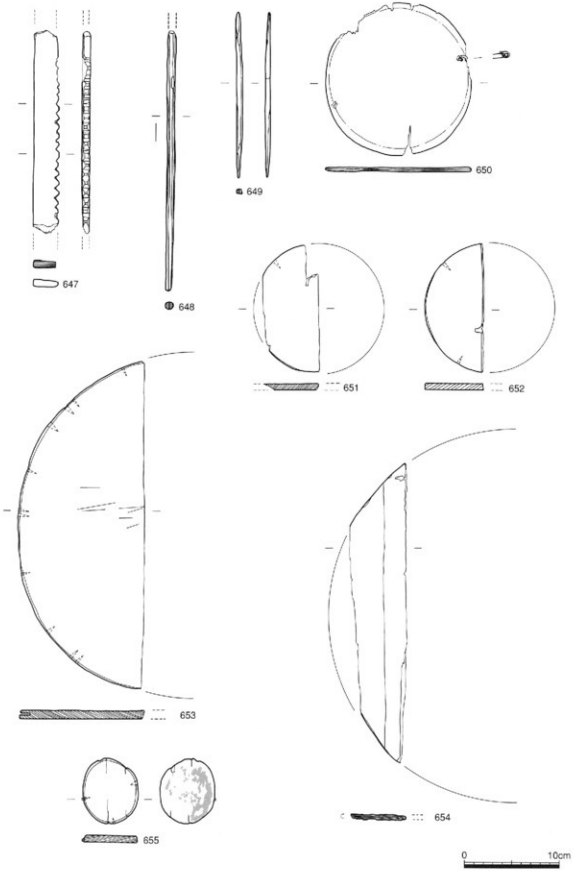
である。612は箸である。616は正面全身人形である。617～631は斎串である。632は棒状祭祀具である。634は台座である。土器は６点を図化した。637、638は土師器の杯である。639は土師器の皿である。640は黒色土器Ｂ類の椀である。641は大型の土錘である。

自然流路（SR3001）Ⅲ層出土遺物（第270、271図）

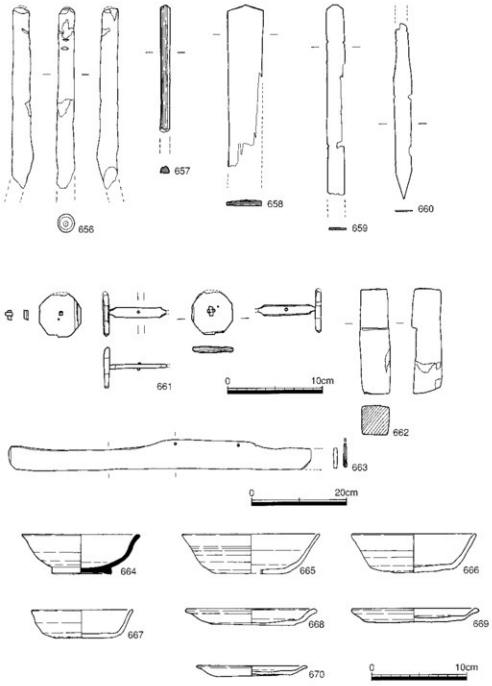
643は部材か。中心から外れた位置に穿孔がある。644は土師器の杯である。645は土師器の皿である。646は土錘である。



第272図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅳ層遺物出土状況ドット図



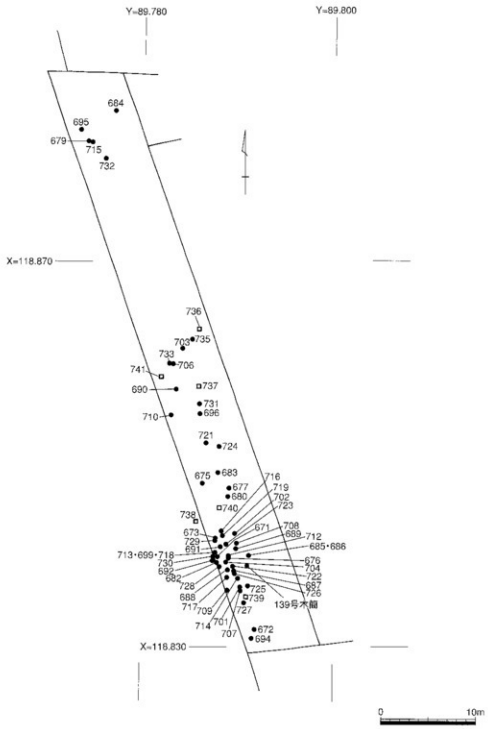
第273図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅳ層出土木製品（農具・服飾具・容器）



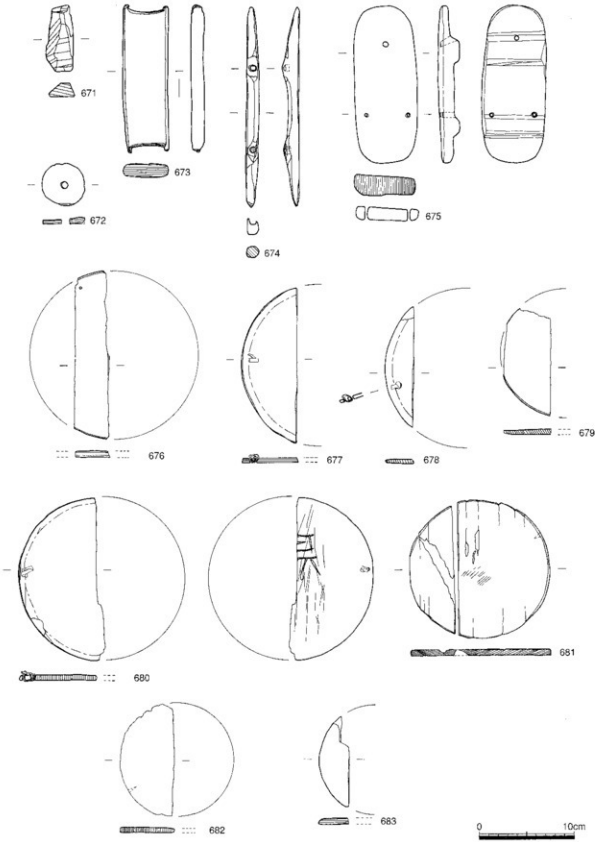
第274図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅳ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅳ層出土遺物（第272～274図）

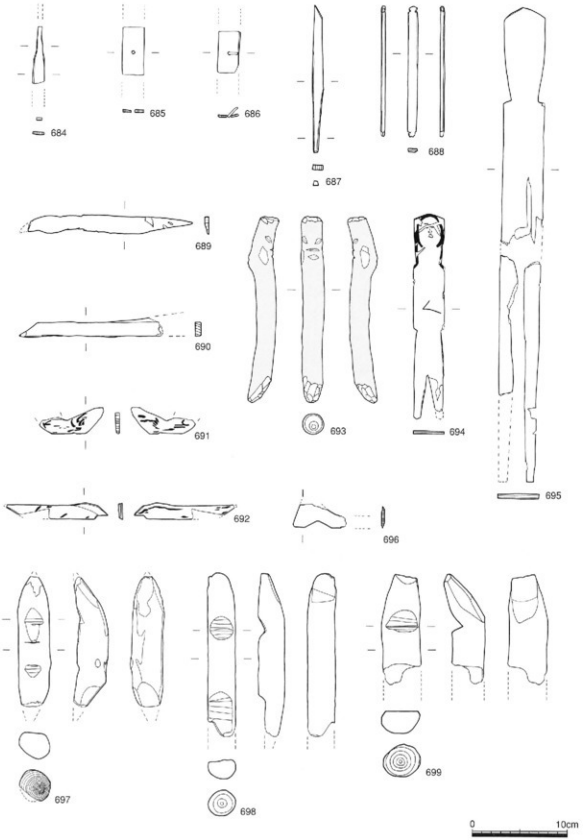
木製品は17点を図化した。647は編台である。648は編棒である。649は留針である。650～655は円形曲物の底板である。655は裏面に漆が塗布されている。656は円筒状人形である。657～660は斎串である。663は雑具の腰当てである。土器は７点を図化した。664は緑釉陶器の椀である。665～667は土師器の杯である。668～670は土師器の皿である。



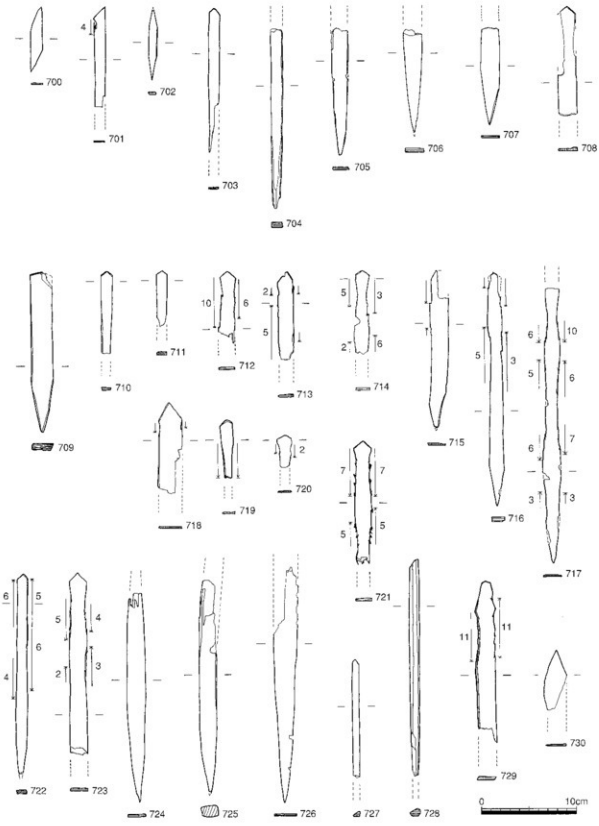
第275図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅴ層遺物出土状況ドット図



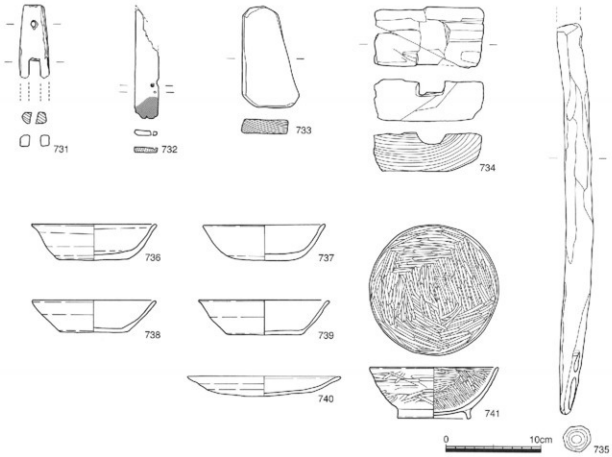
第276図　南区（2004年度２区）SR3001Ｖ層出土木製品（工具・紡織具・服飾具・容器）



第277図　南区（2004年度２区）SR3001Ｖ層出土木製品（食事具・文房具・祭祀具）



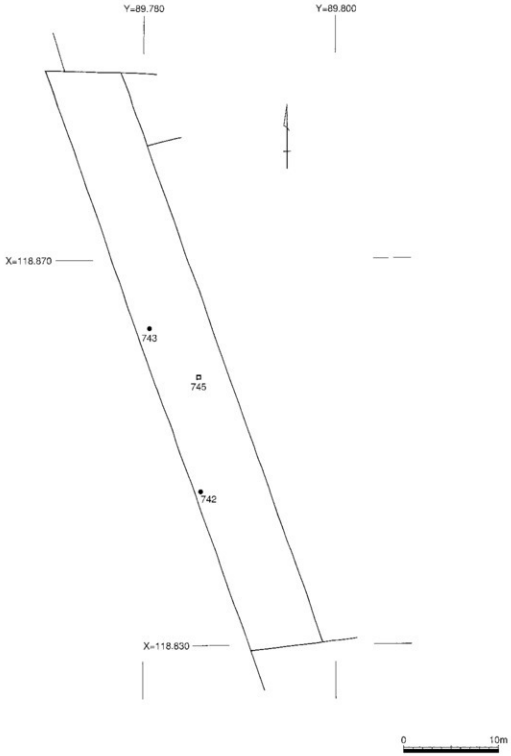
第278図　南区（2004年度２区）SR3001Ｖ層出土木製品（祭祀具）



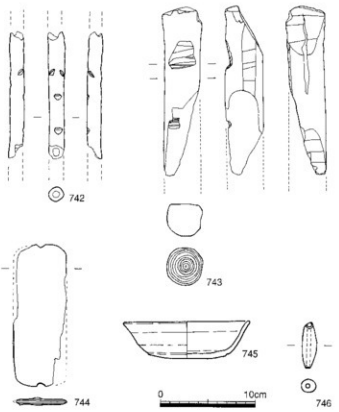
第279図　南区（2004年度２区）SR3001Ｖ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ｖ層出土遺物（第275～279図）

木製品は63点を図化した。672は紡輪である。673は糸巻である。674は糸巻枠木である。横木を挿入するためのほぞ穴が２ヶ所残存している。675は服飾具の連歯下駄である。676～683は円形曲物の底板である。680は外面に「貝」と彫られている。687は刀子形である。688は紡織具形である。689～692は鳥形である。691、692は墨痕がある。墨で羽を表現したものか。693は円筒状人形である。694、695は正面全身人形である。694は墨書で髪の毛、眉、目、鼻、口手（袖）を表現している。696は馬形の断片か。697～699は舟形である。700～730は斎串である。731は雑具の自在か。上器は６点を図化した。736～739は土師器の杯である。739は内面に煤が付着し、灯明皿として使用されたものか。740は土師器の皿である。741は土師器の椀である。内外面ともに赤色塗彩され、丁寧にヘラミガキが施されている。



第280図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅵ層遺物出土状況ドット図



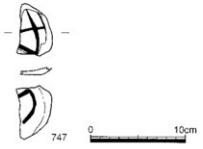
第281図　南区（2004年度２区）SR3001Ⅵ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅵ層出土遺物（第280、281図）

742は円筒状人形である。743は舟形である。745は土師器の杯である。746は土錘である。

自然流路（SR3001）出土遺物　（第282図）

747は墨書土器である。土師器の杯の小破片に墨書があるが、文字の判読はできない。

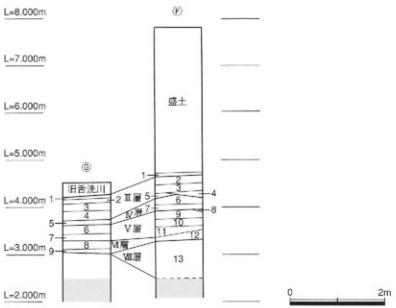


第282図　南区（2004年度２区）SR3001出土遺物

(25) 2005年度1区

第283図　南区（2005年度1区）調査区平面図

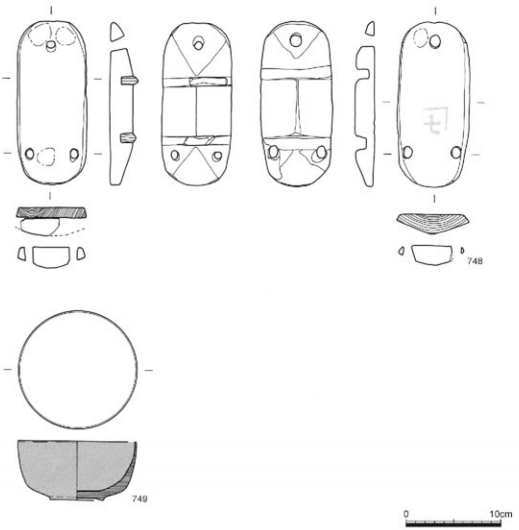
第284図　南区（2005年度1区）SR3001Ⅰ層遺物出土状況ドット図



1	5Y4/2	灰オリーブ	砂質シルト
2	5Y4/1	灰オリーブ	砂質シルト
3	5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト
4	5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト
5	5Y4/1	灰	細粒混じり粘質シルト
6	5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト
7	2.5Y3/1	黒褐	粘質シルト
8	2.5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト
9	5Y4/1	灰	砂質シルト

1	2.5Y4/3	オリーブ褐	シルト
2	2.5Y4/2	暗灰黄	シルト
3	2.5Y3/3	暗オリーブ褐	シルト
4	2.5Y4/2	暗灰黄	砂質シルト
5	5Y4/2	灰オリーブ	砂質シルト
6	5Y4/1	灰	粘質シルト
7	5Y4/2	灰オリーブ	粘質シルト
8	5Y4/1	灰	粘質シルト
9	5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト
10	5Y4/2	灰オリーブ	粘質シルト
11	5Y4/1	灰	粘質シルト
12	7.5Y4/1	灰	粗砂
13	5GY2/1	オリーブ黒	粗砂

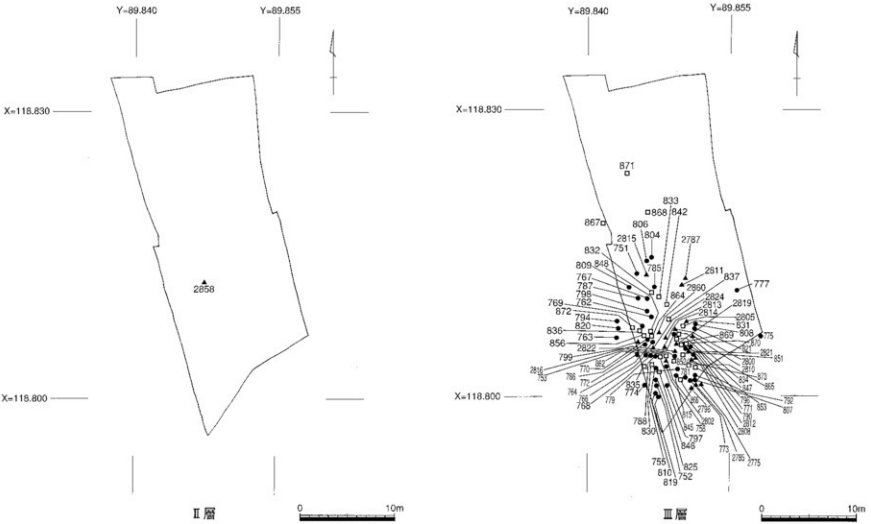
第285図　南区（2005年度１区）土層柱状図



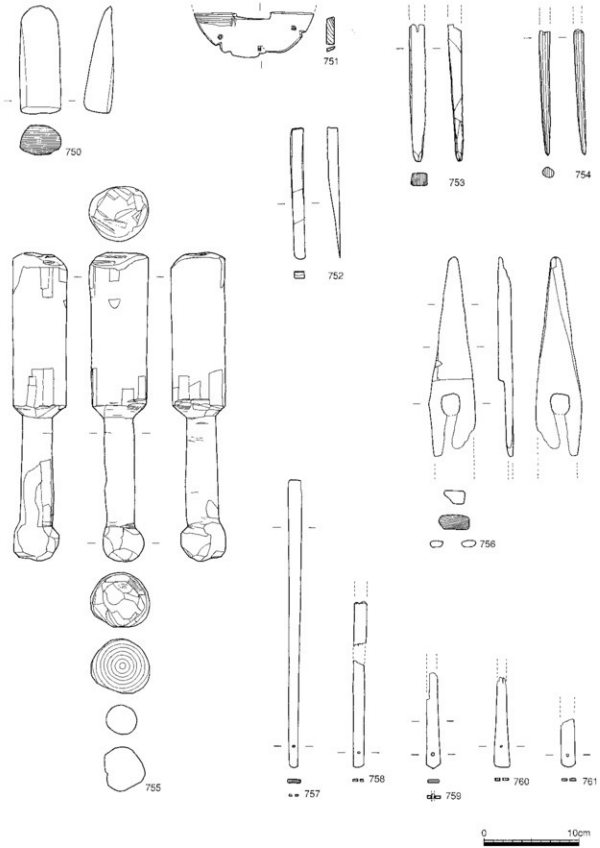
第286図　南区（2005年度１区）SR3001 I 層出土木製品（服飾具・容器）

自然流路（SR3001）I 層出土遺物（第284～286図）

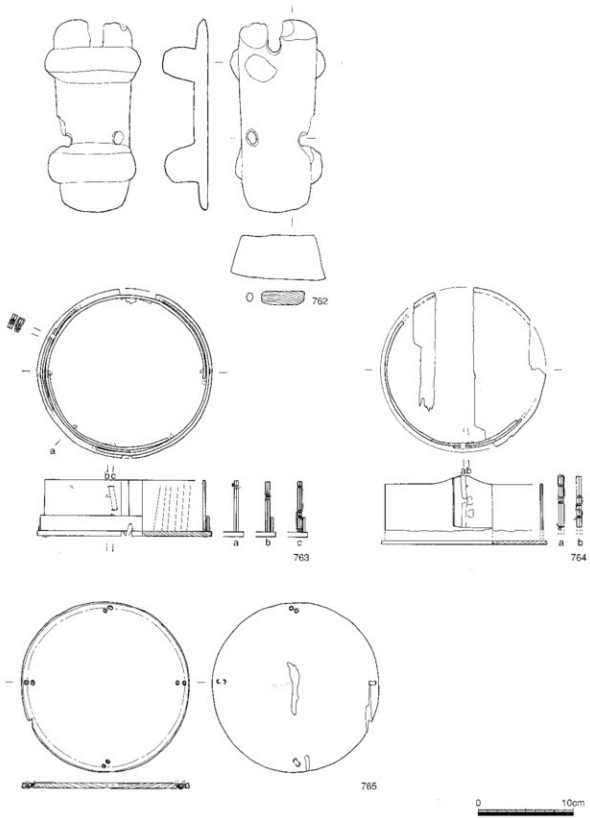
木製品は２点を図化した。748は服飾具の差歯下駄である。左右ともに揃っており、台に指、踵の圧痕と焼き印がある。749は容器の挽物である。外面は黒漆、内面は赤漆が塗布されている。



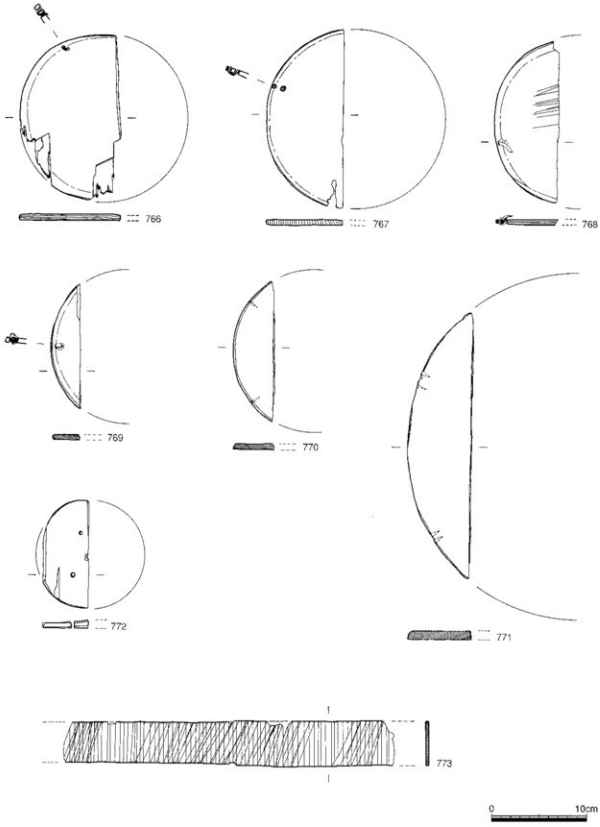
第287図　南区（2005年度1区）SR3001Ⅱ層・Ⅲ層遺物出土状況ドット図



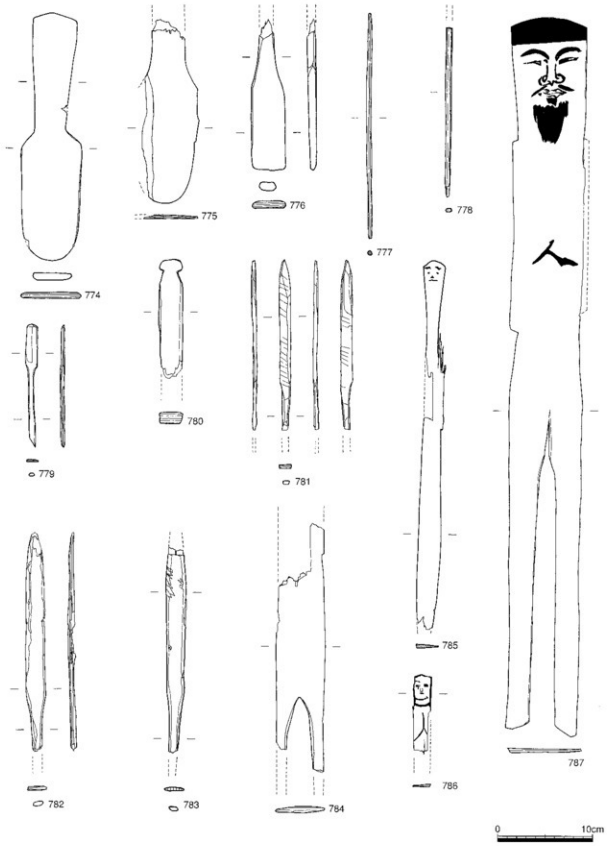
第288図　南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（工具・農具・紡織具・服飾具）



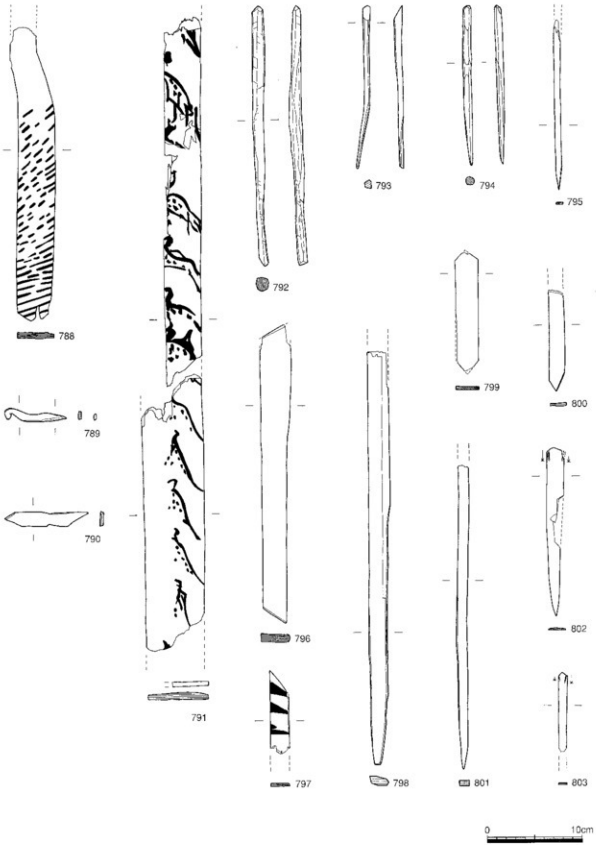
第289図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅲ層出土木製品（服飾具・容器）



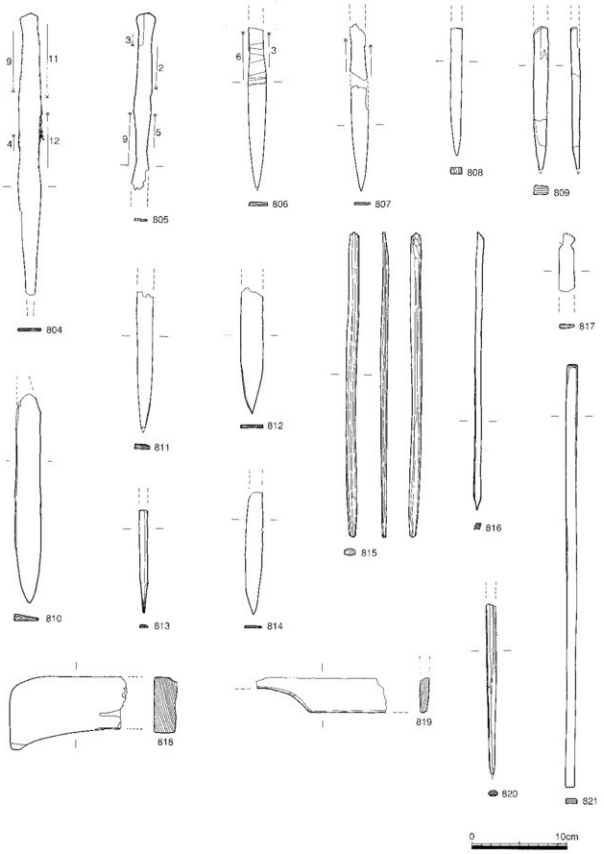
第290図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅲ層出土木製品（容器）



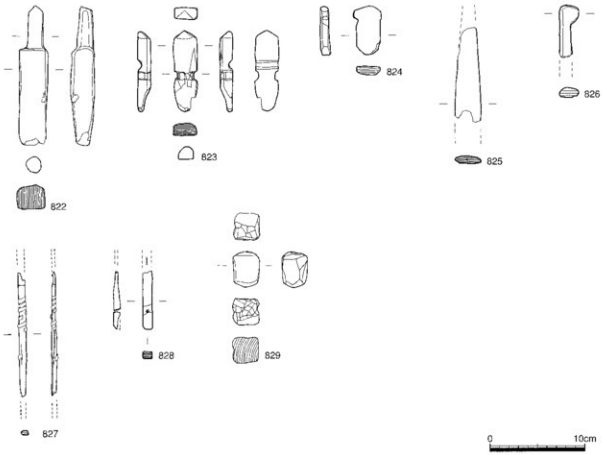
第291図　南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（食事具・文房具・祭祀具）



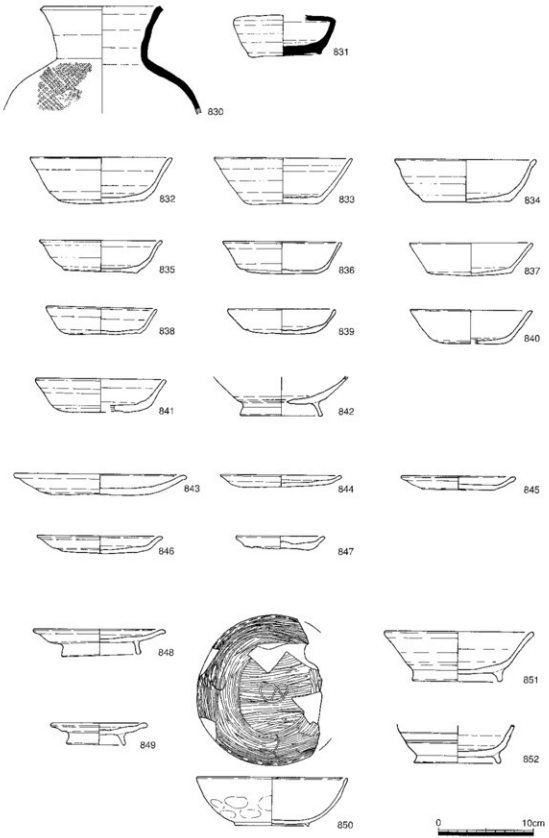
第292図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅲ層出土木製品（祭祀具）



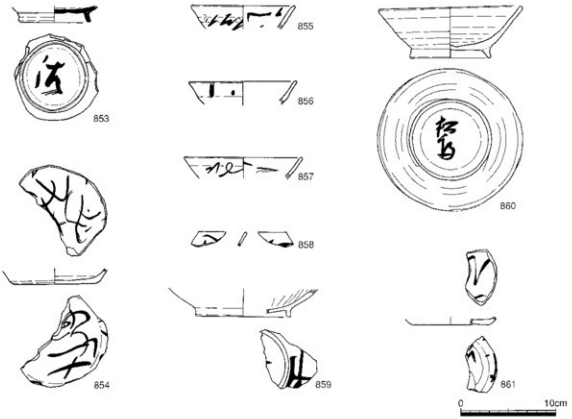
第293図　南区（2005年度1区）SR3001Ⅲ層出土木製品（祭祀具・部材）



第294図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅲ層出土木製品（部材・用途不明）



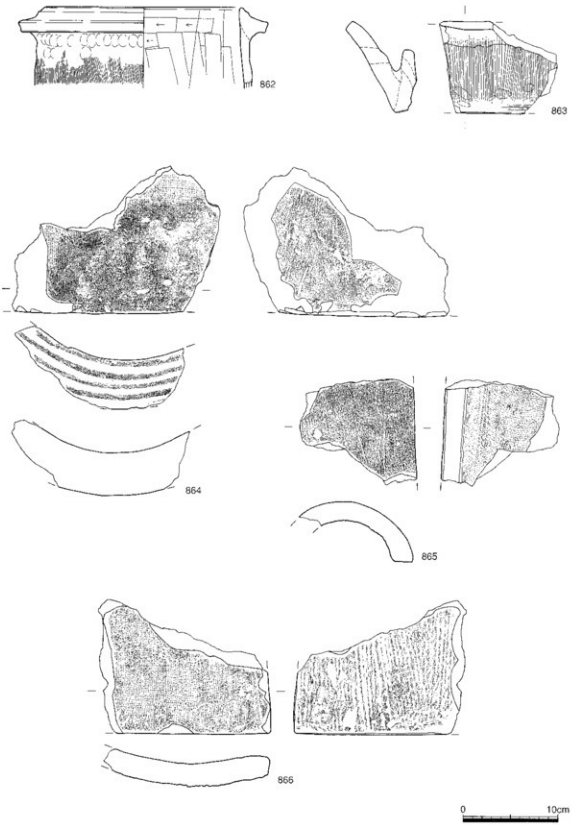
第295図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅲ層出土遺物（１）



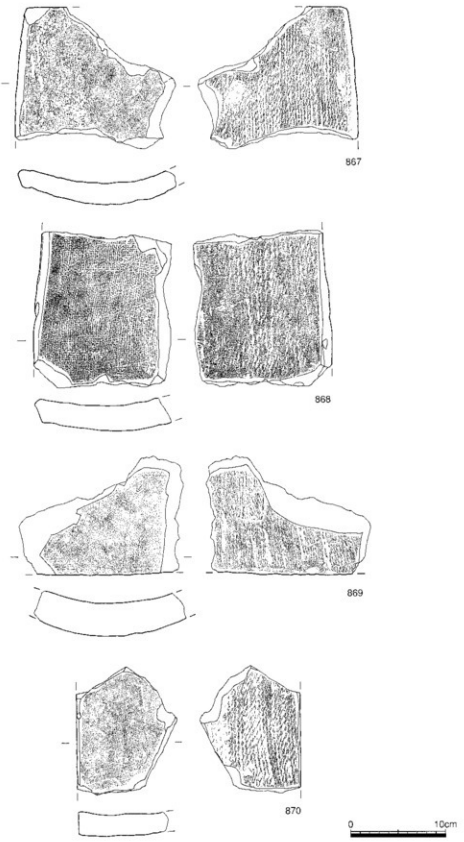
第296図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅲ層出土遺物（２）

自然流路（SR3001）Ⅲ層出土遺物（第287～299図）

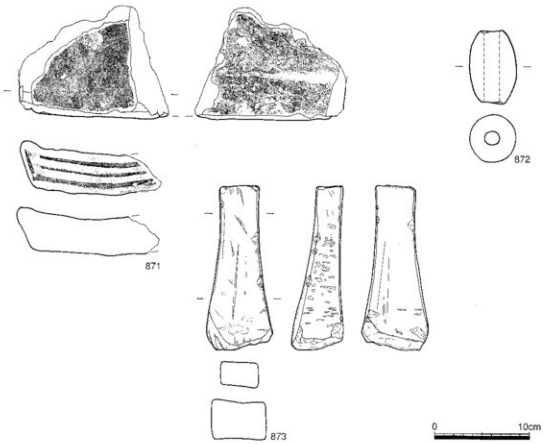
木製品は80点を図化した。750は楔である。751は座金形である。外周を六花形に成形し、穿孔が３ヶ所にある。753、754は馬鍬である。755は鼠具の横槌である。柄尻を有頭状に削り出している。756は大型の糸巻横木である。757～761は櫛扉である。762は連歯下駄である。763、764は円形曲物の底板と側板が結合したものである。765～771は底板、772は蓋板である。773は曲物の側板である。内面に多数の罫引線が付けられている。774～776は杓子である。777、778は箸である。779は刺串か。板を削り平らな部分と棒状の部分を成形している。下端は斜めに尖らせている。780は織機である。781は刀子形、782、783は剣形である。784～787は祭祀具の正面全身人形である。785は斎串のＣＶ型式に類似しているが、墨書により眉、目、鼻、口を描き下端は尖らせている。787は墨で頭（冠）、眉、目、鼻、口、髭を描く。788～791は祭祀具の鳥形である。788は墨痕が残存している。791は鳥の絵から文字になっていく様子を描いているものか。792～795は棒状祭祀具である。796～817は斎串である。818は雑具の腰掛けである。土器、土製品、瓦塼は43点を図化した。830、831は須恵器の壺である。832～841は土師器の杯である。842は土師器の椀である。843～849は土師器の皿である。848、849は高台が付く。850は黒色土器Ａ類の椀である。851、852は土師器の椀である。853～861は墨書土器である。853は土師器の椀の底部外面に「佐」と墨書したもの。854は土師器の杯の底部外面に「八七六」と記し、内面に「此不」と墨書する。855、858は土師器の杯の体部内外面に墨痕がある。文字の判読はできない。856は外面のみに墨痕がある。857は土師器の杯である。体部外面にらせん模様、内面に松葉状模様がある。859は黒色土器Ａ類の椀である。底部外面に「土」と墨書する。860は赤色塗彩の土師器の椀である。底部外面に「松



第297図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅲ層出土遺物（３）

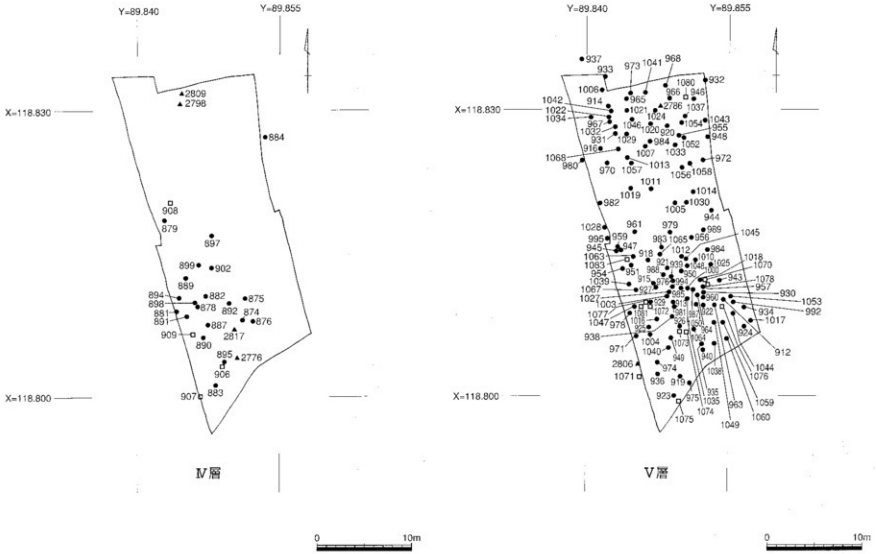


第298図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅲ層出土遺物（４）

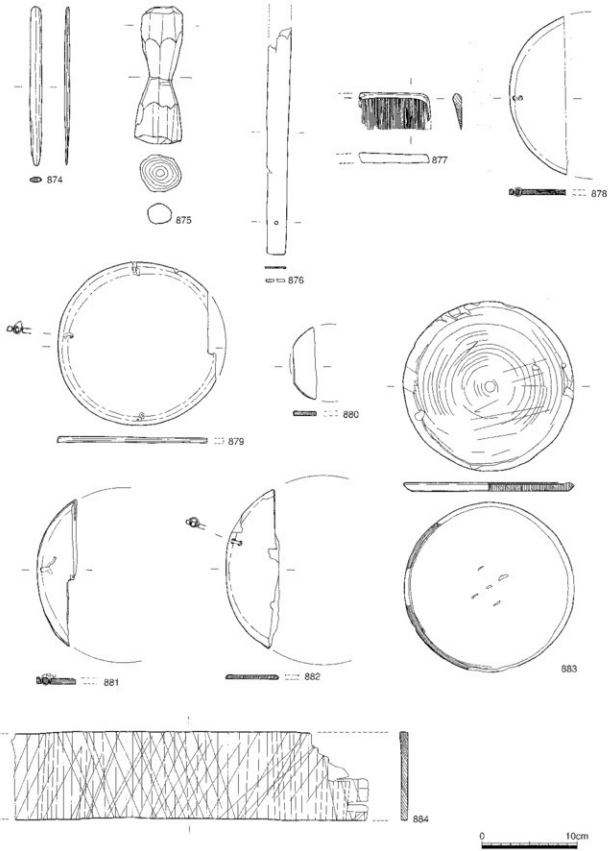


第299図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅲ層出土遺物（５）

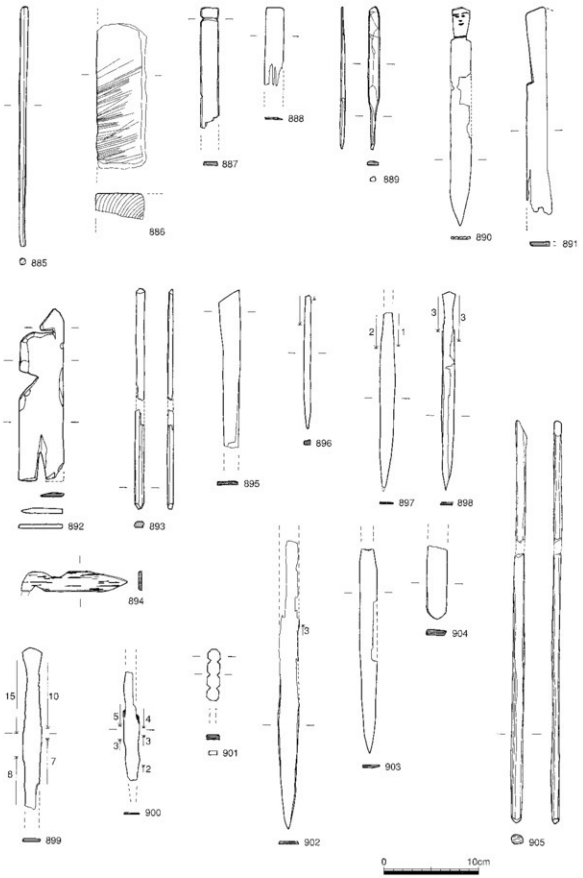
嶋」と墨書する。「松嶋」は『和名類聚抄』によると板野郡松嶋郷が見える。861は土師器の皿の小破片である。外面は判読できないが、内面は「衣」と記す。862は土師器の羽釜である。863は竈の上部の一部である。864～871は瓦である。864と871は軒平瓦である。872は大型の土錘である。873は砂岩製の砥石である。



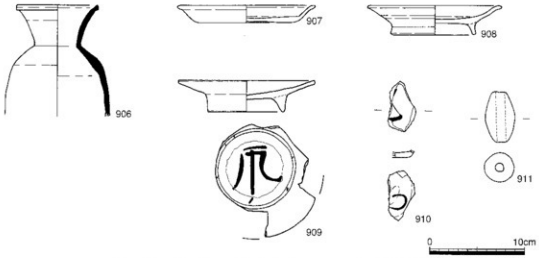
第300図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅳ層・Ⅴ層遺物出土状況ドット図



第301図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅳ層出土木製品（工具・農具・服飾具・容器）



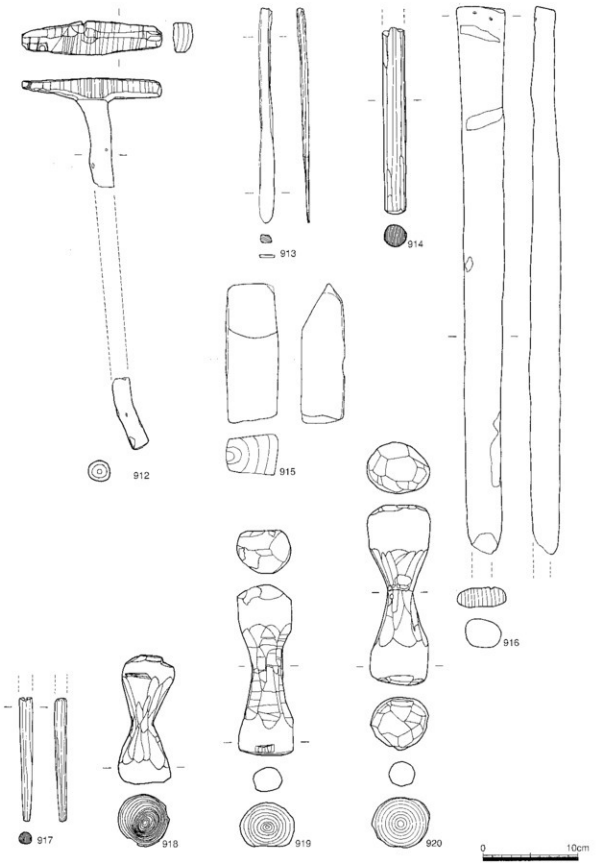
第302図　南区（2005年度1区）SR3001Ⅳ層出土木製品（食事具・文房具・祭祀具・雑具）



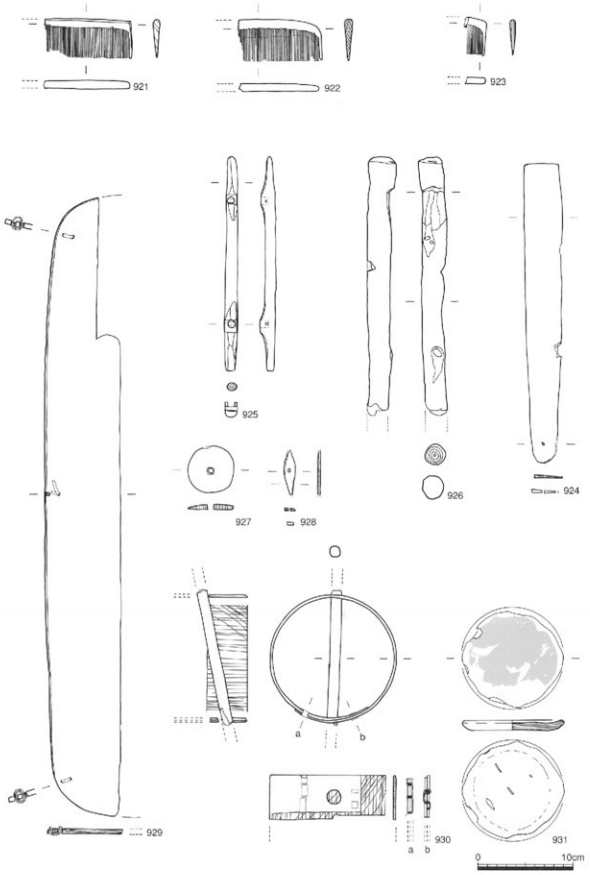
第303図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅳ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅳ層出土遺物（第300～303図）

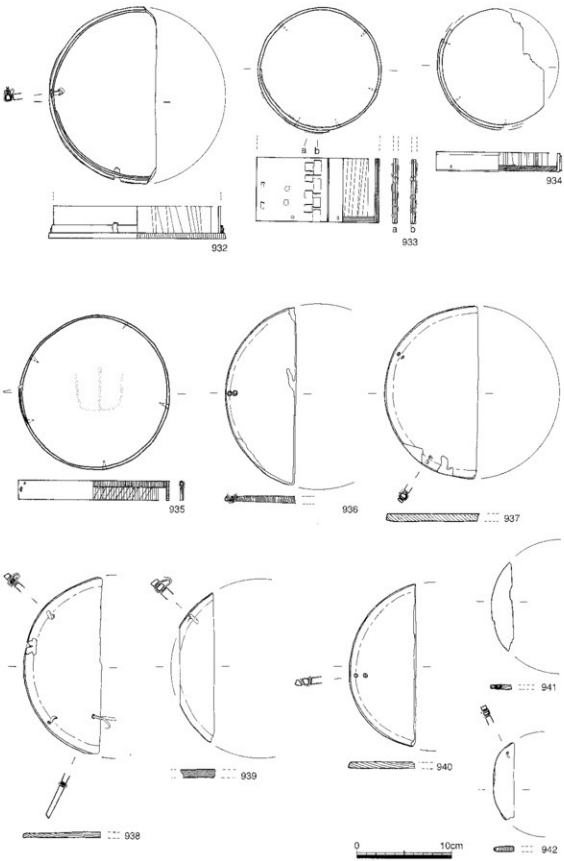
木製品は32点を図化した。874は篦である。875は木錘である。876は檜扇である。877は刻歯式横櫛である。878～882は円形曲物の底板である。883は容器の挽物である。縦木取りの製品であり、内外面に削り痕が多数見られる。884は曲物の側板である。885は箸である。886は食事具の組である。889は刀子形である。890、891は祭祀具の正面全身人形である。890は肩から上を人形のように作り、下端部は斎串のように尖らせる。892は祭祀具の側面全身人形である。三角形の抉りにより、首と頭部の烏帽子を表現している。893は棒状祭祀具である。894は鳥形である。墨で羽毛を表現している。895～904は斎串である。905が棒状祭祀具を火付棒にしたものか。土器は６点を図化した。906は須恵器の壺である。907、908は土師器の皿である。909、910は墨書土器である。909は土師器の皿の底部外面に刺犬文字の「天」に類似した文字を墨書する。910は土師器の小破片で文字の判読はできない。911は土錘である。



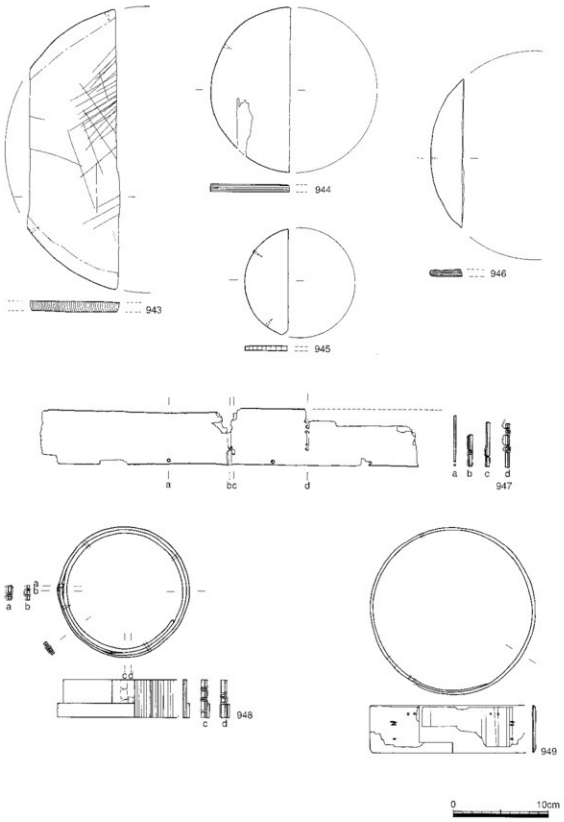
第304図　南区（2005年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（工具・農具）



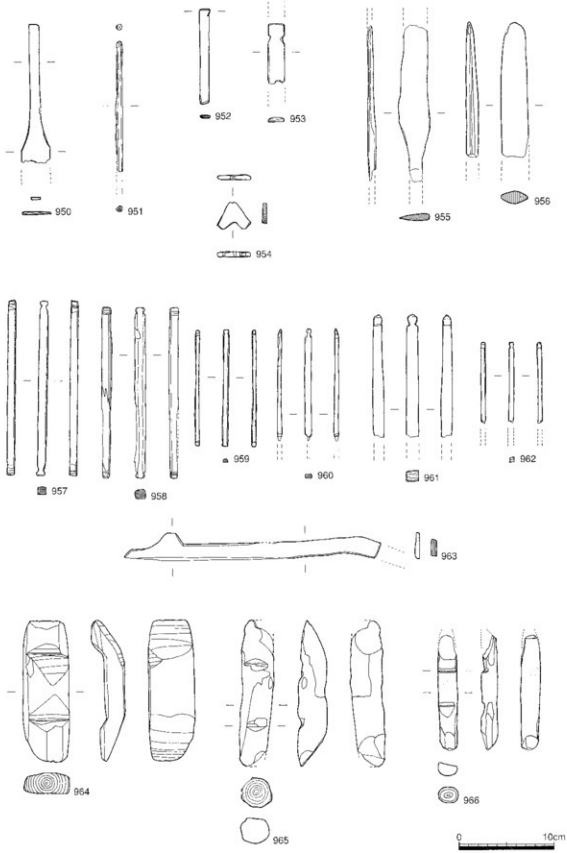
第305図　南区（2005年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（紡織具・服飾具・容器）



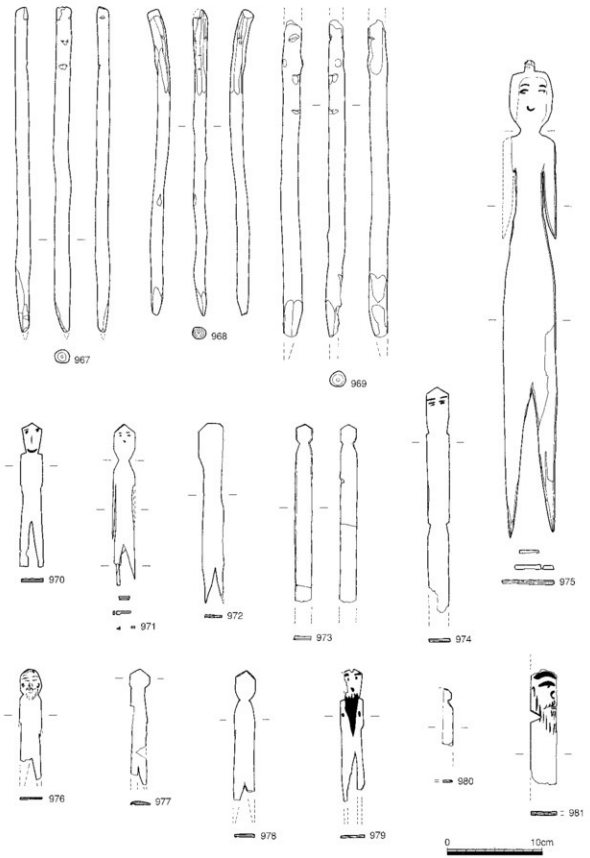
第306図　南区（2005年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（容器）（１）



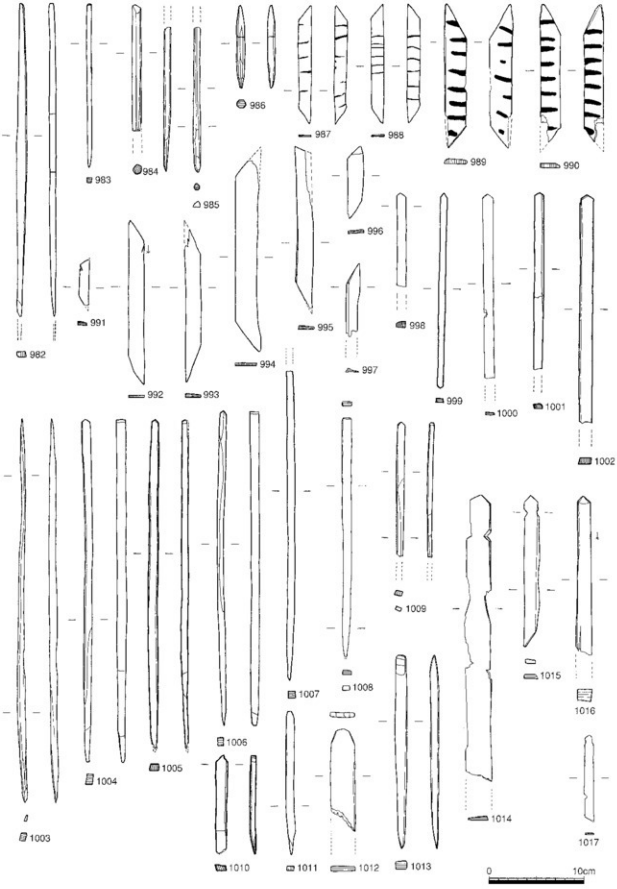
第307図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（容器）（２）



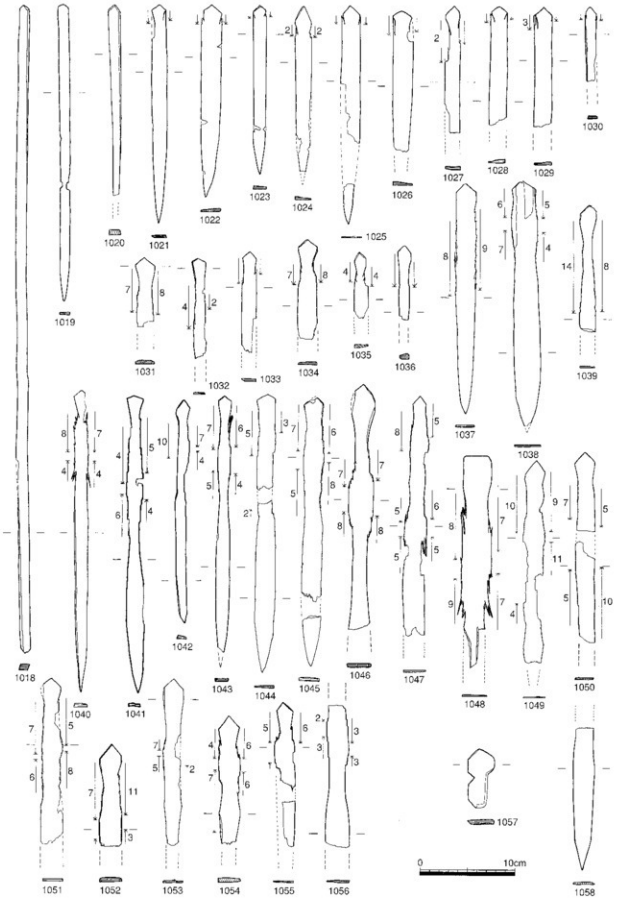
第308図　南区（2005年度1区）SR3001V層出土木製品（食事具・文房具・遊戯具・祭祀具）



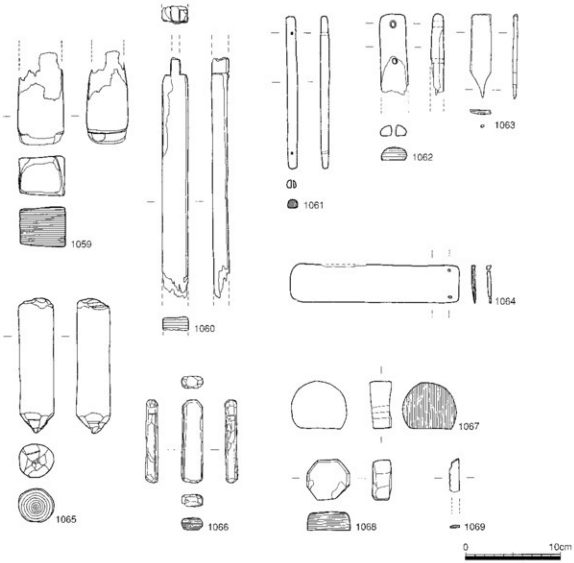
第309図　南区（2005年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（祭祀具）（１）



第310図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅴ層出土木製品（祭祀具）（２）



第311図　南区（2005年度1区）SR3001V層出土木製品（祭祀具）（3）

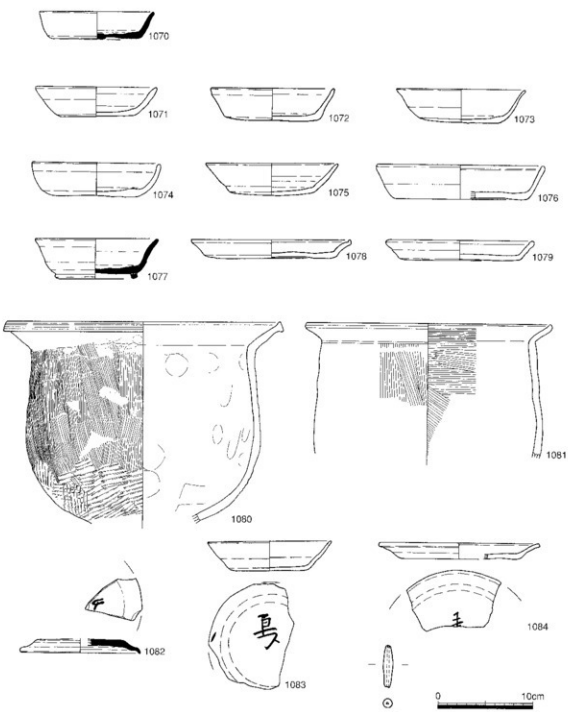


第312図　南区（2005年度１区）SR3001Ｖ層出土木製品（用途不明）

自然流路（SR3001）Ｖ層出土遺物（第300、304～313図）

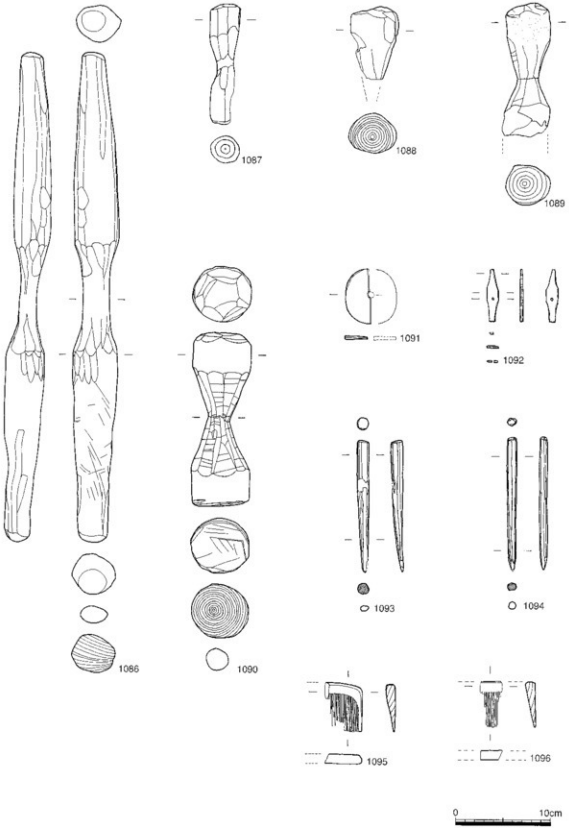
木製品は158点を図化した。912は工具の斧柄である。斧台は長台形で細かい削りにより成形している。913は篦である。914、916は柄である。915は楔である。917は馬鍬である。918～920は木錘である。921～923は刻歯式横櫛である。924は櫛扉である。925は糸巻枠木である。926は経巻具である。927は紡輪である。928は糸巻横木である。929は楕円形曲物の底板である。930は容器の柄杓である。931は挽物の皿である。932～935は円形曲物の蓋板と側板である。935は表面に「山」の焼き印がある。936～946は円形曲物の底板である。947～949は円形曲物の側板である。948には箍が残存する。950は杓子である。951は箸である。954は琴柱である。955、956は刀形である。957～962は紡織具形である。963は祭祀具の鳥形か。964～966は舟形である。967～969は円筒状人形である。970～981は正面全身人形である。975は薄い板材を切り込んで頭、手、足を成形している。墨書により髪、目、唇を表現する。979は長い頭髪が描かれている。981は首に抉りがあり、墨書で顔を表現している。中央から半裁され顔の左半分のみ残存する。982～986は棒状祭祀具である。987～1058は斎串である。987～990は台形状を呈し、両面に横状の墨書がある。『観音寺遺跡Ⅰ』（財徳島県埋蔵文化財センター 2002）では木簡44号、46号とし

たものに類似している。987と988は外形、断面形状ともに類似する。厚めの板で斎串の形を作っておき、薄く水平方向に割ることで、複数のものを生産した可能性がある。1059、1060は支脚である。土器は16点を図化した。1070、1077は須恵器の杯である。1071～1076は土師器の杯である。1078、1079は土師器の皿である。1080、1081は土師器の甕である。1082～1084は墨書土器である。1082は須恵器の杯蓋の外面の天井部に「少」と墨書する。1083は土師器の杯の底部外面に「安人」と墨書する。1084は土師器の皿である。底部外面に墨書の一部が見える。

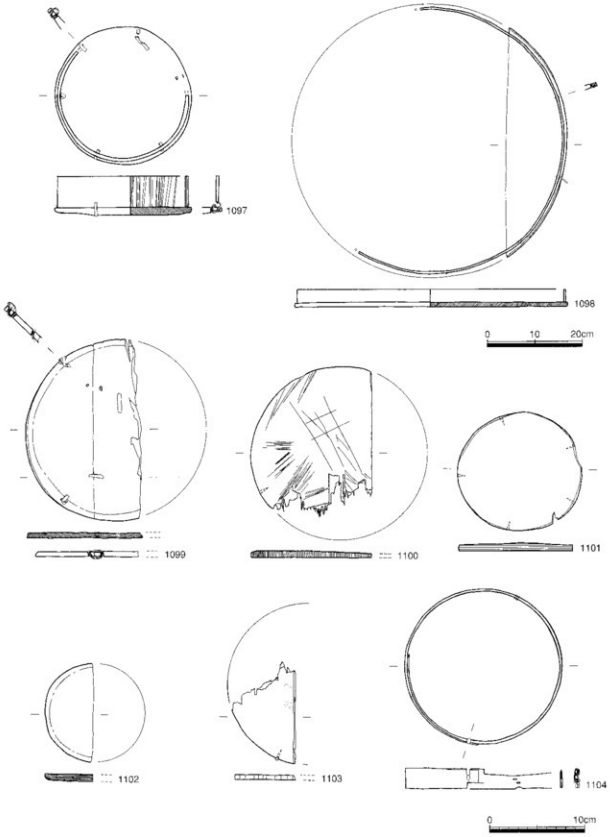


第313図　南区（2005年度１区）SR3001Ｖ層出土遺物

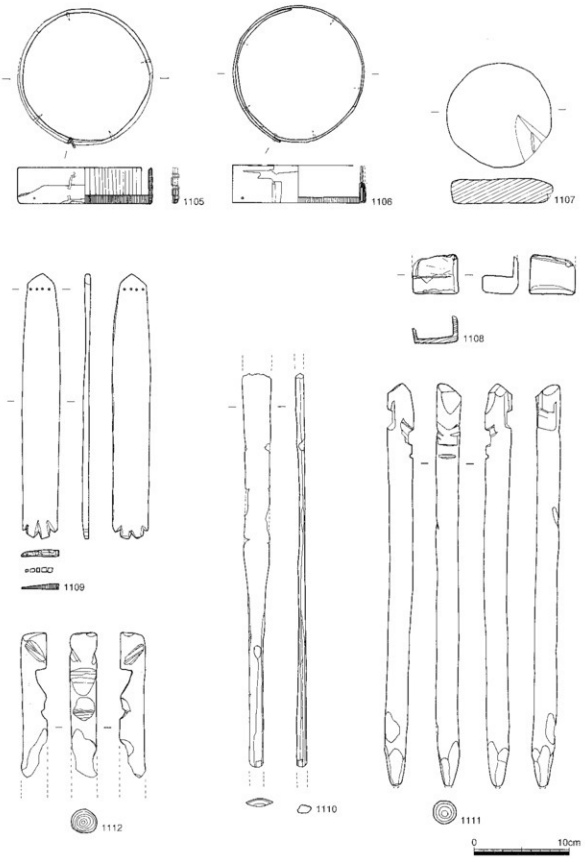
第314図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅵ層・Ⅷ層遺物出土状況ドット図



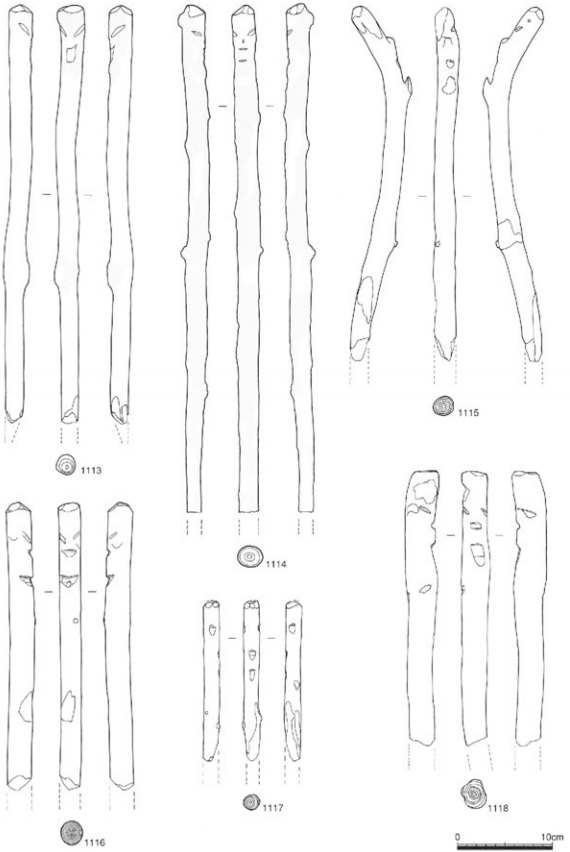
第315図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅵ層出土木製品（農具・紡織具・服飾具）



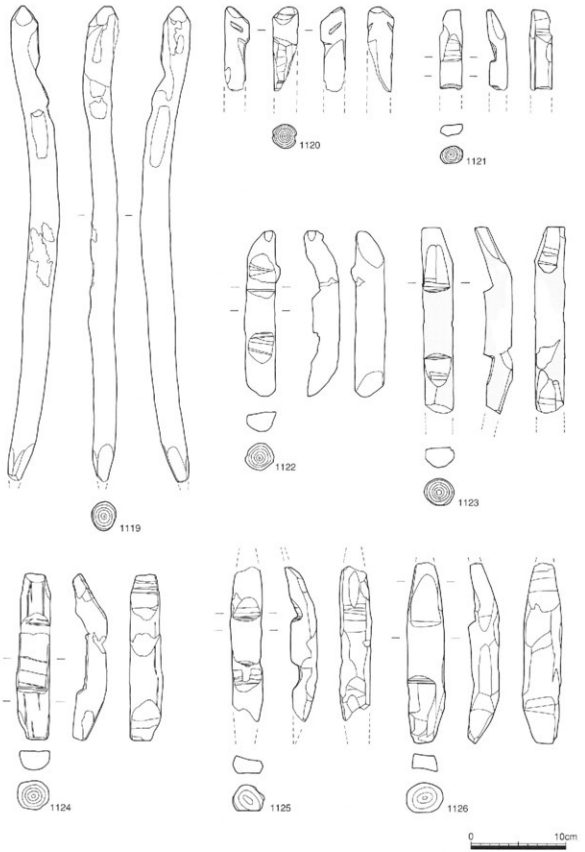
第316図　南区（2005年度1区）SR3001Ⅵ層出土木製品（容器）



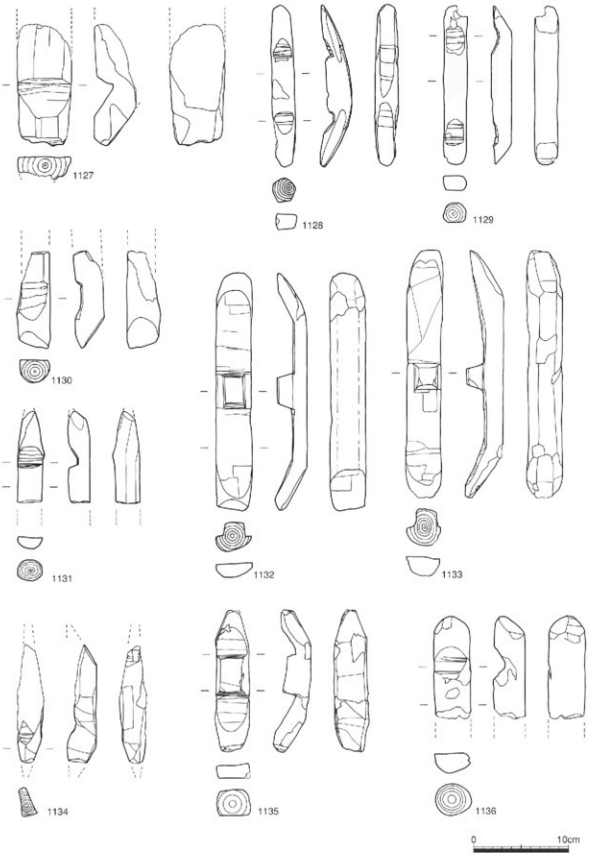
第317図　南区（2005年度1区）SR3001Ⅵ層出土木製品（容器・遊戯具・祭祀具）



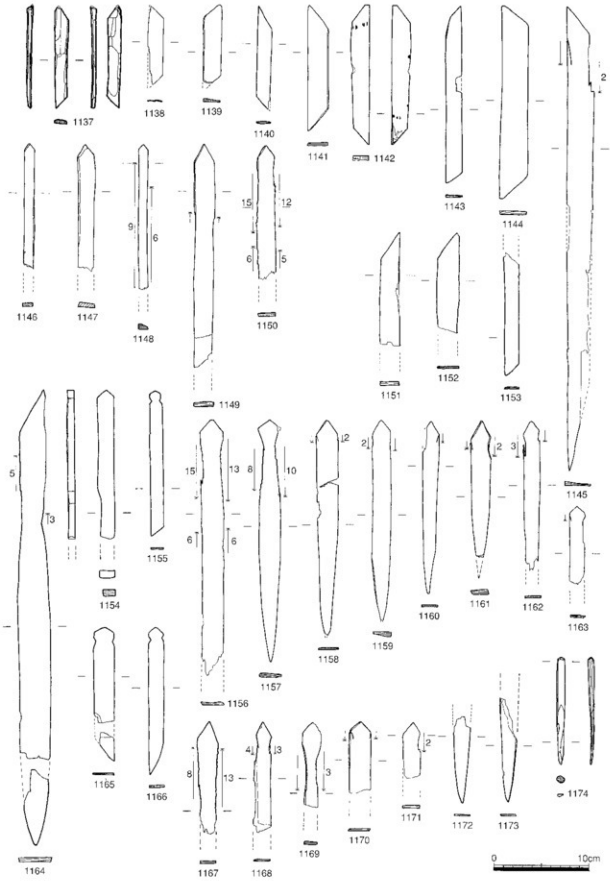
第318図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅵ層出土木製品（祭祀具）（１）



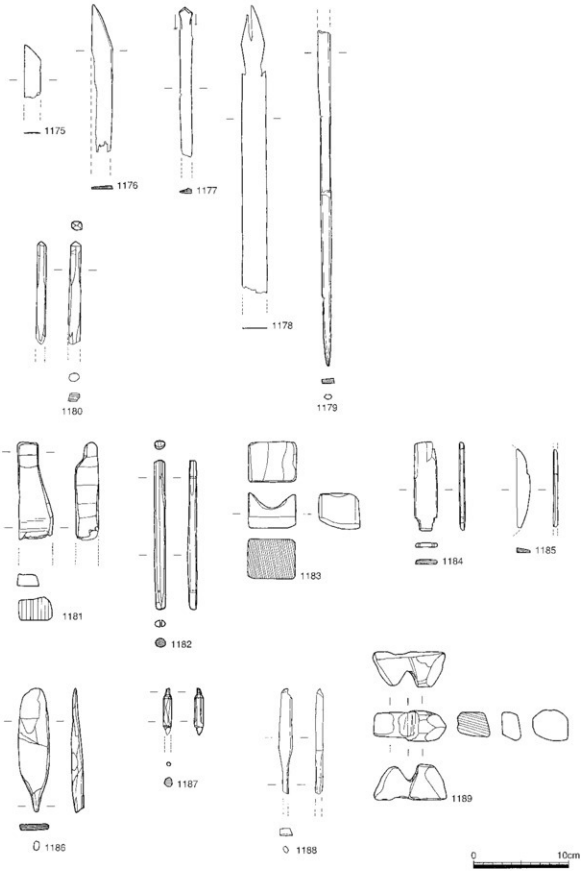
第319図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅵ層出土木製品（祭祀具）（２）



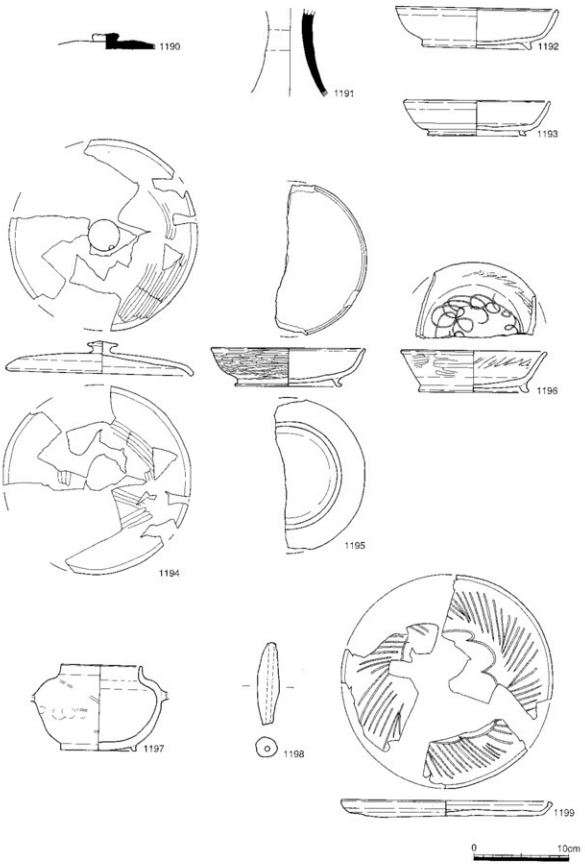
第320図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅵ層出土木製品（祭祀具）（３）



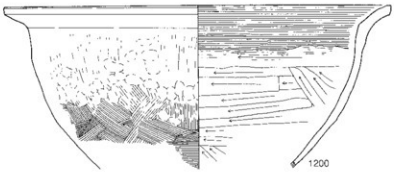
第321図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅵ層出土木製品（祭祀具）（４）

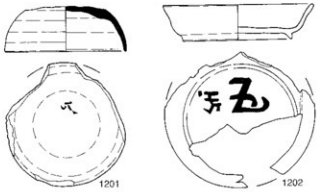


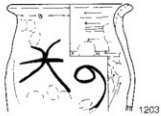
第322図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅵ層出土木製品（容器・祭祀具・部材・用途不明）



第323図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅶ層出土遺物（１）



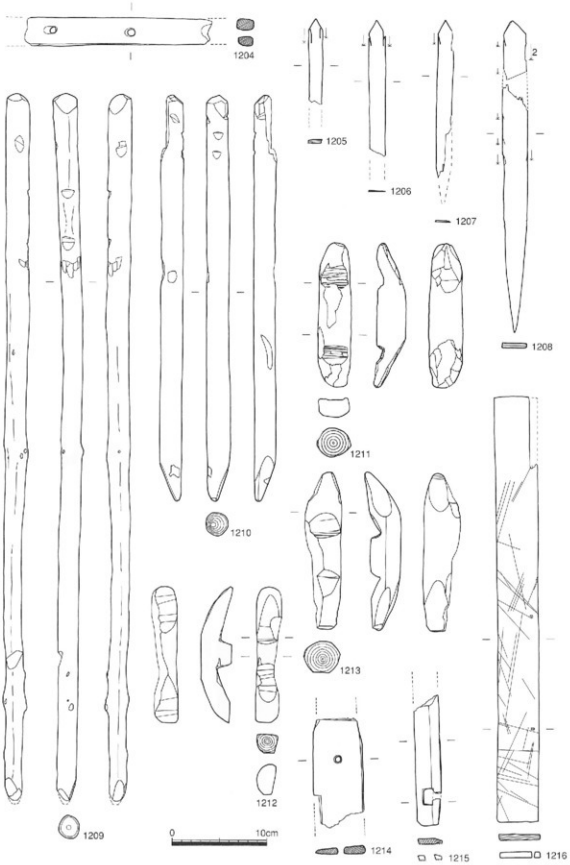




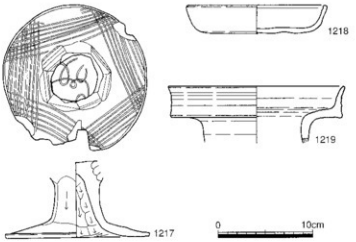
第324図　南区（2005年度1区）SR3001Ⅵ層出土遺物（2）

自然流路（SR3001）Ⅵ層出土遺物（第314～324図）

木製品は99点を図化した。1086は農具の啄杵である。辺材の中央部分を細く削り掘り部分を成形している。1087～1090は木錘である。1091は紡輪である。1092は糸巻横木である。1093、1094は留針である。1095、1096は刻歯式横櫛の破片である。1097、1098、1105、1106は円形曲物の底板と側板が結合したものである。1099～1104は円形曲物の底板である。1103の曲物の底板は内面の2カ所に焼き印がある。1107は容器の蓋板である。1108は槽の一部である。1109は遊戯具の琴である。上部に4孔の集弦孔と下部に4突起の撥形を成形している。1110は剣形である。1111～1120は円筒状人形である。1121～1136は舟形である。1137～1180は斎串である。土器は14点を図化した。1190は須恵器の杯蓋である。1191は須恵器の高杯である。1192、1193、1195、1196は土師器の杯である。1196は底部内面に螺旋状暗文が施される。1194は土師器の杯蓋である。1197は土師器の壺である。1198は土錘である。1199は土師器の皿である。底部内面の中央にらせん状暗文、周辺に放射状暗文が施されている。1200は土師器の鍋である。1201～1202は墨書土器である。1201は須恵器の杯蓋の内面に墨書があるが、文字の判読はできない。1202は土師器の杯である。底部外面に「是小□」と記す。1203は刻書土器である。土師器の甕の外面にスイジカイ＋勾玉模様を彫る。



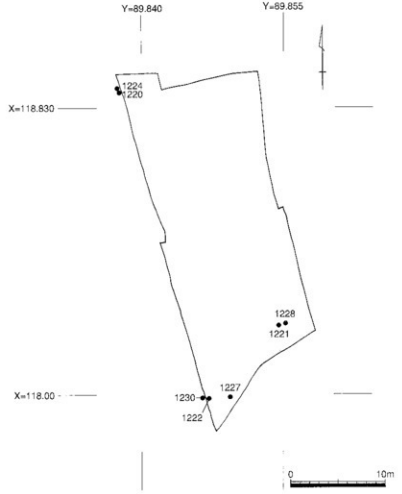
第325図　南区（2005年度１区）SR3001Ⅶ層出土木製品（農具・祭祀具・部材）



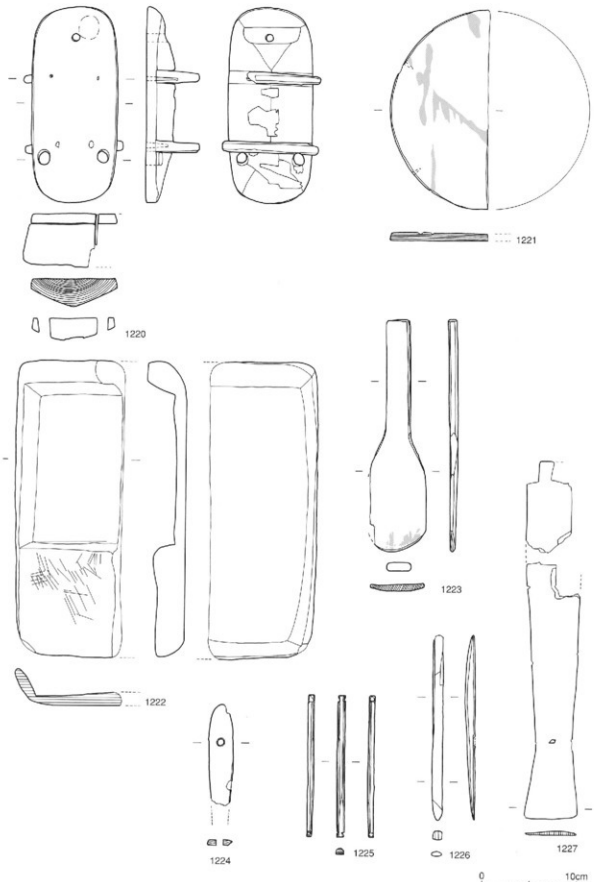
第326図　南区（2005年度１区）
SR3001Ⅶ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅶ層出土遺物
（第314、325、326図）

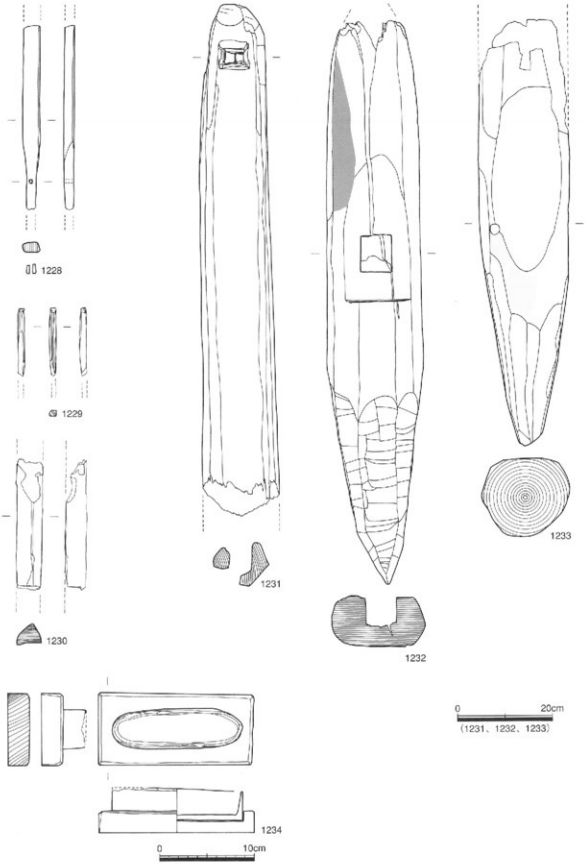
本製品は13点を図化した。1204は馬鍬である。1205～1208は斎串である。1209、1210は円筒状人形である。1211～1213は舟形である。土器は３点を図化した。1217は土師器の高坏である。杯部の内面と脚部の外面に暗文が施される。1218は土師器の杯である。



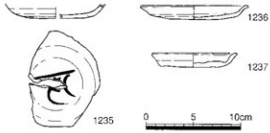
第327図　南区（2005年度１区）SR3001遺物出土状況ドット図



第328図　南区（2005年度1区）SR3001出土木製品（服飾具・容器・食事具・文房具・祭祀具）



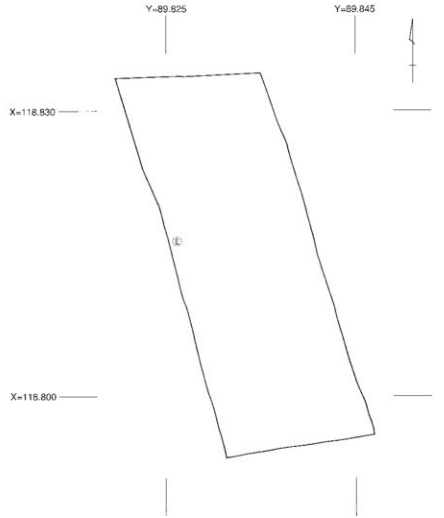
第329図　南区（2005年度1区）SR3001出土木製品（部材・建築部材・杭・用途不明・その他）

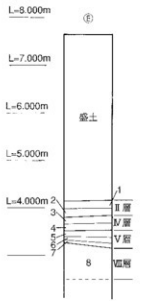


第330図　南区（2005年度１区）SR3001出土遺物

自然流路（SR3001）出土遺物（第327～330図）

木製品は15点を図化した。1220は差歯下駄である。左足用で親指による圧痕が見られる。1221は円形曲物の底板である。内面に漆が残存している。1222は容器の槽である。1223は食事具の杓子である。身部の先端に漆が残存している。1225は紡織具形である。1226は棒状祭祀具である。1231は建築部材の柱である。上部にほぞ穴がある。1232は杭である。中央部にほぞ穴がある。土器は３点を図化した。1235は墨書土器である。土師器の杯の底部外面に墨書が見られる。1236、1237は土師器の皿である。

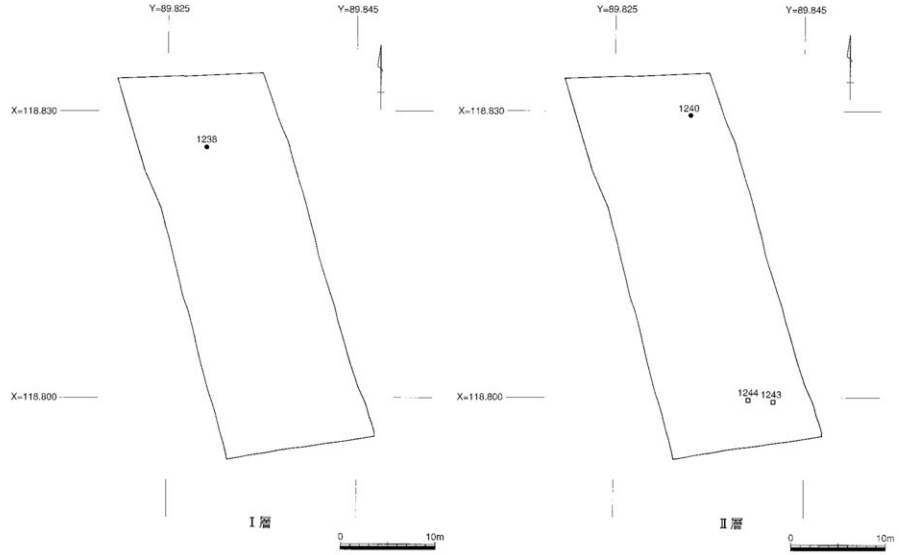




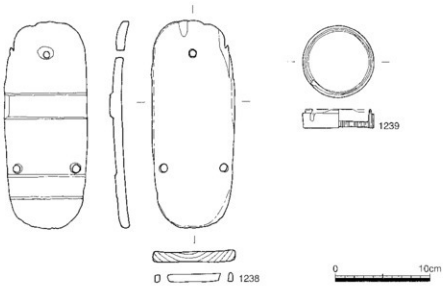
1	5Y3/2	オリーブ黒	粘質シルト
2	2.5Y2/2	黒褐	粘土
3	5Y4/2	灰オリーブ	粘質シルト
4	5Y3/1	オリーブ黒	粘質シルト
5	5Y4/1	灰	粘質シルト
6	5Y4/1	灰	粘土
7	5Y4/1	灰	粘土
8	10Y3/1	オリーブ黒	細砂

0 2m

第331図　南区（2005年度2区）調査区平面図・土層柱状図



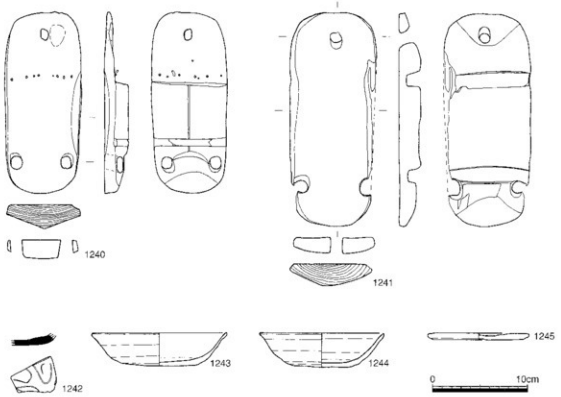
第332図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅰ層・Ⅱ層遺物出土状況ドット図



第333図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅰ層出土木製品（服飾具・容器）

自然流路（SR3001）Ⅰ層出土遺物（第332、333図）

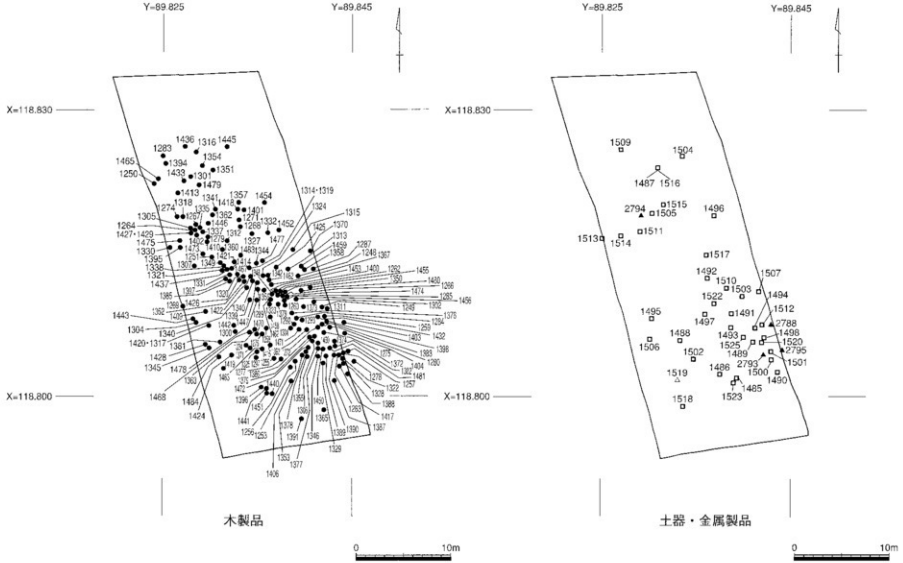
木製品は２点を図化した。1238は服飾具の連歯下駄である。右足用で台に浅い圧痕がある。1239は合子である。外面に赤漆、内面に黒漆が塗布されている。



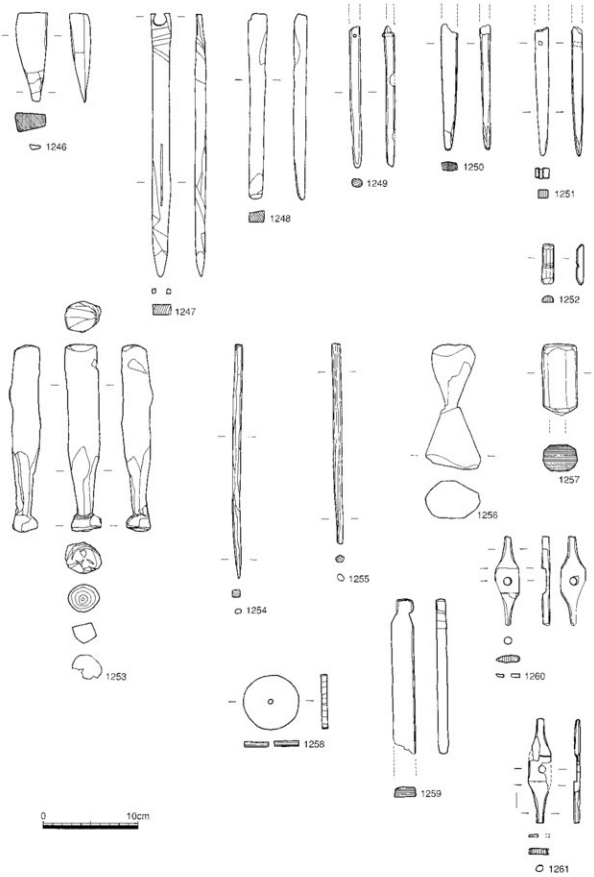
第334図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅱ層出土遺物

自然流路（SR3001）Ⅱ層出土遺物（第332、334図）

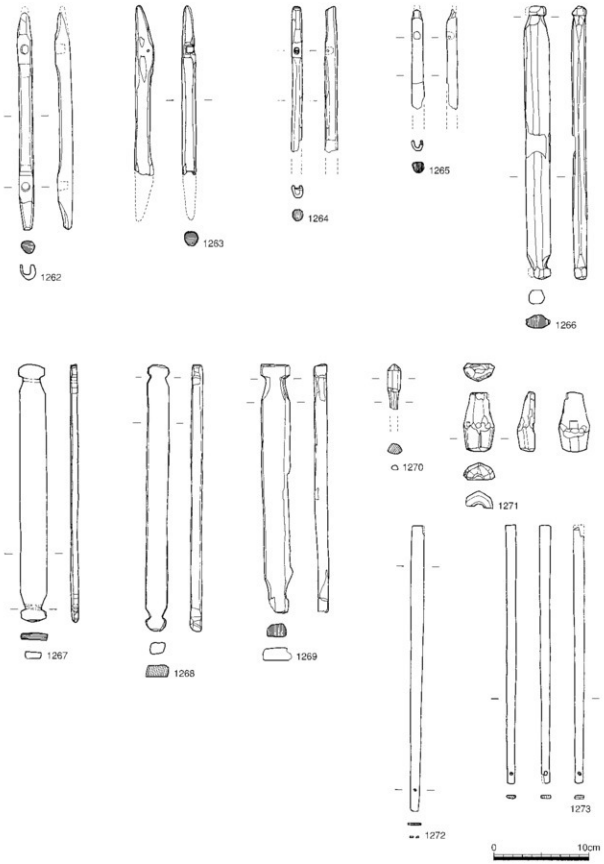
木製品は２点を図化した。1240、1241は服飾具の差歯下駄である。いずれも左足用である。土器は４点を図化した。1242は刻書土器である。須恵器の杯の小破片に線刻で模様を彫る。1243、1244は土師器の杯である。1245は土師器の皿である。底部に内面からの穿孔がある。



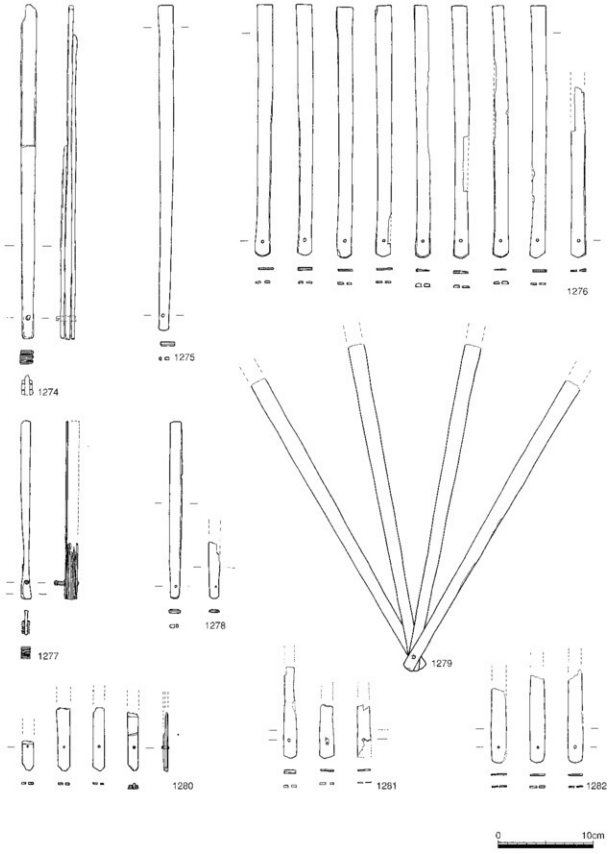
第335図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅲ層遺物出土状況ドット図



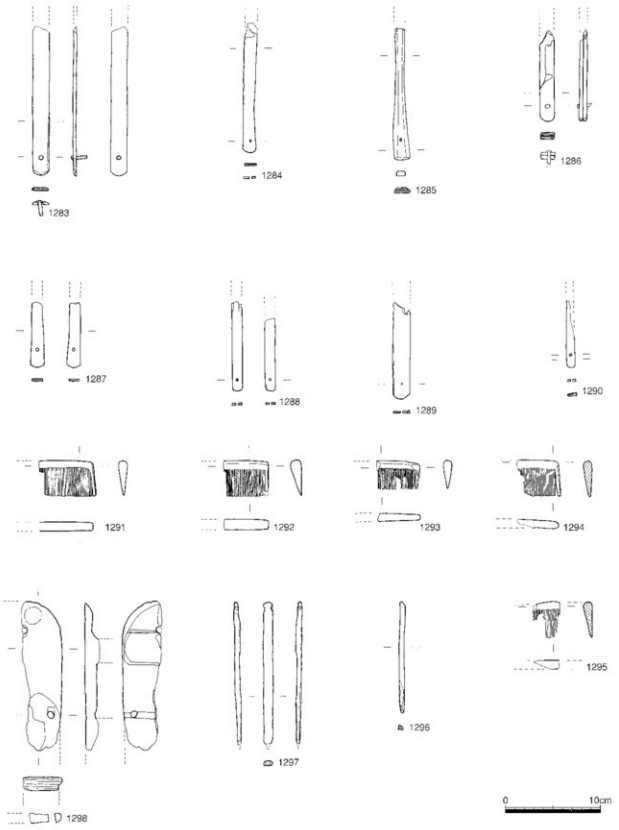
第336図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅲ層出土木製品（工具・農具・紡織具）



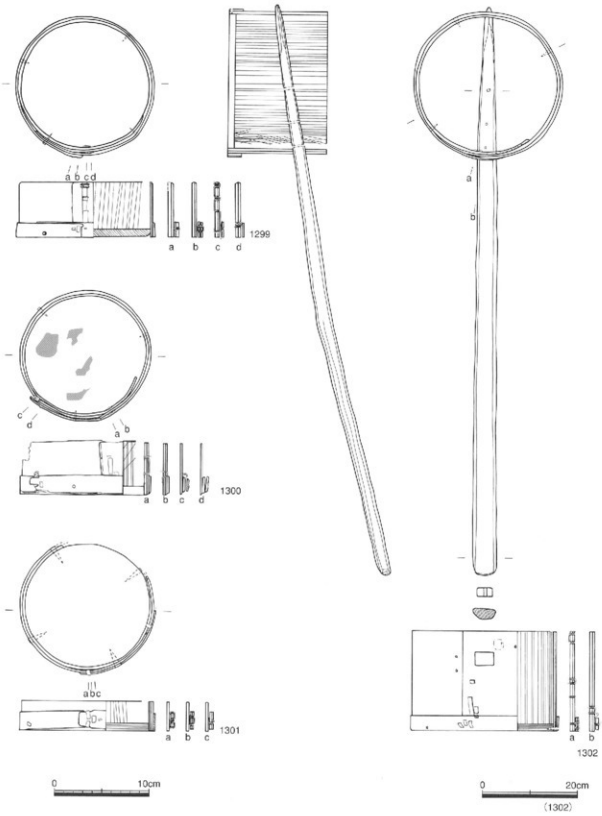
第337図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅲ層出土木製品（紡織具・武器・服飾具）



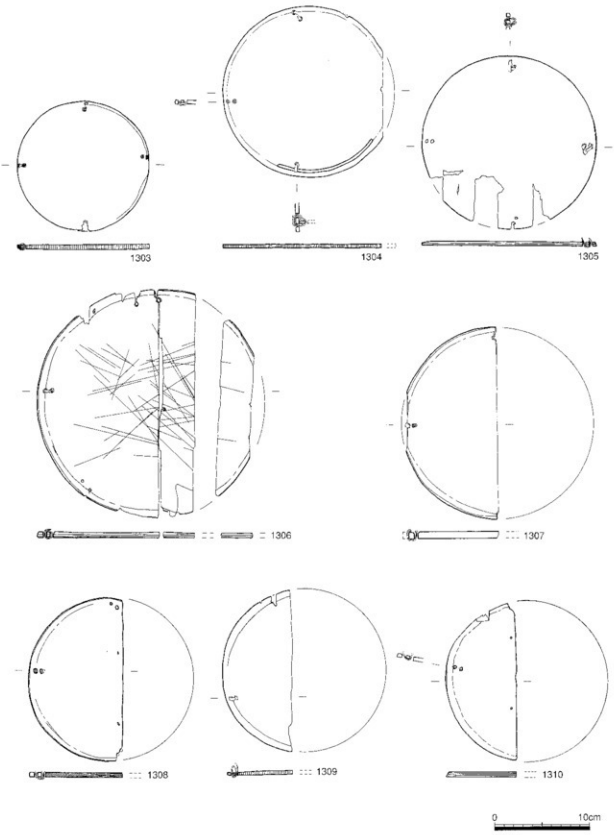
第338図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅲ層出土木製品（服飾具）（１）



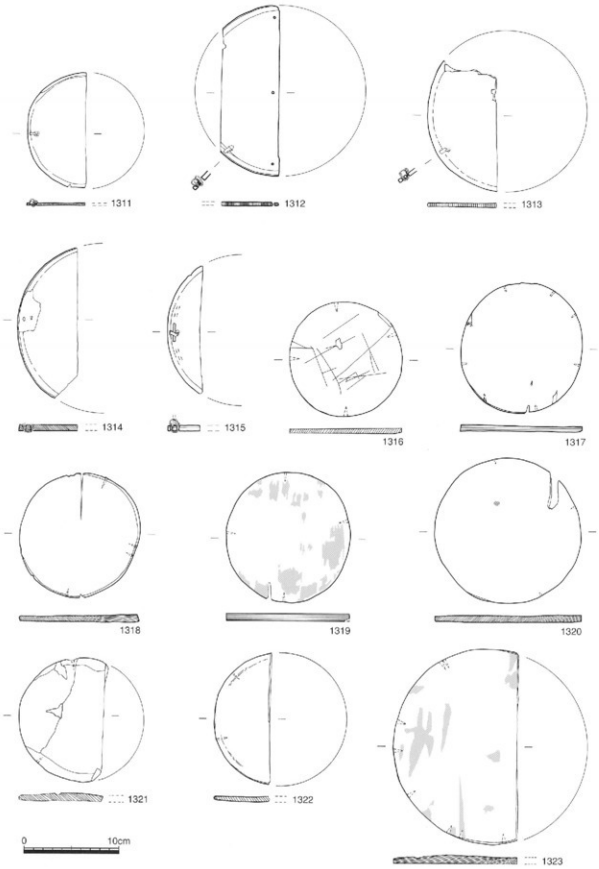
第339図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅲ層出土木製品（服飾具）（２）



第340図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅲ層出土木製品（容器）（１）



第341図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅲ層出土木製品（容器）（２）



第342図　南区（2005年度２区）SR3001Ⅲ層出土木製品（容器）（３）